

平成24年度  
授業改善のための学生アンケート報告書

－ 全体集計 －

第I部

平成25年3月

拓殖大学 FD委員会



## はじめに

現代社会の大学教育に対する厳しい評価に対応し、斬新で充実した教育実現への要望に応えるために、我が国の多くの大学で学生アンケートを実施し、その授業改善への活用がなされております。

本学では、他大学に先駆けて全学的な「授業改善のための学生アンケート」を実施してきました。アンケート結果にもとづく学生の意見や授業効果を分析し、これらを各種の教育改善につなげ、学生の学修意欲を高め、効果的学修を促進し、国際化、情報化などにも対応する教育方法の工夫・改善等に、積極的に取り組んでまいりました。

また、平成19年度からは、各学部の「FD委員会」に加えて、全学的な「FD委員会」を設置し、アンケート結果に基づいた授業改善の方策を検討しております。

本報告書は、平成24年度に実施した「授業改善のための学生アンケート」について、「全体集計」（第Ⅰ部）と、「科目別集計」（第Ⅱ部）の2分冊としました。第Ⅱ部には「科目別集計（個表）」の形で授業評価に参加した全教員のデータとともに、学生の主な意見、ならびにこれに対する担当教員の所見を掲載しています。さらに、「分野別集計」を加え、学部・学科目別にきめ細かな評価分析を試みております。

本報告書を活用し、教員各位が今回のデータを過去のデータと比較検討し、他の教員や他学部の状況をも参考にしながら、今後の改善に役立てて下さるようお願いします。

大学・学部の教育目標の達成を目指して、学生の効果的学修のため、教育方法を工夫・改善されるようお願いいたします。

平成25年3月

拓殖大学 学長  
渡 辺 利 夫



# 目 次

はじめに

## I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針	3
2. 実施状況	3
3. 集計結果の概要	3
4. 今後の課題	5

## II 実施状況

1. 実施期間	7
2. 実施教員数	7
3. 実施科目数	8
4. アンケート回答数（延べ人数）	8
5. 学科目別実施科目数	8

## III 全体集計

1. 学科目別（講義等科目）平均値・標準偏差	1 1
2. 教員所属別（講義等科目）平均値・標準偏差	
(1) 専任教員所属別	1 2
(2) 講師(非常勤)所属別	1 3
3. 履修登録者数別比較表	1 4
4. 設問項目ごとの集計結果（年度比較）	
(1) 学科目別平均値	
①商学部専門科目	1 5
②政経学部専門科目	1 6
③外国語学部専門科目	1 7
④工学部専門科目（講義等科目、実験・実習科目別）	1 8
⑤国際学部専門科目	2 0
⑥教養教育科目	2 1
⑦外国語科目	2 2
⑧スポーツ・トレーニング科目	2 3
⑨教職・社教・日語科目	2 4
⑩ゼミ・外書講読科目	2 5
⑪全体（講義等科目）	2 6
(2) 学生所属別平均値・標準偏差（講義等科目）	
①学年別	2 7
②学科別	2 8
(3) 満足度平均値	
①学科目別	3 0

②所属別	-----	3 1
③身分別	-----	3 2
④年齢別	-----	3 3
5. 学科目別 回答の分析	-----	3 4
6. 学部設問項目 平均値・標準偏差	-----	3 8

#### IV コース・分野・学科別集計

1. 商学部専門科目 (コース別)	-----	4 1
2. 政経学部専門科目 (分野別)	-----	4 2
3. 外国語学部専門科目 (学科別)	-----	4 3
4. 工学部専門科目		
(1) 実験・実習科目 (学科別)	-----	4 4
(2) 学科・学科目別 (講義等科目)	-----	4 5
5. 国際学部科目		
(1) 英語群	-----	4 6
(2) 地域言語群	-----	4 7
(3) 基礎科目群	-----	4 8
(4) 専門共通科目	-----	4 9
(5) 専門コース科目	-----	5 0
6. 教養教育等科目		
(1) 講義等科目 (群別)	-----	5 1
(2) 外国語科目 (1 2カ国語)	-----	5 2
(3) スポーツ・トレーニング科目	-----	5 3
(4) 教職課程・社会教育主事講座科目、日本語教員養成基礎講座科目	-----	5 4

#### V 評価及び課題

1. 商学部	-----	5 7
2. 政経学部	-----	6 1
3. 外国語学部	-----	6 9
4. 工学部	-----	7 7
5. 国際学部	-----	8 6
6. 教養教育	-----	9 2
7. 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目	-----	1 0 8

#### 参考資料

実施要領	-----	1 1 3
アンケート様式	-----	1 1 7
科目別集計様式	-----	1 2 3

## I 学生アンケートの実施について





## 1. 経緯と実施方針

本学では、大学設置基準の大綱化、自己点検・評価の導入等を踏まえ、平成4年4月、大学自身の責任において教育研究活動を点検・評価し改革・改善を進める目的で拓殖大学自己評価委員会（現「拓殖大学自己点検・評価委員会」）を設置し、自己点検・評価活動を進めることとした。

平成6年度には、はじめて全学的な「学生による授業評価」を実施し、以後平成10年度まで毎年継続してきた。

平成11年度は、授業評価は実施せず、実施方法の改善、評価項目の見直し、活用方法の改善についての検討を行った。その結果に基づき、平成12年度からは、①専任、非常勤を問わず全教員が実施する、②結果は学内に公開する、③結果を各学部で組織的に活用して授業改善に努める、との基本方針に基づく新方式の「学生による授業評価」を実施することになった。

平成16年度には、それまでの経験を踏まえて設問項目の全面的な見直しを行った。さらに、アンケート用紙を講義科目、スポーツ・トレーニング科目、工学部実験・実習科目の3種類に分けることとし、名称も「学生による授業評価」から「授業改善のための学生アンケート」へと変更した。

平成17年度には、さらに、分野別集計において、専門科目については各学部の学科あるいはコース別に細かく分類して集計すること、教養教育科目については第1群から第12群までの群ごと（第11群の外国語科目については言語ごと）に集計すること、教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目についてもそれぞれに集計すること、などの改善を図った。

さらに今年度は、中央教育審議会の審議まとめをうけて、講義科目の設問項目を見直し、予習・復習の学習時間及び講義要項に沿った授業展開等を加えた。

## 2. 実施状況

平成24年度の「授業改善のための学生アンケート」においては、専任教員では、対象となる教員245名の全員が実施し、講師(非常勤)については、対象者389名が実施し、2名実施しなかった（前年度は専任教員、講師（非常勤）それぞれ1名実施せず）。したがって全体の実施率は前年度同様、99.7%である。

実施科目数は専任教員で530科目（前年度は551科目）、講師(非常勤)で750科目（前年度は712科目）、合計1,280科目（前年度は1,263科目）で、前年度とほぼ同じであった。学生からの回答数は39,286件（前年度は47,535件）で、前年度より8,249件減少している。

## 3. 集計結果の概要

全体の「満足度」は4.02（昨年度3.92）で、後期に実施した平成22年度（3.95）と比べ、微増となり、本アンケート実施以来初の4点代となった。ただし全体の平均値だけで本学の授業の実態を把握することはできない。学部や授業科目の種類によって学生

の「満足度」が大きく異なるからである。たとえば教員の学部別でみると、外国語学部がもっとも高く、国際学部がそれに次ぎ、工学部がもっとも低い。授業科目の性格でみると、スポーツ・トレーニング科目が群を抜いて高く、次いでゼミ・外書講読、外国語学部専門科目、さらに教職関係科目や各学部の外国語科目、教養科目と続いて、商学部専門科目及び国際学部専門科目が同じ満足度で、政経学部専門科目、そして最下位が工学部専門科目となっている。

こうした評価の差は、学問分野の違いや、授業の中身や形態の違いに起因するところが多い。それに関連するが、学生の評価は、履修登録者数や授業の規模の違いによっても大きく左右される。たとえば、履修登録者数別比較表（16 ページ）でみると、履修登録者数が 100 名以上になると「Ⅱ授業の内容や進め方について」のすべての項目について評価が段階的に下がる傾向がみられたが、ここ数年、大人数科目の一部が上昇する傾向が見られ、今年度は 201 ～ 300 人規模の授業についての評価が上昇した。平成 22 年度の同時期に実施した調査では、301 人以上が上昇していたことから、実施規模、教育内容等について今後分析解明する必要がある。

学生の学年別にみると、高学年になればなるほど「満足度」が高くなる傾向がみられる。また、実施時期の違い（前期・後期）によっても数値は大きく異なる傾向があり、今年度は後期に実施したことから、前年比大幅上昇となった。その他、授業の「難易度」、あるいは「進度」が速すぎると考える学生は、前年比及び高学年になるほど減少する傾向にある。このことは大学入学時における適切な初年次教育が重要であることを示すものといえるだろう。

教員の身分別でみると、特別非常勤講師がもっとも高く、講師（非常勤）、准教授、教授、助教の順に満足度が高い。これをどう考えたらよいのか。

今年度から設問事項に追加した項目について言うと、「予習・復習」の平均値については、ゼミ・外書講読、外国語学部専門科目、外国語科目が 2 点代（平均 30 分以上 1 時間以内）で、他は 1 点代（30 分以下）であった。一方、「宿題・課題」の平均値では、ゼミ・外書講読、工学部専門科目、外国語学部専門科目が 3 点代、他は 2 点代で、「質問」の平均値については、ゼミ・外書講読を除いて 1 点代であった。学生にオフィスアワーの活用を奨励し、各科目に対する疑問点等を解決させ、学問への興味を持たせるとともに、これらの時間を含めた 1 単位の実質学習時間（計 45 時間）を確保する方策を今後全学的に検討・改善をする必要がある。一方、大教室ほど学習時間確保および宿題・課題の管理が難しいことも考慮しなければならない。

「満足度」以外の項目についても、学問分野や授業の内容・形態によって学生の評価は異なってくる。本報告書の「Ⅴ 評価と課題」（41 ページ以降）において、各学部あるいは学科目別の詳細な分析結果と今後の課題がとりまとめられているので、ぜひそちらを熟読してほしい。

#### 4. 今後の課題

「授業改善のための学生アンケート」の目的は、文字どおり、その結果を活用して、授業内容・方法の改善に役立て、教育活動の充実に資することにある。そのためには、この集計結果をもとに、個々の教員がそれぞれの授業の改善に取り組むだけでなく、各学部のFD委員会を中心とした組織的な授業改善のための取組を強化する必要がある。これは、いままでもその努力はなされてきたし、各学部レベル、各教員レベルでの授業への対応にいろいろと苦慮しているようにも見える。その成果は各年度の報告書にも反映され、その結果から、本報告書における各学部の分析方法にも年々改善の跡がみられ、そうした実績を踏まえて、より充実強化を推進し、学生の目に見える形で授業の内容・方法の改善に結び付けていく必要がある。

学生の満足度、さらには教育効果も、授業規模と強い相関関係を有していることは明らかであり、大学としては、施設面や教員の確保などの点で種々の制約はあるにしても、長期的視点に立って授業の小規模化を進める必要がある。

他方、いくら授業の小規模化を進めたところで、ただちに多人数の授業がなくなるわけではなく、また将来的にもすべての授業について外国語科目並みに受講者数を数十名規模にするということは、実現不可能なことである。

近年は、年度ごとに前期・後期のある時期に本アンケートを実施している。各期特有の問題点・改善点を分析評価した上で、今後の学部FDの充実強化を図ってほしい。

平成25年3月

拓殖大学 FD委員会

委員長 高橋 敏夫

## Ⅱ 実施状況

## 1. 実施期間

平成24年11月5日（月）～12月15日（土）

※予備 12月17日（月）～12月21日（金）

## 2. 実施教員数

### 1) 専任教員

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実施率（％）
商 学 部	48	48	0	100.0%
政 経 学 部	54	54	0	100.0%
外国語学部	38	38	0	100.0%
工 学 部	60	60	0	100.0%
国 際 学 部	34	34	0	100.0%
兼 担	11	11	0	100.0%
合 計	245	245	0	100.0%

（注）専任教員：教授、准教授、助教、特別非常勤講師

### 2) 講師（非常勤）

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実施率（％）
商 学 部	117	116	1	99.1%
政 経 学 部	117	116	1	99.1%
外国語学部	43	43	0	100.0%
工 学 部	49	49	0	100.0%
国 際 学 部	51	51	0	100.0%
兼 担	12	12	0	100.0%
合 計	389	387	2	99.5%

（注）講師（非常勤）：客員教授を含む

### 3) 全体

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実施率（％）
専 任 教 員	245	245	0	100.0%
講 師（非常勤）	389	387	2	99.5%
合 計	634	632	2	99.7%

### 3. 実施科目数

所 属	専任教員	講師(非常勤)	合 計
商 学 部	99	215	314
政 経 学 部	118	197	315
外 国 語 学 部	96	87	183
工 学 部	108	68	176
国 際 学 部	92	160	252
兼 担	17	23	40
合 計	530	750	1,280

### 4. アンケート回答数(延べ人数)

回答者の所属	1 年	2 年	3 年	4 年	無回答	合 計
商 学 部	3,393	2,535	2,094	987	18	9,027
政 経 学 部	3,298	3,116	3,023	1,394	26	10,857
外 国 語 学 部	1,164	682	607	182	17	2,652
工 学 部	2,261	2,033	1,986	100	79	6,459
国 際 学 部	3,136	3,110	1,133	246	105	7,730
無 回 答	100	130	93	34	2,204	2,561
合 計	13,352	11,606	8,936	2,943	2,449	39,286

(注) 「無回答」は、「所属学科」「学年」についての未記入を示す

### 5. 学科目別実施科目数

所 属	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼 担	合 計
商学部 専門科目	131	2				3	136
政経学部 専門科目	2	125		1		4	132
外国語学部 専門科目	2		111				113
工学部 講義				104			104
工学部 実験実習				23			23
国際学部 専門科目		1	1		66	5	73
教養科目・総合教育科目	45	29	22	6	30	7	139
外国語科目	113	113	34	32	152	20	464
スポーツ・トレーニング科目	6	18		2			26
教職・社教・日本語科目	4	14	7	8	4		37
ゼミ・外書講読	11	13	8			1	33
合 計	314	315	183	176	252	40	1,280

(注) 教養科目・総合教育科目：国際学部基礎科目を含む

外国語科目：英語、第2外国語、選択外国語、地域言語、留学生用の日本語

### Ⅲ 全体集計





1. 学科目別（講義等科目） 平均値・標準偏差

設問項目	区分	商学部 専門科目	政経学 部専門 科目	外国語 学部 専門科 目	工学部 専門科 目（講 義）	国際学 部専門 科目	教養科 目・総 合教育 科目	外国語 科目	教職・ 社教・ 日語科 目	ゼミ・ 外書講 読	全体
		科目数： (136)	科目数： (132)	科目数： (113)	科目数： (104)	科目数： (73)	科目数： (139)	科目数： (464)	科目数： (37)	科目数： (33)	科目数： (1231)
I-1	平均値	4.44	4.45	4.43	4.66	4.34	4.47	4.47	4.52	4.38	4.47
	標準偏差	0.29	0.22	0.36	0.17	0.25	0.32	0.28	0.22	0.39	0.29
I-2	平均値	3.99	3.97	3.82	3.62	3.68	3.68	4.02	4.16	3.75	3.90
	標準偏差	0.60	0.71	0.65	0.55	0.51	0.82	0.47	0.45	0.77	0.62
I-3	平均値	1.78	1.72	2.16	1.85	1.80	1.70	2.05	1.67	2.46	1.92
	標準偏差	0.44	0.37	0.59	0.39	0.34	0.49	0.48	0.44	0.66	0.50
I-5	平均値	1.64	1.53	1.66	1.74	1.76	1.60	1.76	1.70	2.34	1.71
	標準偏差	0.36	0.27	0.48	0.36	0.38	0.47	0.53	0.46	0.80	0.48
II-1	平均値	4.00	4.03	4.25	3.70	3.98	4.01	4.12	4.16	4.27	4.06
	標準偏差	0.44	0.40	0.39	0.47	0.38	0.54	0.43	0.36	0.39	0.45
II-3	平均値	4.02	4.08	4.23	3.80	4.02	4.05	4.11	4.21	4.23	4.08
	標準偏差	0.38	0.27	0.32	0.35	0.28	0.36	0.37	0.28	0.45	0.37
II-5	平均値	4.07	3.97	4.30	3.84	4.00	4.05	4.19	4.26	4.36	4.11
	標準偏差	0.48	0.52	0.45	0.51	0.43	0.55	0.47	0.38	0.39	0.50
II-6	平均値	3.99	4.02	4.24	3.80	4.04	4.04	4.13	4.10	4.25	4.07
	標準偏差	0.47	0.46	0.43	0.43	0.39	0.50	0.42	0.36	0.48	0.45
II-7	平均値	4.13	4.19	4.26	3.78	4.12	4.14	4.20	4.32	4.38	4.16
	標準偏差	0.47	0.40	0.47	0.50	0.36	0.47	0.43	0.38	0.59	0.46
II-8	平均値	2.43	2.40	3.01	3.02	2.45	2.49	2.85	2.58	3.02	2.72
	標準偏差	0.66	0.61	0.77	0.63	0.46	0.60	0.64	0.70	0.75	0.68
II-9	平均値	3.63	3.63	4.09	3.30	3.76	3.78	3.91	3.93	4.19	3.80
	標準偏差	0.42	0.39	0.37	0.43	0.40	0.50	0.44	0.37	0.35	0.48
II-10	平均値	3.64	3.70	3.93	3.34	3.88	3.76	3.75	4.00	4.29	3.75
	標準偏差	0.48	0.42	0.42	0.45	0.40	0.52	0.51	0.36	0.42	0.50
III	平均値	3.95	3.93	4.22	3.53	3.95	3.97	4.10	4.19	4.33	4.02
	標準偏差	0.48	0.44	0.42	0.50	0.42	0.56	0.48	0.38	0.46	0.51

○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.46	3.46	3.30	3.60	3.34	3.36	3.34	3.25	3.27	3.38
	標準偏差	0.31	0.25	0.33	0.29	0.22	0.32	0.33	0.20	0.32	0.32
II-4	平均値	3.24	3.21	3.14	3.33	3.16	3.19	3.16	3.08	3.08	3.19
	標準偏差	0.24	0.23	0.24	0.23	0.14	0.31	0.23	0.15	0.24	0.24

(注) I-4は、複数回答項目のため、「5. 回答の分布」を参照

## 2. 教員所属別（講義等科目）

### （1）専任教員所属別

設問項目	区分	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼任教員	専任教員全体	講師全体	全体
		科目数： (98)	科目数： (115)	科目数： (96)	科目数： (87)	科目数： (92)	科目数： (17)	科目数： (505)	科目数： (726)	科目数： (1231)
I-1	平均値	4.46	4.47	4.47	4.67	4.46	4.42	4.50	4.45	4.47
	標準偏差	0.25	0.25	0.35	0.16	0.24	0.22	0.27	0.30	0.29
I-2	平均値	3.94	4.08	3.81	3.64	3.94	3.64	3.88	3.91	3.90
	標準偏差	0.69	0.57	0.65	0.59	0.50	0.51	0.62	0.62	0.62
I-3	平均値	1.86	1.83	2.16	1.88	2.02	1.78	1.94	1.91	1.92
	標準偏差	0.54	0.45	0.63	0.47	0.50	0.46	0.53	0.48	0.50
I-5	平均値	1.69	1.65	1.73	1.75	1.91	1.72	1.74	1.68	1.71
	標準偏差	0.51	0.48	0.58	0.40	0.45	0.51	0.49	0.48	0.48
II-1	平均値	4.03	4.09	4.27	3.73	4.13	3.98	4.06	4.06	4.06
	標準偏差	0.40	0.43	0.39	0.46	0.39	0.55	0.45	0.46	0.45
II-3	平均値	4.08	4.13	4.22	3.84	4.13	3.99	4.08	4.07	4.08
	標準偏差	0.32	0.33	0.33	0.37	0.33	0.38	0.36	0.37	0.37
II-5	平均値	4.07	4.07	4.31	3.87	4.15	3.97	4.09	4.12	4.11
	標準偏差	0.42	0.56	0.45	0.50	0.40	0.74	0.50	0.50	0.50
II-6	平均値	4.04	4.06	4.25	3.86	4.17	4.02	4.08	4.07	4.07
	標準偏差	0.40	0.46	0.39	0.44	0.40	0.46	0.44	0.46	0.45
II-7	平均値	4.18	4.26	4.29	3.82	4.24	4.22	4.17	4.15	4.16
	標準偏差	0.38	0.43	0.44	0.48	0.40	0.43	0.45	0.47	0.46
II-8	平均値	2.57	2.46	2.99	3.08	2.85	2.47	2.76	2.69	2.72
	標準偏差	0.70	0.66	0.80	0.66	0.64	0.65	0.73	0.65	0.68
II-9	平均値	3.70	3.72	4.09	3.33	3.93	3.73	3.76	3.82	3.80
	標準偏差	0.43	0.47	0.36	0.45	0.38	0.43	0.48	0.47	0.48
II-10	平均値	3.70	3.76	3.97	3.36	3.98	3.85	3.76	3.74	3.75
	標準偏差	0.46	0.49	0.43	0.47	0.38	0.52	0.50	0.50	0.50
III	平均値	3.98	4.01	4.24	3.56	4.10	4.02	3.99	4.04	4.02
	標準偏差	0.46	0.48	0.42	0.49	0.41	0.50	0.50	0.51	0.51

#### ○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.47	3.39	3.32	3.60	3.37	3.33	3.42	3.36	3.38
	標準偏差	0.33	0.29	0.33	0.30	0.26	0.26	0.31	0.32	0.32
II-4	平均値	3.23	3.17	3.15	3.32	3.18	3.06	3.20	3.17	3.19
	標準偏差	0.25	0.20	0.23	0.23	0.17	0.12	0.22	0.25	0.24

（注）専任教員：教授、准教授、助教、特別非常勤講師

I-4は、複数回答項目のため、「5. 学科目別 回答の分布」を参照

(2) 講師（非常勤）所属別

設問項目	区分	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼任教員	講師全体	専任教員全体	全体
		科目数: (210)	科目数: (182)	科目数: (87)	科目数: (64)	科目数: (160)	科目数: (23)	科目数: (726)	科目数: (505)	科目数: (1231)
I-1	平均値	4.46	4.40	4.46	4.59	4.39	4.63	4.45	4.50	4.47
	標準偏差	0.33	0.27	0.28	0.31	0.28	0.26	0.30	0.27	0.29
I-2	平均値	3.86	3.97	3.91	3.75	3.95	4.09	3.91	3.88	3.90
	標準偏差	0.67	0.68	0.60	0.59	0.50	0.43	0.62	0.62	0.62
I-3	平均値	1.88	1.78	1.97	1.85	2.03	2.49	1.91	1.94	1.92
	標準偏差	0.51	0.42	0.50	0.45	0.42	0.56	0.48	0.53	0.50
I-5	平均値	1.63	1.59	1.64	1.76	1.74	2.43	1.68	1.74	1.71
	標準偏差	0.46	0.50	0.41	0.40	0.43	0.47	0.48	0.49	0.48
II-1	平均値	4.01	4.07	4.09	3.85	4.14	4.26	4.06	4.06	4.06
	標準偏差	0.49	0.43	0.48	0.51	0.37	0.37	0.46	0.45	0.45
II-3	平均値	4.05	4.07	4.09	3.86	4.14	4.23	4.07	4.08	4.08
	標準偏差	0.42	0.34	0.36	0.38	0.30	0.40	0.37	0.36	0.37
II-5	平均値	4.12	4.09	4.17	3.96	4.16	4.34	4.12	4.09	4.11
	標準偏差	0.52	0.50	0.48	0.55	0.46	0.45	0.50	0.50	0.50
II-6	平均値	4.02	4.08	4.08	3.91	4.17	4.26	4.07	4.08	4.07
	標準偏差	0.50	0.45	0.44	0.49	0.39	0.38	0.46	0.44	0.45
II-7	平均値	4.15	4.19	4.11	3.97	4.16	4.30	4.15	4.17	4.16
	標準偏差	0.52	0.46	0.49	0.53	0.37	0.37	0.47	0.45	0.46
II-8	平均値	2.62	2.57	2.88	2.63	2.83	2.76	2.69	2.76	2.72
	標準偏差	0.67	0.62	0.67	0.54	0.61	0.72	0.65	0.73	0.68
II-9	平均値	3.78	3.73	3.88	3.56	4.00	4.26	3.82	3.76	3.80
	標準偏差	0.49	0.43	0.45	0.50	0.37	0.37	0.47	0.48	0.48
II-10	平均値	3.63	3.70	3.80	3.49	3.95	3.98	3.74	3.76	3.75
	標準偏差	0.56	0.48	0.48	0.45	0.41	0.38	0.50	0.50	0.50
III	平均値	3.99	4.00	4.06	3.78	4.19	4.31	4.04	3.99	4.02
	標準偏差	0.56	0.47	0.46	0.54	0.43	0.48	0.51	0.50	0.51

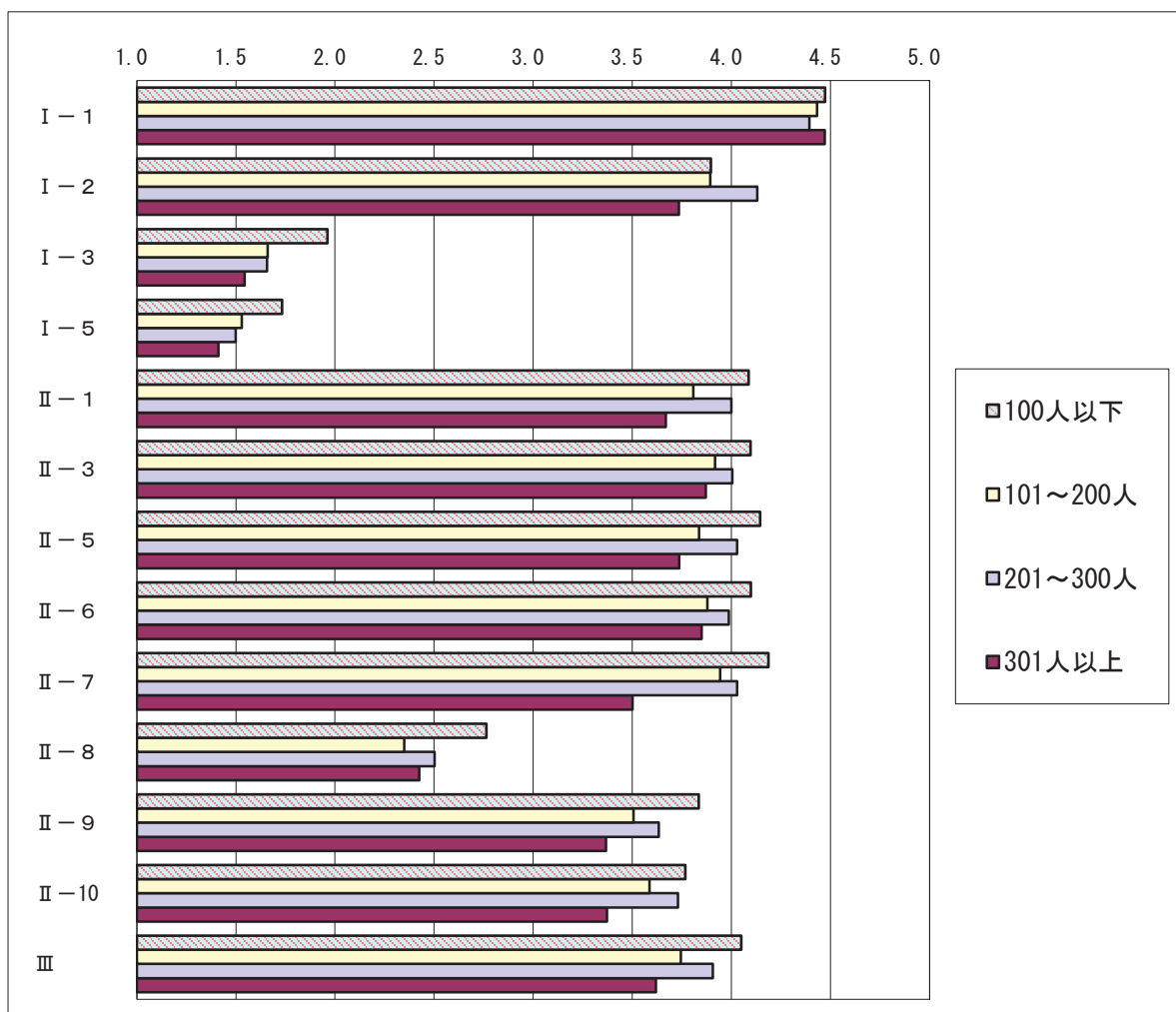
○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.35	3.42	3.37	3.39	3.30	3.13	3.36	3.42	3.38
	標準偏差	0.33	0.32	0.33	0.32	0.30	0.22	0.32	0.31	0.32
II-4	平均値	3.17	3.20	3.21	3.17	3.15	3.05	3.17	3.20	3.19
	標準偏差	0.30	0.26	0.26	0.23	0.18	0.13	0.25	0.22	0.24

(注) 講師（非常勤）：客員教授を含む

I-4は、複数回答項目のため、「5. 学科目別 回答の分布」を参照

### 3. 履修登録者数別比較表（講義科目）



(注) I-4受講動機(複数回答)、II-2難易度、II-4進度(3の回答が適切)は回答の基準が異なるため、掲載していない。

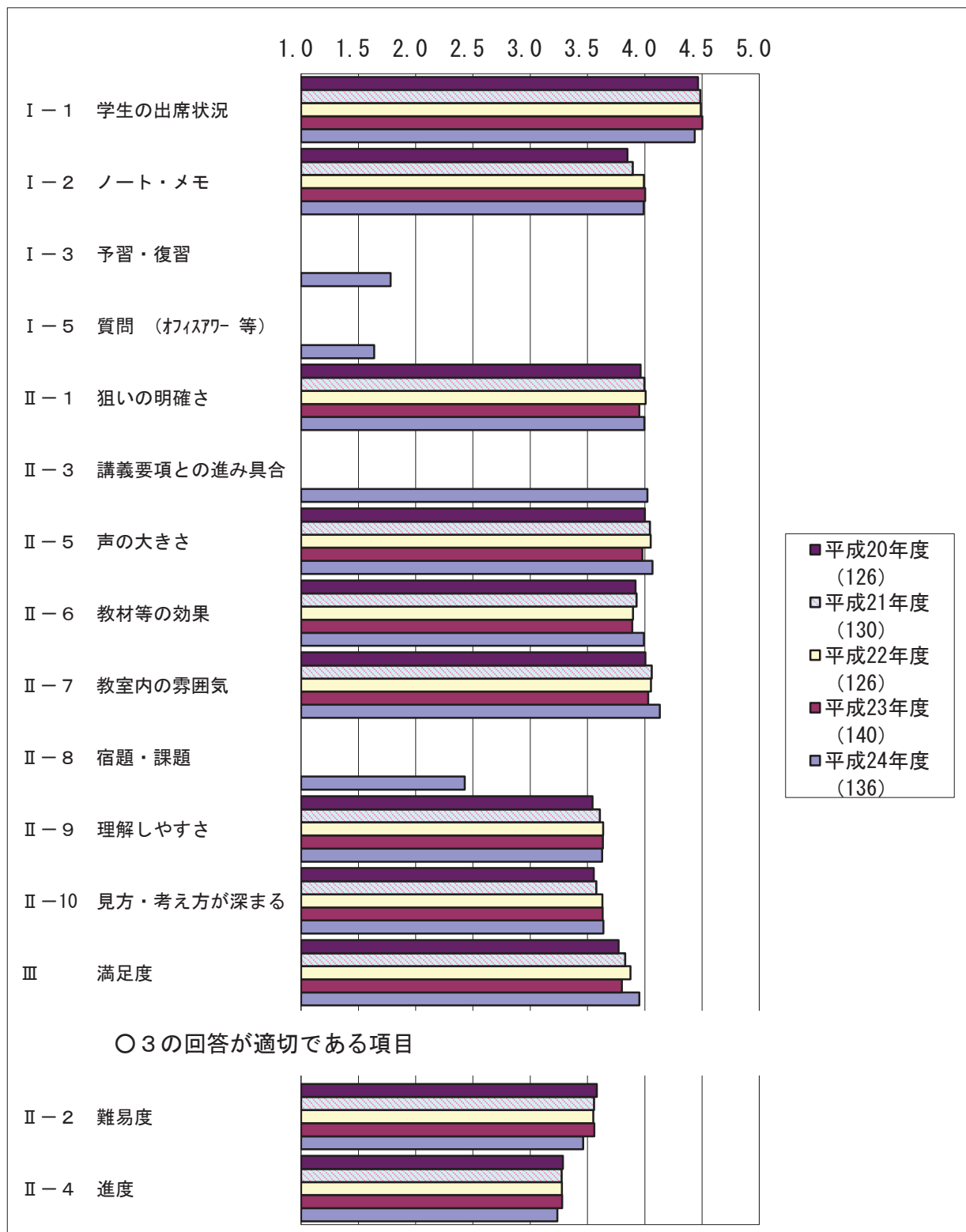
#### ○ 平均値

区分		100人以下	101~200人	201~300人	301人以上
科目数		1,080	117	25	9
I-1	学生の出席状況	4.47	4.43	4.39	4.47
I-2	ノート・メモ	3.90	3.89	4.13	3.73
I-3	予習・復習	1.96	1.66	1.66	1.54
I-5	質問(オフィスアワー等)	1.73	1.53	1.50	1.41
II-1	狙いの明確さ	4.09	3.81	4.00	3.67
II-3	講義要項との進み具合	4.10	3.92	4.00	3.87
II-5	声の大きさ	4.14	3.84	4.03	3.74
II-6	教材等の効果	4.10	3.88	3.99	3.85
II-7	教室内の雰囲気	4.19	3.94	4.03	3.50
II-8	宿題・課題	2.76	2.35	2.50	2.43
II-9	理解しやすさ	3.83	3.51	3.63	3.37
II-10	見方・考え方が深まる	3.77	3.59	3.73	3.37
III	満足度	4.05	3.74	3.91	3.62

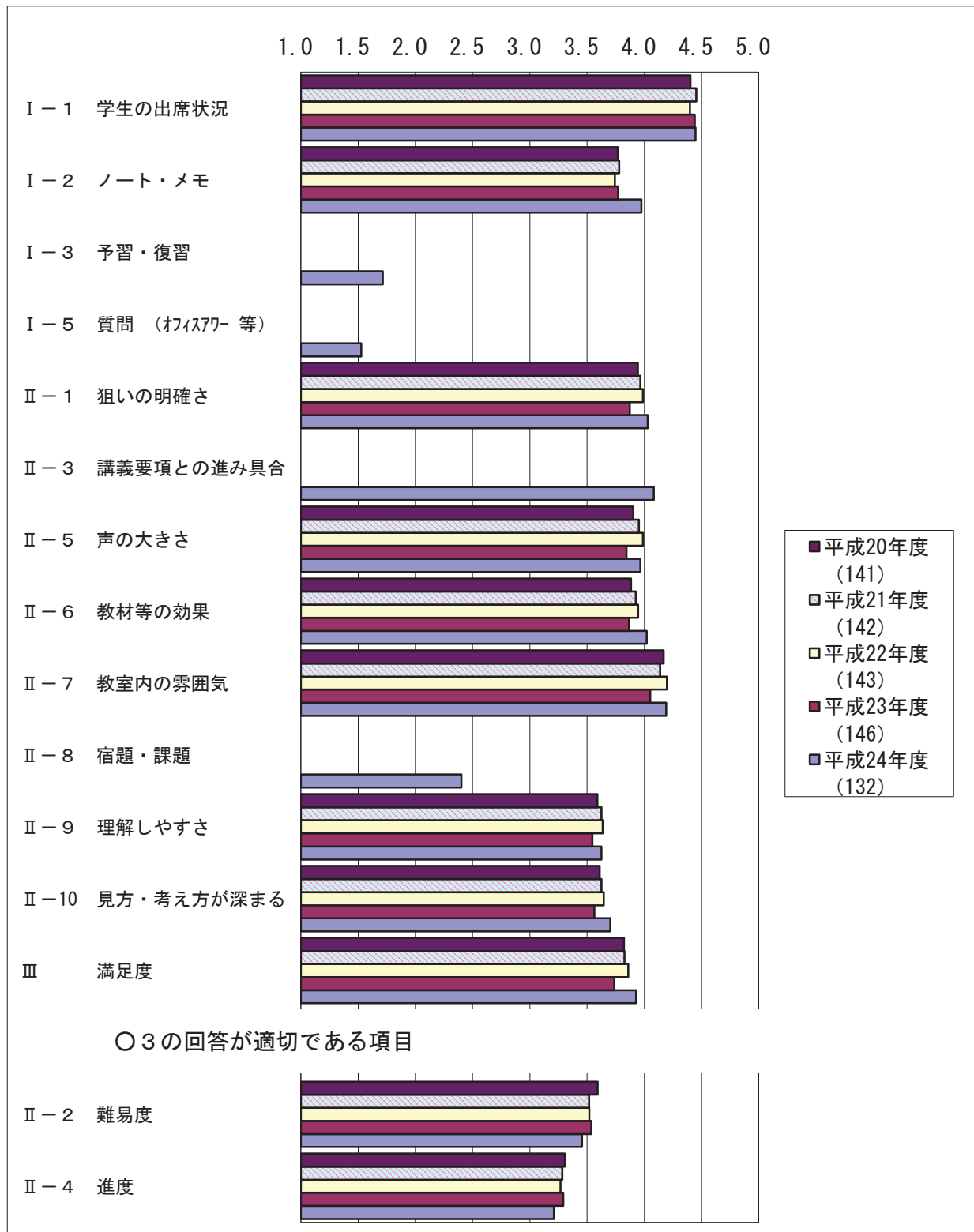
#### 4. 設問項目ごとの集計結果（年度比較）

##### (1) 学科目別平均値

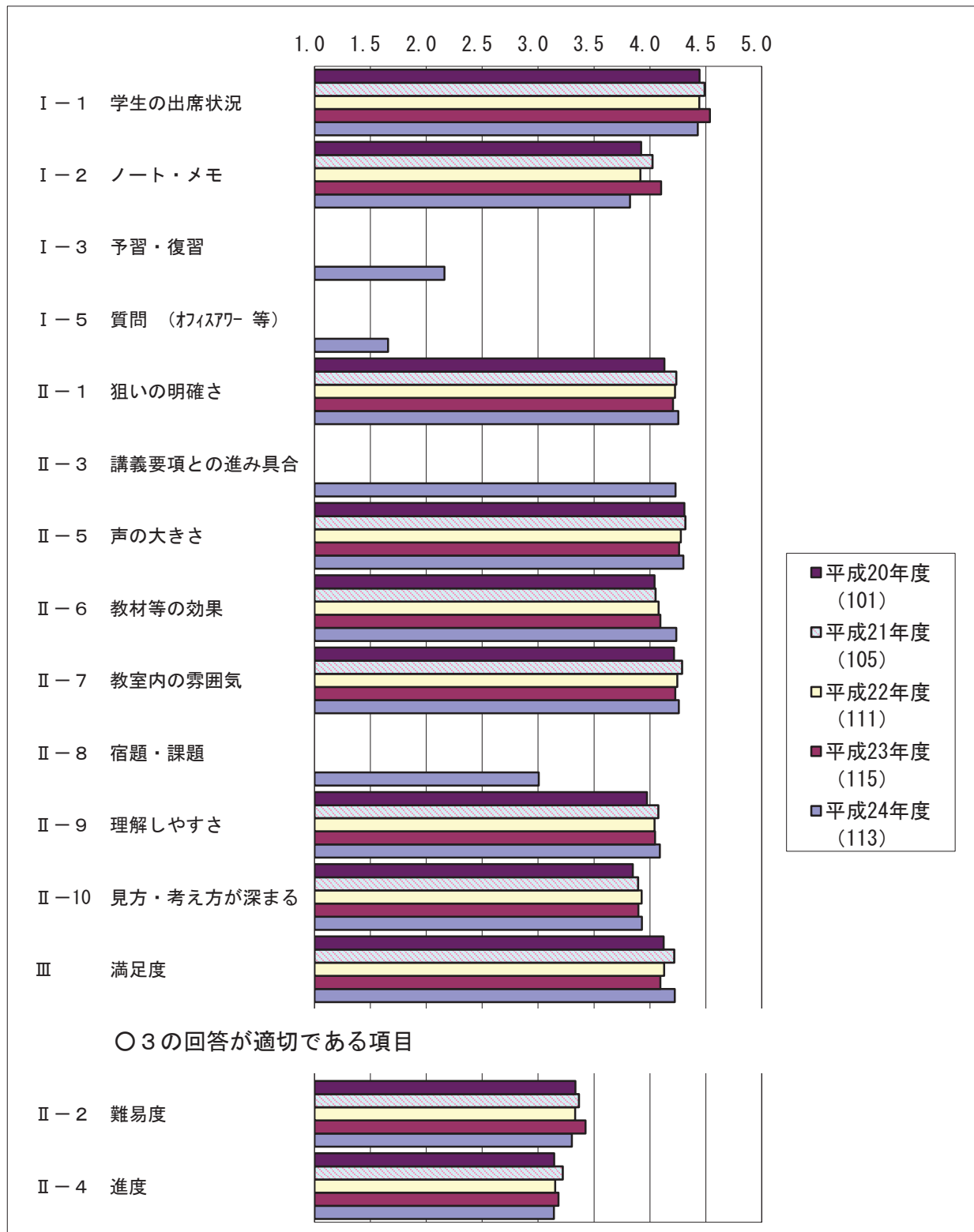
##### ① 商学部専門科目



② 政経学部専門科目

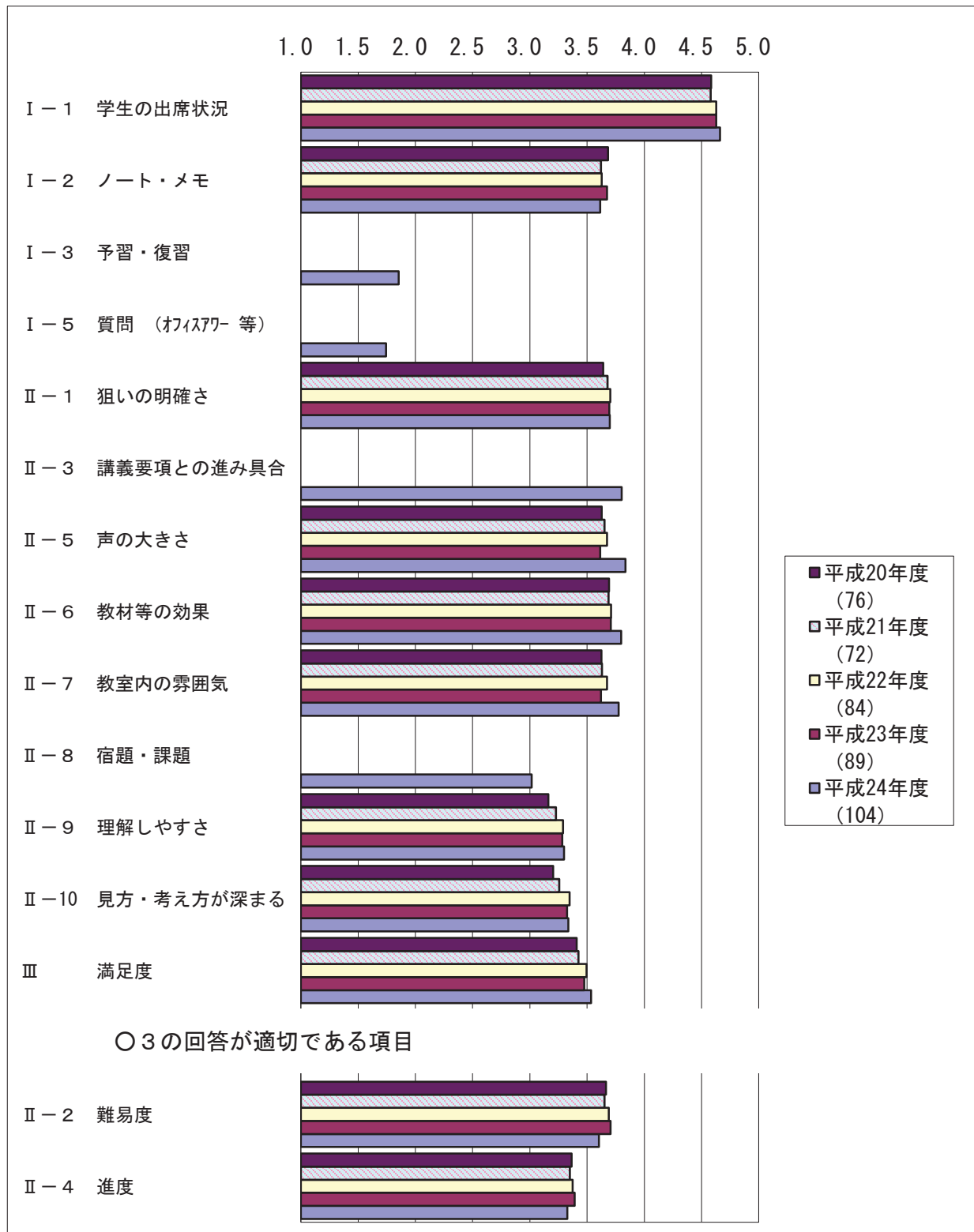


③ 外国語学部専門科目



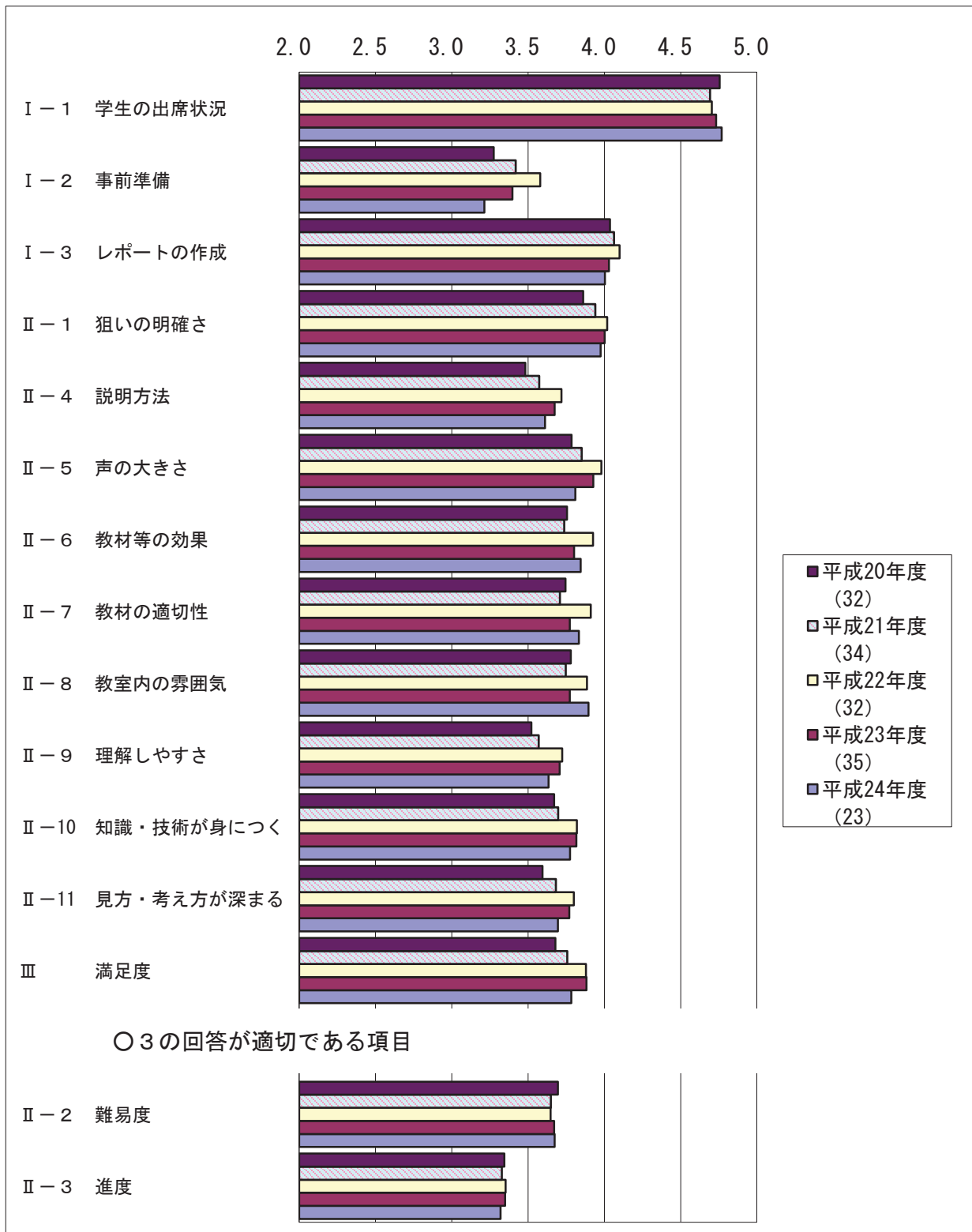
④ 工学部専門科目

・ 講義等科目

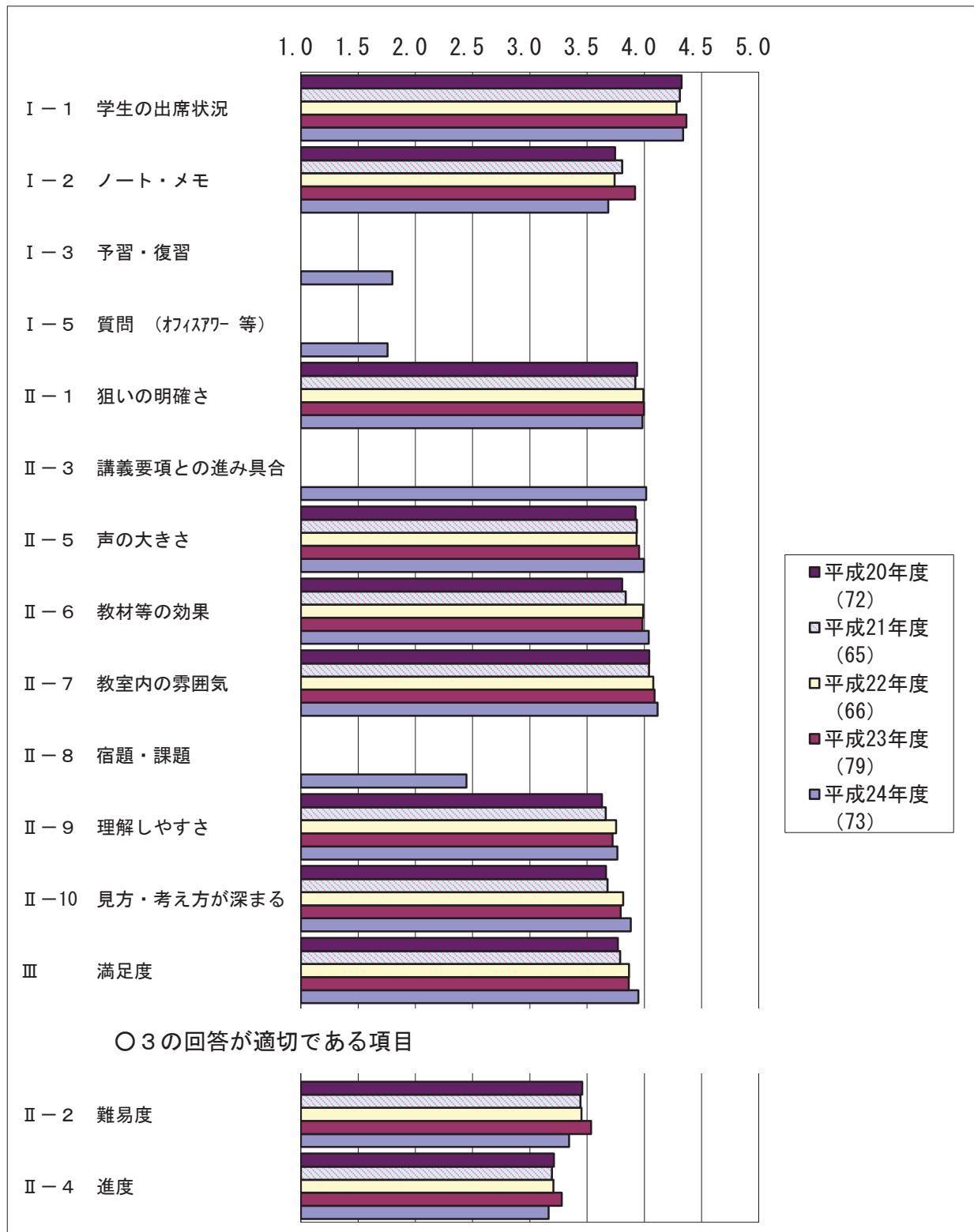




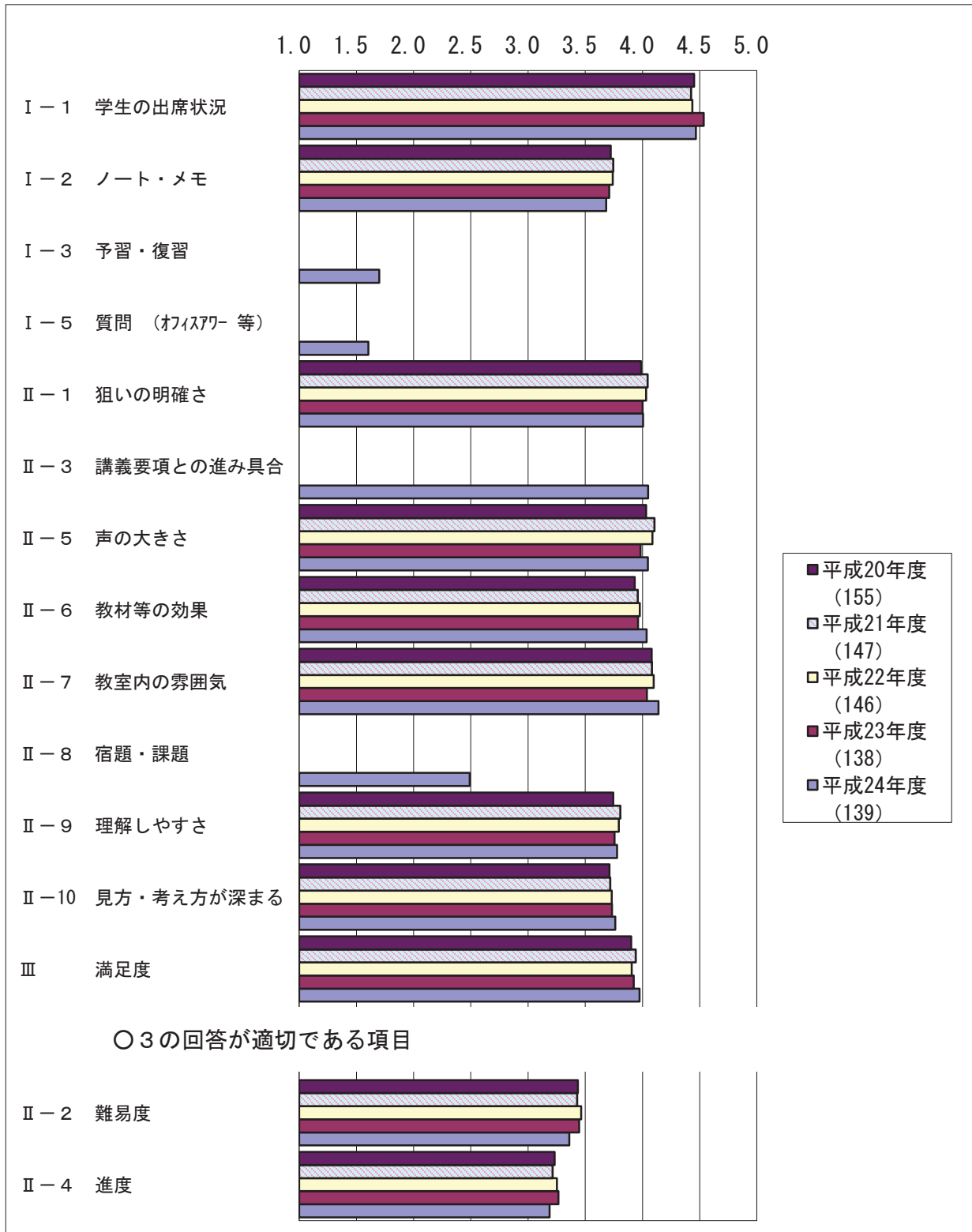
・工学部 実験・実習科目



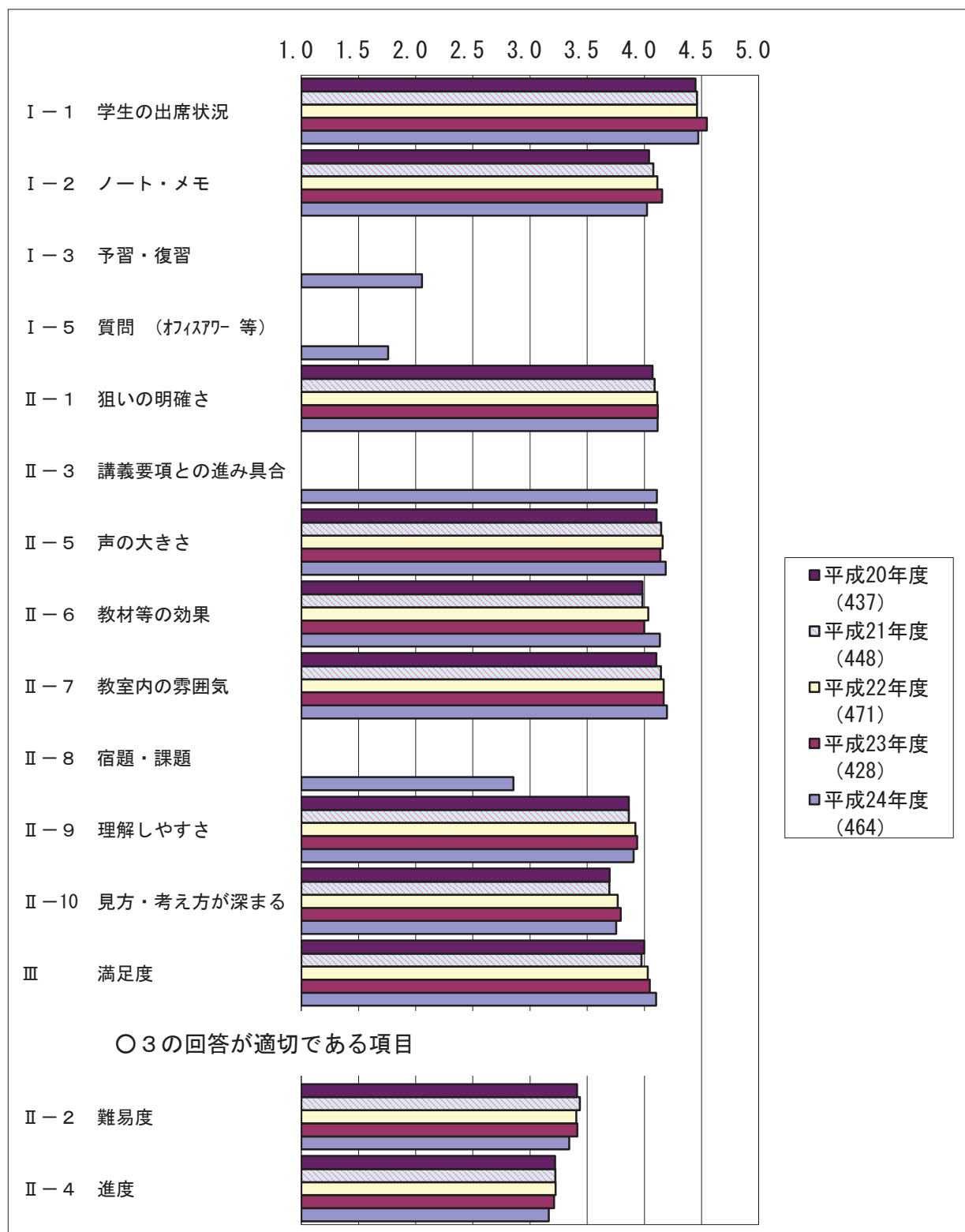
⑤ 国際学部専門科目



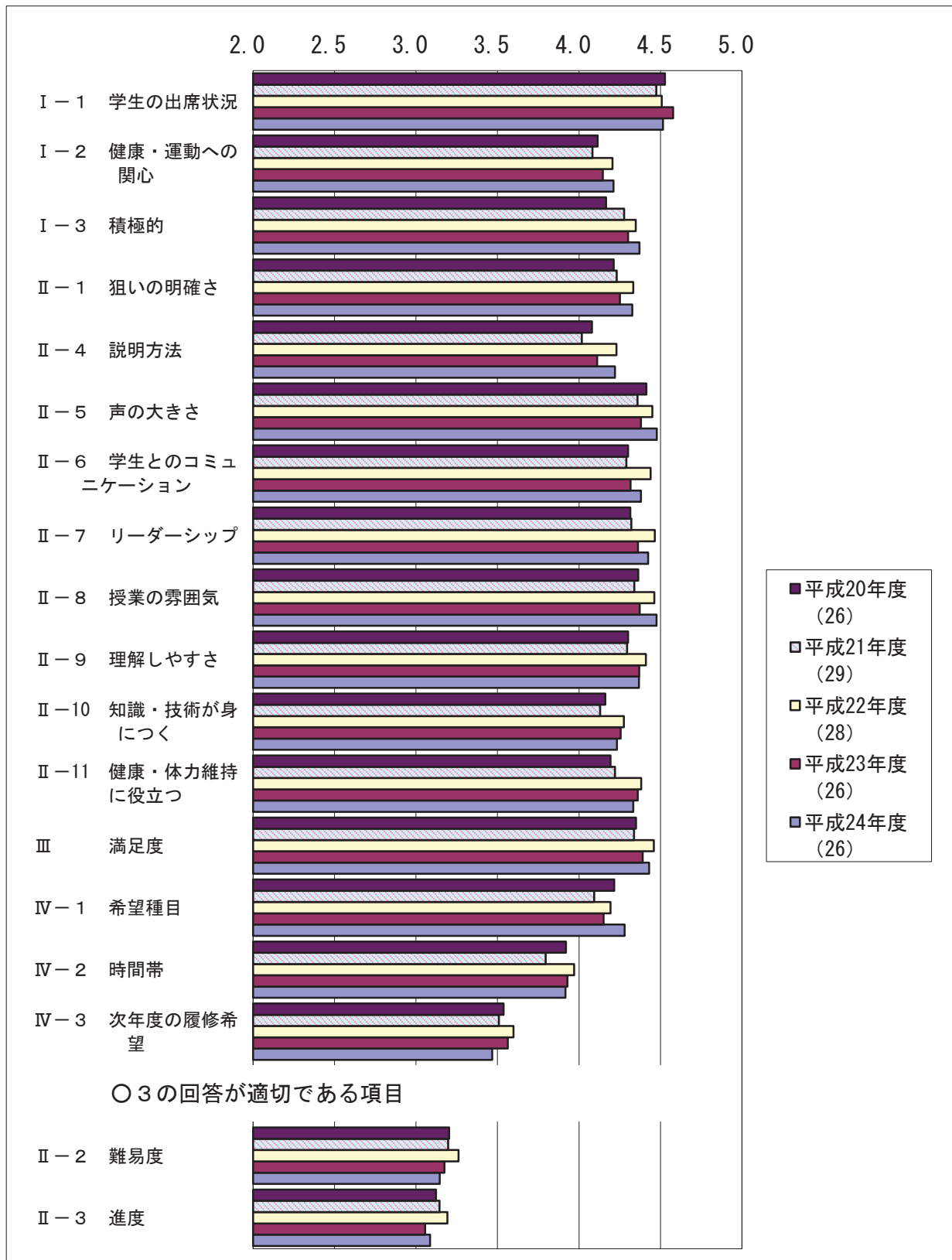
⑥ 教養教育科目



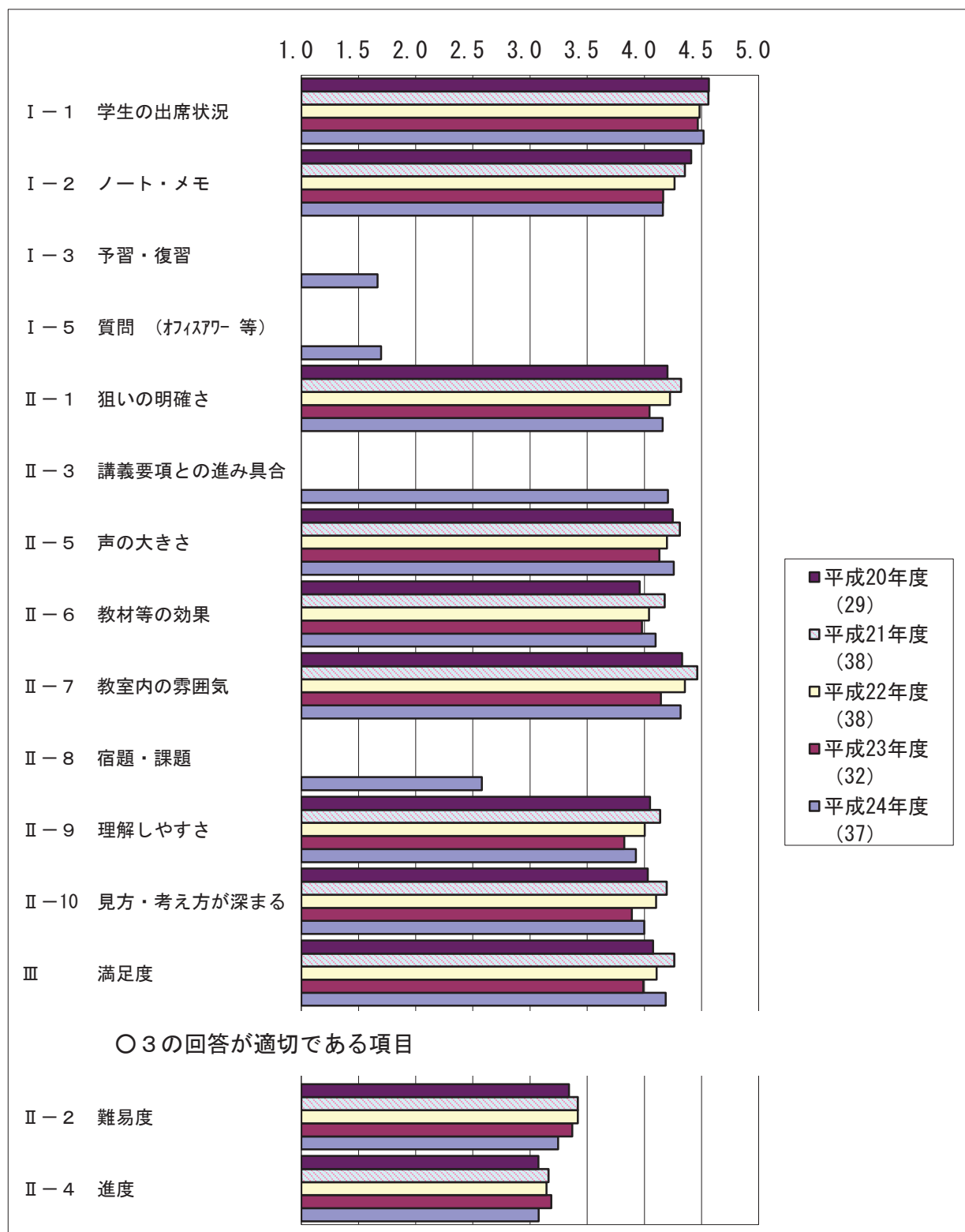
⑦ 外国語科目



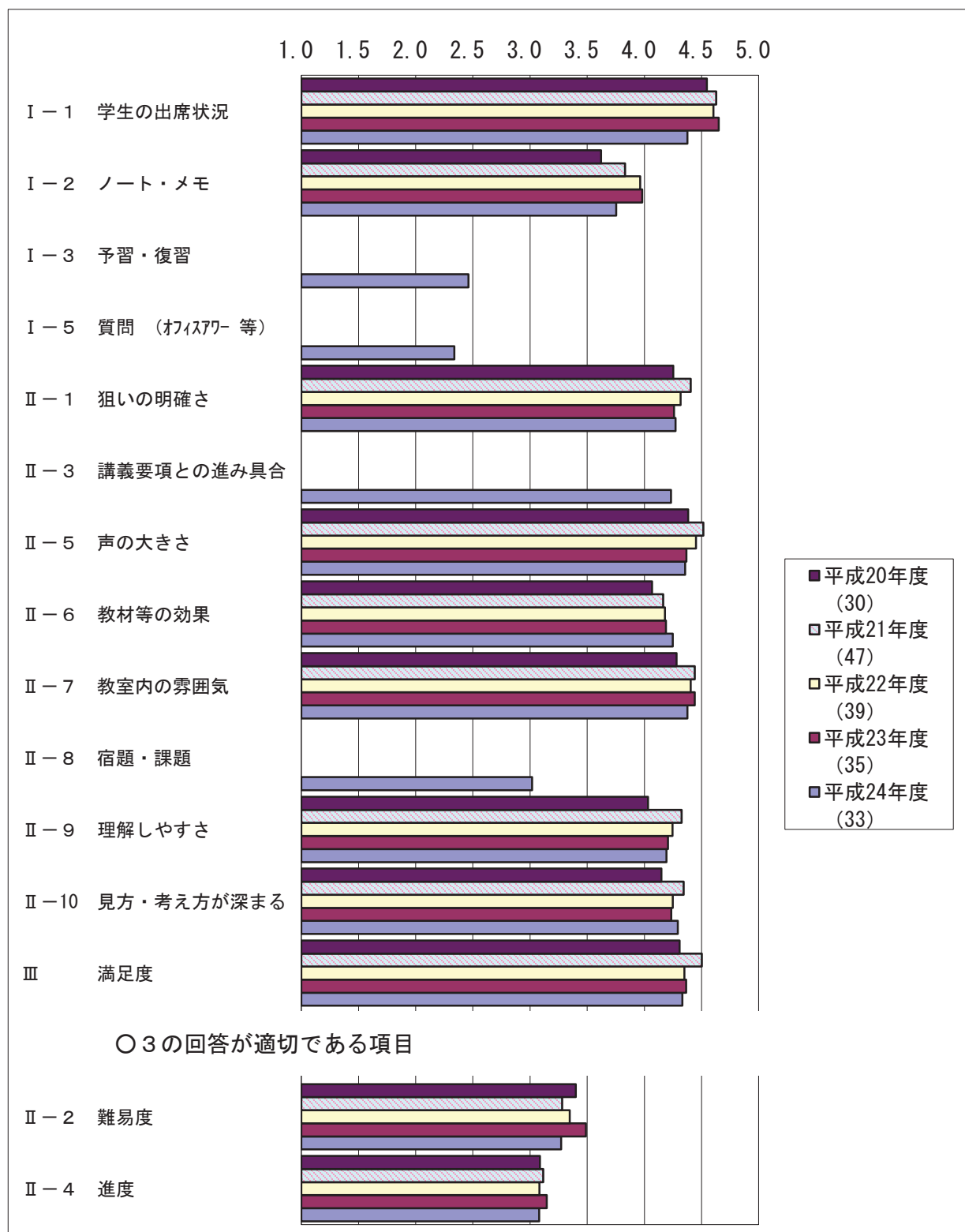
⑧ スポーツ・トレーニング科目



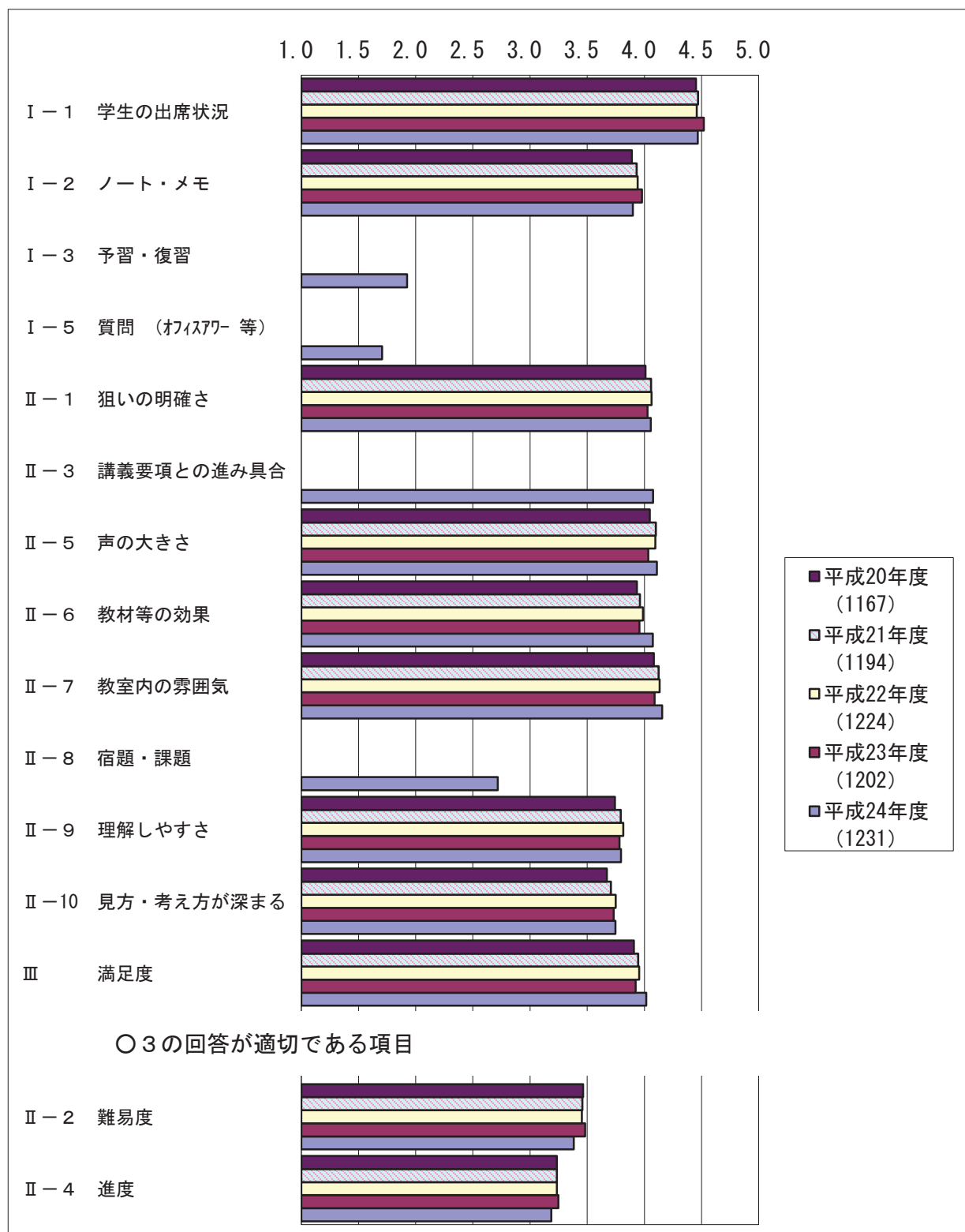
⑨ 教職・社教・日語科目



⑩ ゼミ・外書講読科目



⑪ 全体（講義等科目）





(2) 学生所属別平均値・標準偏差（講義科目）

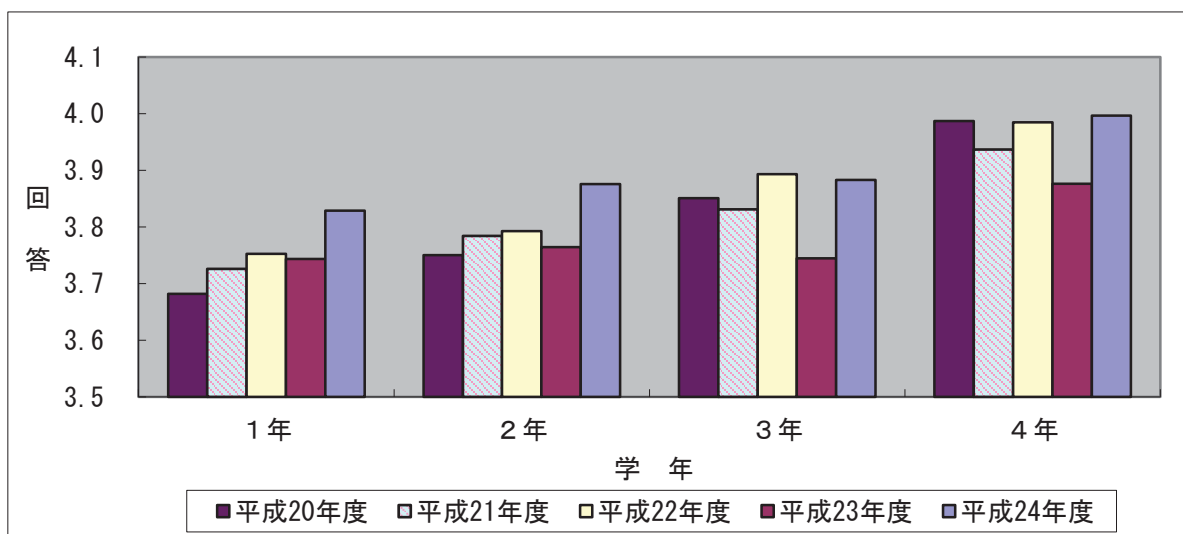
① 学年別

設問項目	区分	1年	2年	3年	4年
		回答件数：(12666)	回答件数：(11226)	回答件数：(8575)	回答件数：(2941)
I-1 学生の出席状況	平均値	4.57	4.47	4.47	4.13
	標準偏差	0.77	0.77	0.78	0.88
I-2 ノート・メモ	平均値	3.80	3.89	3.91	3.97
	標準偏差	1.23	1.13	1.13	1.09
I-3 予習・復習	平均値	1.75	1.82	1.84	1.83
	標準偏差	1.01	1.05	1.11	1.10
I-5 質問(オフィスアワー等)	平均値	1.55	1.61	1.66	1.59
	標準偏差	1.01	1.04	1.10	1.04
II-1 狙いの明確さ	平均値	3.91	3.95	3.94	4.04
	標準偏差	1.04	1.00	1.00	0.95
II-3 講義要項との進み具合	平均値	3.97	4.00	3.99	4.06
	標準偏差	0.92	0.91	0.91	0.87
II-5 声の大きさ	平均値	3.96	4.00	3.99	4.09
	標準偏差	1.20	1.16	1.20	1.19
II-6 教材等の効果	平均値	3.92	3.97	4.01	4.10
	標準偏差	1.05	1.02	1.01	0.99
II-7 教室内の雰囲気	平均値	3.95	4.01	4.03	4.13
	標準偏差	1.04	1.01	1.02	1.00
II-8 宿題・課題	平均値	2.64	2.68	2.62	2.48
	標準偏差	1.22	1.22	1.26	1.21
II-9 理解しやすさ	平均値	3.64	3.65	3.63	3.71
	標準偏差	1.02	1.00	1.00	0.95
II-10 見方・考え方が深まる	平均値	3.56	3.64	3.69	3.75
	標準偏差	1.07	1.03	1.02	1.01
III 満足度	平均値	3.83	3.88	3.88	4.00
	標準偏差	1.07	1.03	1.04	0.99

○3の回答が適切である項目

II-2 難易度	平均値	3.40	3.42	3.43	3.40
	標準偏差	0.78	0.75	0.75	0.73
II-4 進度	平均値	3.22	3.20	3.22	3.19
	標準偏差	0.68	0.63	0.65	0.61

○学年別満足度（平均値）



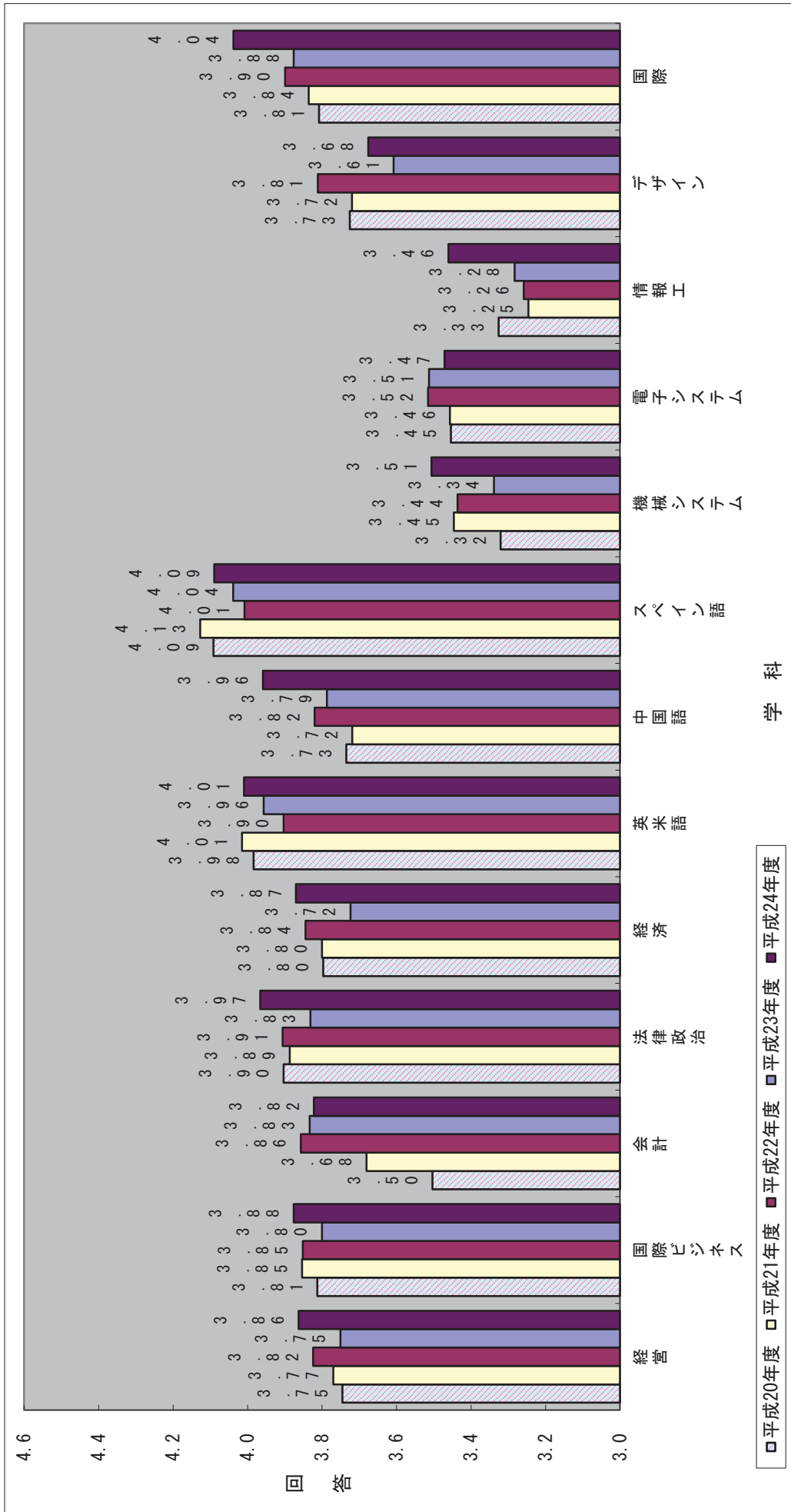
## ② 学科別

設問項目	区分	経営	国際ビジネス	会計	法律政治	経済	英米語	中国語	スペイン語	機械システム	電子システム	情報工	デザイン	国際
		回答件数 :(5781)	回答件数 :(1958)	回答件数 :(1107)	回答件数 :(3884)	回答件数 :(6809)	回答件数 :(1393)	回答件数 :(560)	回答件数 :(668)	回答件数 :(1504)	回答件数 :(1380)	回答件数 :(1609)	回答件数 :(944)	回答件数 :(7713)
I-1 学生の出席状況	平均値	4.49	4.42	4.51	4.45	4.42	4.56	4.45	4.49	4.72	4.63	4.57	4.51	4.44
	標準偏差	0.79	0.86	0.78	0.81	0.83	0.76	0.84	0.78	0.60	0.76	0.73	0.75	0.76
I-2 ノート・メモ	平均値	4.01	3.89	3.86	4.09	3.93	3.78	3.90	3.95	3.69	3.40	3.61	3.64	3.82
	標準偏差	1.13	1.19	1.23	1.07	1.15	1.28	1.19	1.15	1.24	1.23	1.16	1.16	1.13
I-3 予習・復習	平均値	1.73	1.77	1.66	1.71	1.76	1.86	2.03	2.04	1.68	1.88	1.74	1.89	1.92
	標準偏差	1.04	1.06	0.98	0.99	1.04	1.06	1.08	1.11	1.00	1.11	1.03	1.17	1.09
I-5 質問(オフィス等)	平均値	1.57	1.65	1.47	1.50	1.56	1.35	1.66	1.70	1.69	1.78	1.56	1.52	1.71
	標準偏差	1.03	1.07	0.95	0.95	1.03	0.87	1.07	1.11	1.09	1.15	0.99	0.97	1.11
II-1 狙いの明確さ	平均値	3.90	3.92	3.95	4.05	3.97	4.05	4.06	4.15	3.66	3.62	3.66	3.69	4.04
	標準偏差	1.01	1.04	0.98	0.95	1.00	1.02	0.99	0.91	1.06	1.02	1.03	1.06	0.98
II-3 講義要項との進み具合	平均値	3.94	3.97	3.98	4.08	4.03	4.09	4.13	4.14	3.76	3.75	3.78	3.80	4.08
	標準偏差	0.91	0.97	0.91	0.86	0.90	0.88	0.94	0.87	0.95	0.94	0.92	0.90	0.89
II-5 声の大きさ	平均値	3.95	3.96	3.99	4.02	4.00	4.08	4.07	4.16	3.70	3.81	3.83	3.83	4.11
	標準偏差	1.22	1.22	1.25	1.20	1.20	1.30	1.21	1.24	1.18	1.13	1.10	1.17	1.10
II-6 教材等の効果	平均値	3.92	3.92	3.94	4.02	3.99	4.13	3.95	4.16	3.76	3.66	3.83	3.85	4.09
	標準偏差	1.04	1.04	1.04	1.02	1.03	1.00	1.06	0.97	1.04	1.04	1.02	1.05	0.96
II-7 教室内の雰囲気	平均値	3.99	3.96	4.05	4.13	4.03	4.09	4.04	4.16	3.70	3.66	3.69	3.85	4.10
	標準偏差	1.01	1.04	1.02	1.00	1.02	1.03	1.05	0.98	1.06	1.02	1.05	1.02	0.98
II-8 宿題・課題	平均値	2.50	2.46	2.46	2.31	2.60	2.76	2.93	2.87	2.84	2.91	3.00	2.73	2.76
	標準偏差	1.21	1.24	1.22	1.19	1.21	1.28	1.27	1.25	1.17	1.17	1.20	1.32	1.23
II-9 理解しやすさ	平均値	3.60	3.64	3.52	3.70	3.62	3.83	3.75	3.97	3.30	3.26	3.27	3.40	3.88
	標準偏差	1.00	1.05	0.98	0.96	1.01	0.96	0.99	0.93	1.03	0.98	1.00	1.04	0.95
II-10 見方・考え方が深まる	平均値	3.55	3.57	3.44	3.75	3.61	3.77	3.60	3.80	3.24	3.28	3.32	3.57	3.88
	標準偏差	1.04	1.10	1.03	1.02	1.03	1.02	1.04	1.03	1.04	0.97	1.05	1.03	0.99
III 満足度	平均値	3.86	3.88	3.82	3.97	3.87	4.01	3.96	4.09	3.51	3.47	3.46	3.68	4.04
	標準偏差	1.03	1.08	1.01	0.98	1.05	1.05	1.01	1.04	1.09	1.01	1.05	1.07	1.00

### ○3の回答が適切である項目

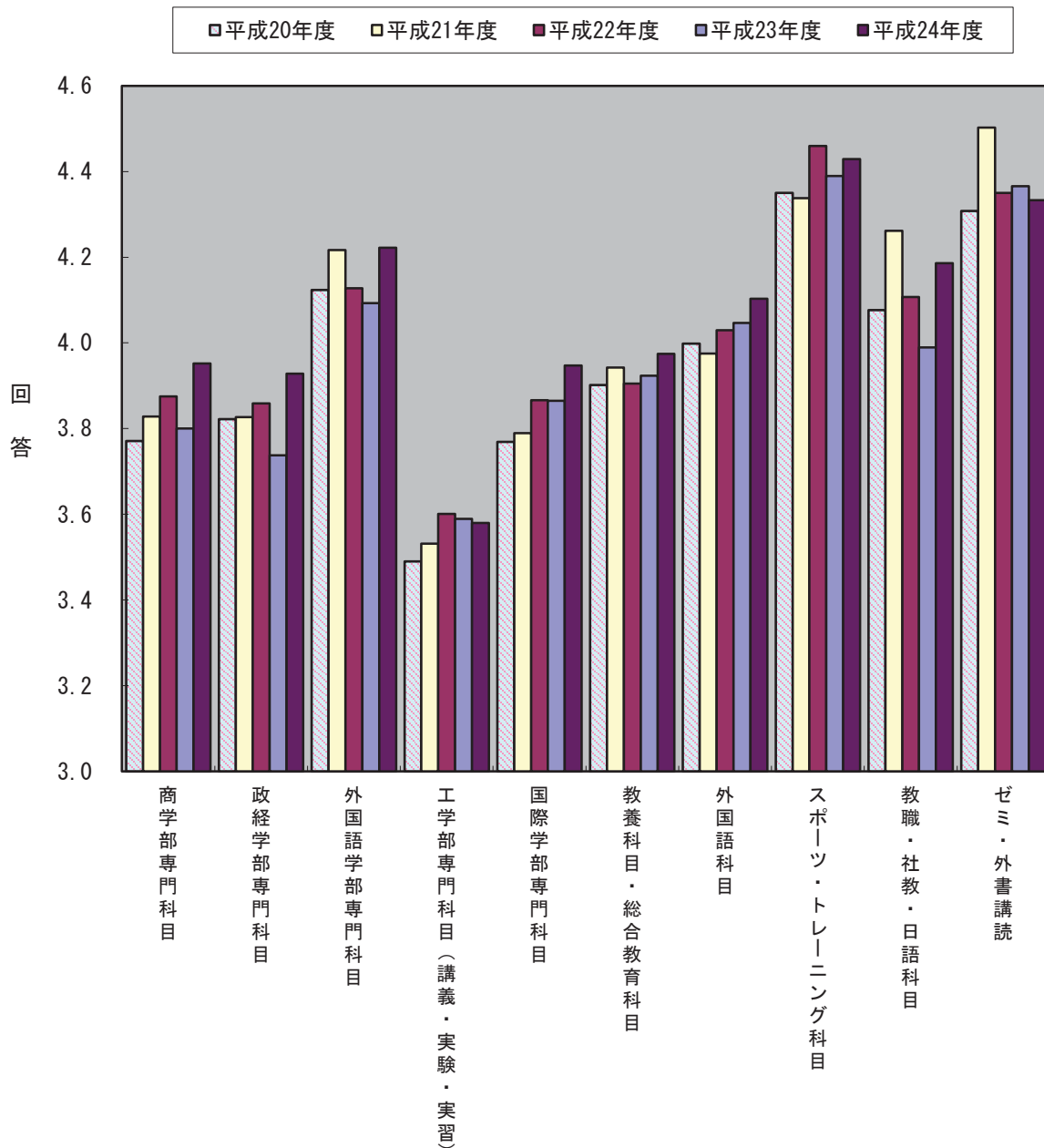
II-2 難易度	平均値	3.42	3.37	3.50	3.36	3.43	3.34	3.43	3.33	3.48	3.57	3.56	3.51	3.35
	標準偏差	0.77	0.78	0.78	0.70	0.75	0.71	0.76	0.65	0.77	0.85	0.84	0.79	0.72
II-4 進捗	平均値	3.25	3.18	3.28	3.17	3.18	3.17	3.22	3.18	3.30	3.29	3.31	3.24	3.19
	標準偏差	0.68	0.69	0.68	0.59	0.66	0.64	0.64	0.60	0.66	0.77	0.67	0.72	0.60

○学科別満足度（平均値）



(3) 満足度 平均値

① 学科目別

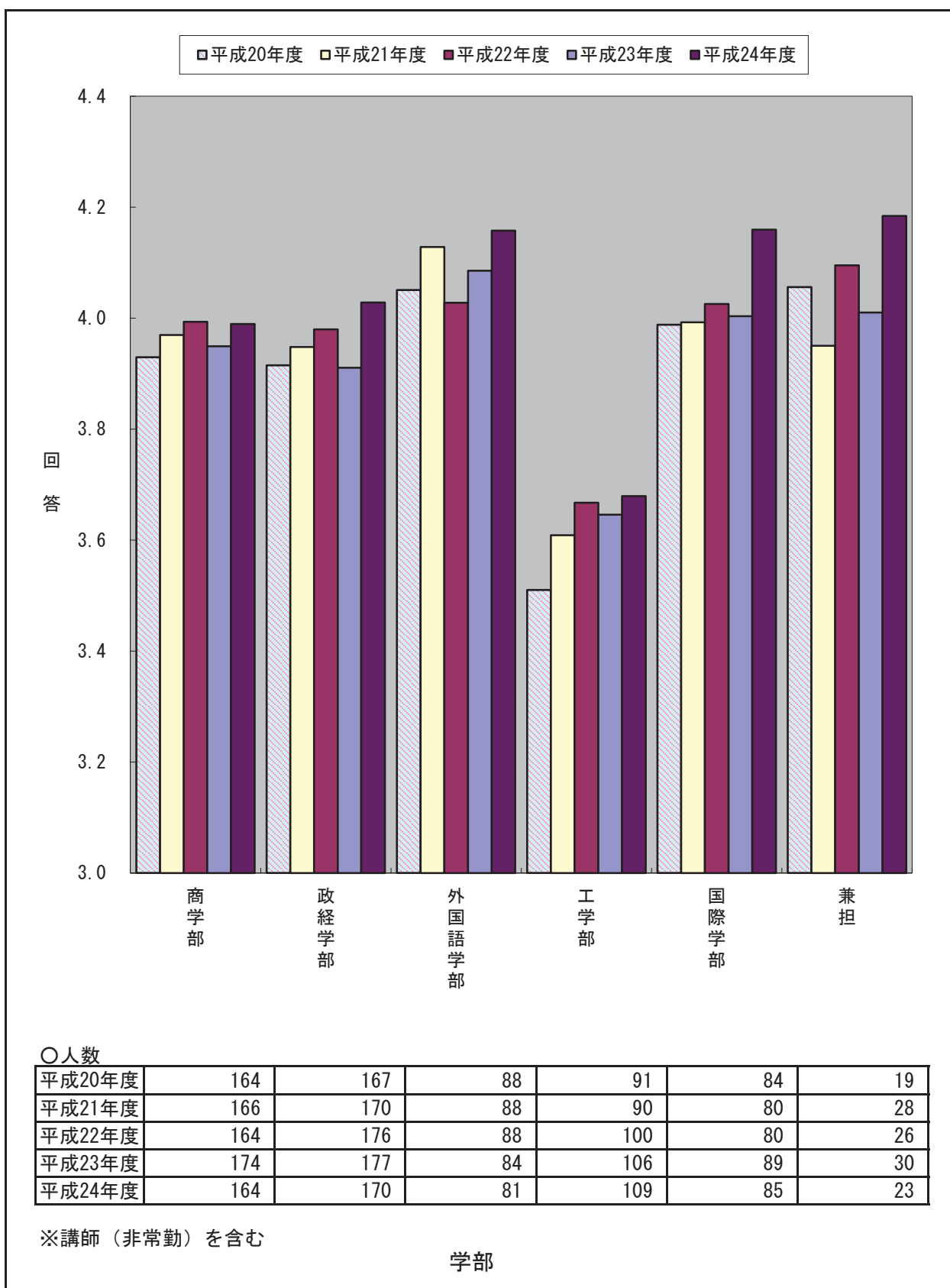


○科目数

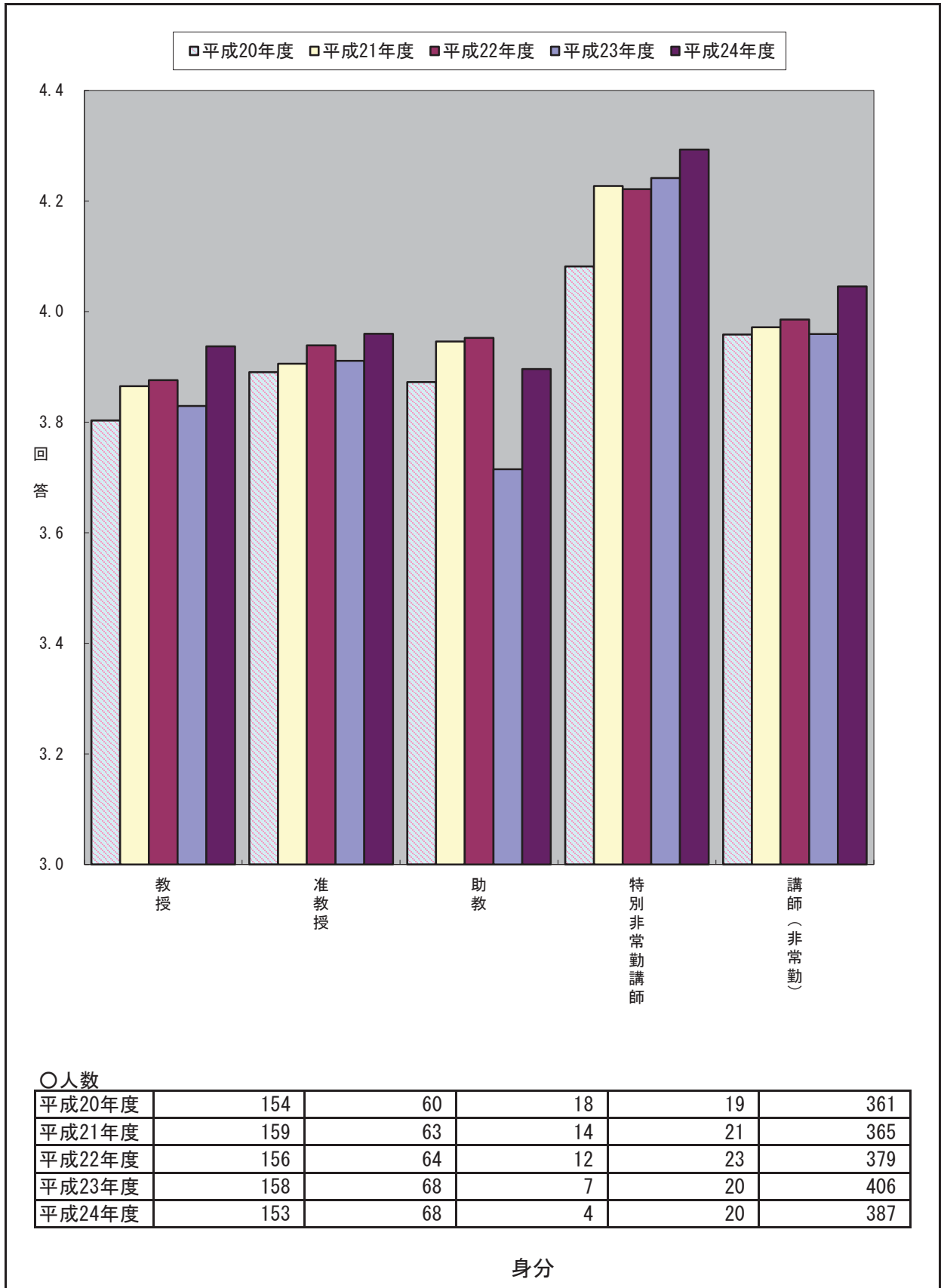
平成20年度	126	141	101	108	72	155	437	26	29	30
平成21年度	130	142	105	106	65	147	448	29	38	47
平成22年度	126	143	111	116	66	146	471	28	38	39
平成23年度	140	146	115	124	79	138	428	26	32	35
平成24年度	136	132	113	127	73	139	464	26	37	33

学科目

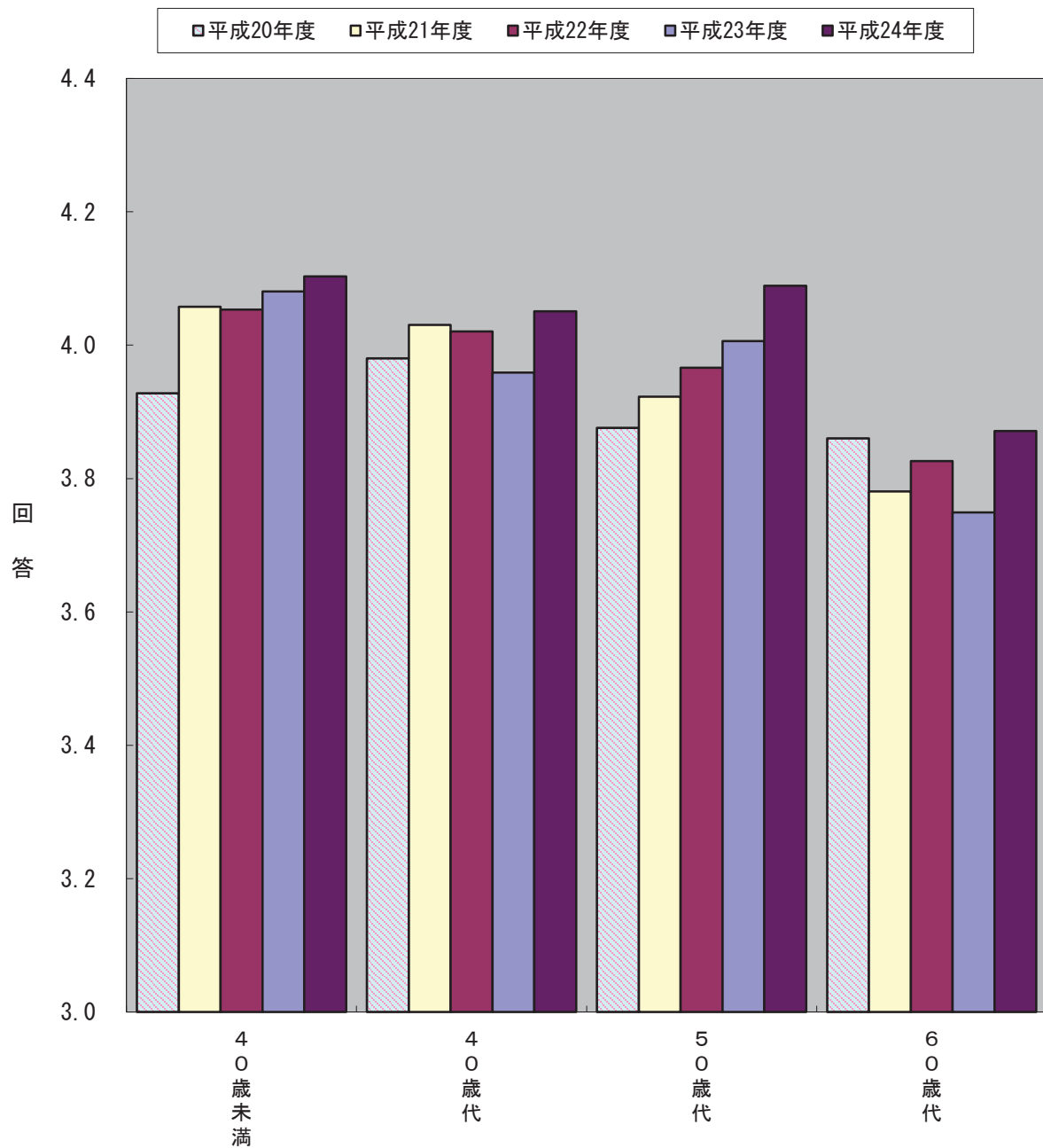
② 所属別



③ 身分別



④ 年齢別



○人数

平成20年度	99	174	183	146
平成21年度	106	176	195	143
平成22年度	106	177	191	160
平成23年度	91	168	211	190
平成24年度	76	168	201	187

年齢

## 5. 学科目別 回答の分析

### (1) 商学部専門科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.67%	1.14%	9.54%	25.46%	63.20%
I-2	3.20%	4.77%	15.07%	29.10%	47.86%
I-3	57.09%	20.93%	14.07%	4.69%	3.23%
I-4	13.53%	3.33%	43.50%	13.91%	25.72%
I-5	68.93%	12.12%	10.88%	5.06%	3.01%
II-1	1.96%	4.83%	23.15%	36.46%	33.60%
II-2	0.89%	3.21%	54.51%	31.95%	9.43%
II-3	0.92%	2.19%	27.53%	36.32%	33.05%
II-4	0.49%	2.84%	70.33%	20.81%	5.53%
II-5	1.85%	4.33%	18.60%	31.57%	43.65%
II-6	2.38%	5.07%	24.80%	32.56%	35.20%
II-7	1.89%	4.87%	21.77%	34.92%	36.55%
II-8	31.01%	19.25%	33.15%	10.08%	6.51%
II-9	2.90%	8.07%	33.55%	36.69%	18.79%
II-10	3.59%	7.22%	34.31%	35.41%	19.48%
III	2.17%	4.98%	24.41%	37.01%	31.43%

### (2) 政経学部専門科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.60%	1.05%	11.63%	26.49%	60.22%
I-2	5.32%	5.30%	17.52%	28.94%	42.92%
I-3	57.81%	21.10%	14.26%	3.98%	2.86%
I-4	17.53%	2.91%	34.08%	13.22%	32.25%
I-5	72.90%	10.19%	10.33%	3.89%	2.67%
II-1	1.98%	4.36%	20.22%	36.94%	36.50%
II-2	0.60%	3.22%	53.87%	33.74%	8.57%
II-3	0.91%	1.46%	24.14%	37.23%	36.26%
II-4	0.89%	3.77%	73.23%	17.48%	4.64%
II-5	2.82%	5.65%	16.23%	31.25%	44.05%
II-6	2.76%	4.37%	19.52%	33.13%	40.22%
II-7	2.16%	4.54%	18.07%	32.88%	42.35%
II-8	30.07%	17.88%	33.38%	11.94%	6.72%
II-9	3.45%	7.03%	32.36%	38.77%	18.39%
II-10	3.88%	5.99%	29.73%	38.20%	22.20%
III	2.67%	4.67%	22.80%	38.28%	31.58%

### (3) 外国語学部専門科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.18%	1.25%	11.68%	24.02%	62.87%
I-2	5.37%	5.61%	18.60%	32.44%	37.98%
I-3	34.03%	29.31%	25.90%	8.31%	2.45%
I-4	5.60%	1.35%	54.43%	15.24%	23.39%
I-5	67.60%	13.23%	11.80%	4.49%	2.87%
II-1	0.65%	3.15%	14.35%	36.61%	45.24%
II-2	0.89%	3.58%	60.97%	30.33%	4.23%
II-3	0.30%	1.19%	20.71%	33.57%	44.23%
II-4	0.36%	3.81%	77.53%	15.08%	3.22%
II-5	0.31%	2.29%	11.57%	28.22%	57.61%
II-6	1.01%	2.33%	18.38%	31.44%	46.84%
II-7	1.20%	3.53%	16.29%	29.70%	49.28%
II-8	13.48%	15.15%	36.55%	22.00%	12.82%
II-9	0.42%	2.87%	21.61%	42.75%	32.36%
II-10	1.50%	3.65%	28.83%	37.20%	28.83%
III	1.14%	2.45%	16.34%	35.85%	44.23%



## (4) 工学部専門科目 (講義科目)

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.39%	0.54%	6.88%	18.16%	74.04%
I-2	8.17%	8.64%	26.93%	30.53%	25.73%
I-3	53.63%	21.12%	16.61%	5.27%	3.37%
I-4	12.86%	2.16%	59.32%	7.69%	17.97%
I-5	63.99%	12.84%	15.04%	5.32%	2.80%
II-1	3.94%	6.70%	32.42%	35.35%	21.58%
II-2	1.01%	3.01%	43.05%	39.26%	13.66%
II-3	1.98%	2.78%	35.63%	36.65%	22.95%
II-4	0.97%	2.48%	63.96%	25.66%	6.94%
II-5	3.88%	6.54%	24.66%	34.39%	30.53%
II-6	3.47%	5.82%	29.58%	34.80%	26.33%
II-7	3.16%	7.07%	32.43%	33.77%	23.58%
II-8	13.63%	14.79%	39.80%	19.76%	12.03%
II-9	6.08%	12.69%	41.97%	29.17%	10.08%
II-10	6.21%	9.47%	43.94%	28.89%	11.48%
III	5.07%	7.99%	37.35%	33.64%	15.94%

## (5) 工学部専門科目 (実験・実習科目)

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.10%	0.30%	3.87%	12.31%	83.42%
I-2	14.38%	12.80%	30.06%	25.69%	17.06%
I-3	3.58%	2.78%	21.57%	31.81%	40.26%
I-4	0.99%	3.38%	27.34%	38.37%	29.92%
II-1	2.98%	3.28%	22.76%	38.17%	32.80%
II-2	1.39%	1.99%	37.55%	44.62%	14.44%
II-3	0.71%	2.33%	61.66%	26.37%	8.92%
II-4	4.98%	8.26%	30.95%	36.42%	19.40%
II-5	3.83%	6.55%	26.59%	34.84%	28.20%
II-6	3.49%	5.28%	28.88%	34.96%	27.39%
II-7	3.18%	4.98%	30.35%	34.33%	27.16%
II-8	2.49%	4.78%	28.98%	38.05%	25.70%
II-9	3.69%	6.68%	33.30%	39.68%	16.65%
II-10	2.79%	4.89%	30.21%	41.87%	20.24%
II-11	2.89%	5.98%	33.80%	35.00%	22.33%
III	3.79%	4.69%	28.84%	37.33%	25.35%

## (6) 国際学部専門科目

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.34%	0.71%	13.14%	31.19%	54.62%
I-2	6.72%	8.41%	27.84%	28.45%	28.58%
I-3	57.59%	18.60%	14.93%	4.89%	3.99%
I-4	10.99%	2.44%	36.98%	16.07%	33.52%
I-5	63.51%	12.54%	14.58%	5.29%	4.09%
II-1	2.54%	4.00%	23.24%	34.39%	35.82%
II-2	0.87%	2.81%	63.80%	25.55%	6.97%
II-3	0.98%	2.09%	27.56%	33.68%	35.69%
II-4	0.61%	2.52%	78.84%	13.69%	4.34%
II-5	2.16%	3.83%	19.05%	30.93%	44.05%
II-6	1.82%	3.57%	23.16%	31.70%	39.74%
II-7	1.14%	3.85%	22.91%	32.48%	39.61%
II-8	30.67%	18.27%	33.32%	10.79%	6.95%
II-9	2.62%	5.59%	29.30%	36.95%	25.54%
II-10	2.49%	4.77%	26.41%	35.92%	30.41%
III	2.24%	3.91%	23.70%	34.78%	35.37%

## (7) 教養科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.62%	1.30%	10.15%	23.87%	64.06%
I-2	10.32%	7.28%	21.78%	26.05%	34.57%
I-3	67.86%	16.49%	9.72%	3.18%	2.75%
I-4	22.27%	3.78%	34.46%	7.47%	32.02%
I-5	75.49%	9.56%	9.45%	2.84%	2.67%
II-1	3.53%	5.93%	24.98%	33.23%	32.33%
II-2	1.52%	4.03%	56.97%	28.56%	8.91%
II-3	1.24%	2.34%	29.57%	34.26%	32.59%
II-4	1.10%	3.22%	72.88%	16.81%	6.00%
II-5	3.78%	5.50%	19.41%	30.30%	41.00%
II-6	2.99%	4.91%	25.14%	31.36%	35.61%
II-7	2.43%	5.01%	23.79%	32.22%	36.55%
II-8	33.05%	17.50%	30.61%	11.35%	7.48%
II-9	3.72%	7.65%	32.87%	35.53%	20.23%
II-10	4.34%	7.98%	31.47%	33.83%	22.37%
III	3.62%	5.63%	25.43%	35.83%	29.49%

## (8) 外国語科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.26%	0.91%	11.80%	25.97%	61.06%
I-2	3.25%	4.62%	19.51%	34.92%	37.70%
I-3	37.52%	32.28%	21.98%	5.26%	2.96%
I-4	2.85%	2.07%	59.70%	9.79%	25.59%
I-5	63.07%	14.50%	13.99%	5.43%	3.01%
II-1	1.24%	3.83%	20.01%	37.29%	37.63%
II-2	1.25%	4.67%	58.08%	29.48%	6.51%
II-3	0.50%	1.68%	25.05%	34.95%	37.82%
II-4	0.70%	3.66%	75.15%	16.76%	3.74%
II-5	1.16%	3.26%	15.31%	31.00%	49.27%
II-6	1.14%	3.21%	21.72%	33.81%	40.12%
II-7	1.00%	3.04%	18.28%	35.09%	42.59%
II-8	14.45%	17.00%	39.89%	19.47%	9.19%
II-9	1.51%	5.04%	26.67%	40.43%	26.34%
II-10	3.14%	6.76%	32.58%	34.03%	23.49%
III	1.68%	3.49%	20.52%	37.25%	37.05%

## (9) スポーツ・トレーニング科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.00%	0.75%	10.90%	21.24%	67.11%
I-2	1.12%	2.80%	18.13%	30.65%	47.29%
I-3	0.19%	1.33%	11.55%	29.55%	57.39%
I-4	5.25%	3.87%	50.28%	10.77%	29.83%
II-1	0.19%	1.50%	15.41%	31.58%	51.32%
II-2	3.94%	3.56%	72.98%	12.95%	6.57%
II-3	1.13%	1.13%	89.12%	4.88%	3.75%
II-4	0.37%	1.31%	24.30%	25.98%	48.04%
II-5	0.19%	0.38%	10.11%	23.47%	65.84%
II-6	0.56%	1.31%	14.79%	26.59%	56.74%
II-7	0.19%	1.13%	12.57%	29.27%	56.85%
II-8	0.37%	0.37%	10.30%	30.15%	58.80%
II-9	0.19%	1.70%	11.89%	31.13%	55.09%
II-10	0.00%	2.63%	15.04%	37.59%	44.74%
II-11	0.75%	1.31%	12.38%	35.08%	50.47%
III	0.75%	1.69%	11.07%	26.45%	60.04%

## (10) 教職・社教・日語科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.35%	0.69%	9.94%	27.63%	61.39%
I-2	1.73%	3.35%	17.92%	32.02%	44.97%
I-3	58.04%	23.54%	13.05%	3.96%	1.40%
I-4	3.59%	1.23%	72.31%	11.32%	11.55%
I-5	65.86%	14.93%	12.04%	5.44%	1.74%
II-1	0.81%	3.93%	20.21%	34.99%	40.07%
II-2	0.23%	2.66%	70.37%	23.03%	3.70%
II-3	0.46%	1.04%	21.85%	37.57%	39.08%
II-4	0.35%	3.59%	82.41%	11.69%	1.97%
II-5	0.48%	2.98%	15.99%	31.15%	49.40%
II-6	2.20%	3.13%	23.64%	30.24%	40.79%
II-7	0.35%	3.94%	18.06%	30.56%	47.11%
II-8	27.49%	18.45%	34.45%	12.76%	6.84%
II-9	1.04%	3.24%	28.13%	42.71%	24.88%
II-10	1.51%	4.40%	24.91%	38.93%	30.24%
III	0.82%	2.22%	19.84%	37.92%	39.21%

## (11) ゼミ・外書講読

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.67%	0.67%	12.08%	22.82%	63.76%
I-2	7.07%	8.75%	21.55%	26.94%	35.69%
I-3	29.73%	22.30%	28.38%	10.14%	9.46%
I-4	3.04%	2.49%	20.17%	27.62%	46.69%
I-5	43.48%	18.73%	19.06%	9.03%	9.70%
II-1	0.33%	1.00%	20.40%	29.43%	48.83%
II-2	1.34%	4.36%	64.77%	24.83%	4.70%
II-3	0.33%	1.00%	23.75%	27.76%	47.16%
II-4	0.34%	3.36%	88.26%	3.69%	4.36%
II-5		0.35%	11.19%	22.03%	66.43%
II-6	1.36%		22.37%	24.07%	52.20%
II-7	0.34%	2.70%	14.19%	24.32%	58.45%
II-8	13.18%	14.19%	38.18%	20.61%	13.85%
II-9		0.67%	20.13%	40.94%	38.26%
II-10	1.01%		16.11%	36.91%	45.97%
III	0.34%	1.37%	13.31%	29.69%	55.29%

## (12) 全体（講義科目）

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.46%	0.97%	10.69%	25.19%	62.69%
I-2	5.68%	6.07%	20.51%	30.27%	37.46%
I-3	52.71%	23.14%	16.30%	4.75%	3.10%
I-4	13.39%	2.75%	44.29%	11.70%	27.87%
I-5	67.79%	12.23%	12.30%	4.68%	3.00%
II-1	2.23%	4.69%	22.81%	35.86%	34.41%
II-2	1.01%	3.61%	55.80%	31.18%	8.41%
II-3	0.96%	1.94%	27.15%	35.50%	34.44%
II-4	0.76%	3.24%	73.14%	17.98%	4.88%
II-5	2.32%	4.58%	17.90%	31.26%	43.95%
II-6	2.26%	4.23%	23.24%	32.80%	37.47%
II-7	1.82%	4.48%	21.60%	33.39%	38.71%
II-8	24.18%	17.34%	35.42%	14.69%	8.37%
II-9	2.99%	7.05%	31.52%	37.31%	21.14%
II-10	3.70%	6.74%	32.44%	34.82%	22.31%
III	2.63%	4.74%	24.34%	36.41%	31.88%

## 6. 学部設問項目 平均値・標準偏差

### (1) 政経学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏
IV-1	この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか	専任教員	115	4.08	0.44
		講師(非常勤)	182	4.09	0.41
IV-2	授業に支障をきたすような私語は無い	専任教員	115	4.13	0.53
		講師(非常勤)	182	4.05	0.55

### (2) 外国語学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏
IV-1	この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか	専任教員	96	4.41	0.33
		講師(非常勤)	87	4.16	0.43
IV-2	このクラスの学生数は適切ですか	専任教員	96	4.33	0.42
		講師(非常勤)	87	4.14	0.38

### (3) 工学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏
IV-1	宿題や課題にどれくらい取り組んでいますか	専任教員	87	3.41	0.50
		講師(非常勤)	64	3.26	0.51
IV-2	この授業の内容について、どれくらい質問していますか	専任教員	87	2.36	0.51
		講師(非常勤)	64	2.44	0.62
IV-3	この授業で設定している到達目標について、知識や技術が身につきましたか	専任教員	87	3.17	0.43
		講師(非常勤)	64	3.33	0.46

### (4) 国際学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏
IV-1	授業の開始時間、終了時間は守られている	専任教員	92	4.46	0.29
		講師(非常勤)	156	4.48	0.32
IV-2	出欠はきちんととられている	専任教員	92	4.51	0.46
		講師(非常勤)	156	4.54	0.31
IV-3	授業中、学生同士の私語はない	専任教員	92	4.17	0.46
		講師(非常勤)	156	3.83	0.50
IV-4	1年生は今後進むコースを、2年生以降は所属するコースを選んでください。①国際協力、①国際経済、②国際政治、③国際文化、④国際観光、⑤農業総合	専任教員	92	2.40	0.73
		講師(非常勤)	156	2.65	0.87

## IV コース・分野・学科別集計



## 1. 商学部専門科目（コース別）

区 分 項 目	学 科 コ ー ス 科 目 数	経 営			国際ビジネス		会 計	全 体
		経 営	経営情報	流 通	国際ビジネス	コミュニケーション		
		25	26	20	34		50	155
I-1	平均値	4.47	4.39	4.54	4.39		4.44	4.44
	標準偏差	0.23	0.35	0.16	0.33		0.30	0.29
I-2	平均値	4.20	3.18	4.13	3.94		4.00	3.90
	標準偏差	0.49	0.92	0.50	0.60		0.67	0.73
I-3	平均値	1.83	1.72	1.70	1.89		1.84	1.81
	標準偏差	0.55	0.53	0.24	0.62		0.47	0.50
I-5	平均値	1.71	1.71	1.50	1.74		1.71	1.69
	標準偏差	0.40	0.50	0.16	0.46		0.56	0.47
II-1	平均値	3.95	4.00	4.10	4.08		3.92	4.00
	標準偏差	0.39	0.56	0.25	0.40		0.51	0.45
II-3	平均値	3.98	4.15	4.05	4.04		3.99	4.03
	標準偏差	0.33	0.34	0.25	0.36		0.47	0.38
II-5	平均値	4.03	4.07	4.13	4.04		4.07	4.07
	標準偏差	0.43	0.60	0.34	0.54		0.52	0.50
II-6	平均値	3.94	4.15	4.15	4.06		3.86	4.00
	標準偏差	0.42	0.46	0.40	0.45		0.54	0.48
II-7	平均値	4.07	4.29	4.17	4.04		4.15	4.14
	標準偏差	0.50	0.50	0.34	0.45		0.56	0.50
II-8	平均値	2.55	2.74	2.34	2.39		2.49	2.50
	標準偏差	0.80	0.56	0.36	0.75		0.67	0.67
II-9	平均値	3.65	3.70	3.78	3.81		3.50	3.66
	標準偏差	0.38	0.52	0.25	0.45		0.46	0.45
II-10	平均値	3.69	3.64	3.83	3.84		3.45	3.66
	標準偏差	0.44	0.64	0.33	0.49		0.51	0.52
III	平均値	3.97	3.94	4.11	4.08		3.86	3.97
	標準偏差	0.42	0.61	0.30	0.53		0.53	0.51

### ※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.45	3.44	3.32	3.40		3.58	3.46
	標準偏差	0.40	0.29	0.14	0.31		0.29	0.31
II-4	平均値	3.23	3.29	3.22	3.16		3.29	3.24
	標準偏差	0.31	0.32	0.16	0.27		0.24	0.27

### ※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / コース	経 営	経営情報	流 通	国際ビジネス	コミュニケーション	会 計	全 体
1. 講義への興味	16.0	14.7	12.8	12.3		10.6	13.2
2. 教員にひかれて	4.2	2.5	3.6	2.8		2.4	3.2
3. 単位が必要	43.6	43.8	39.4	40.9		53.5	43.4
4. 単位取得が楽	13.6	10.9	16.1	13.4		11.3	13.7
5. 時間帯が空いている	22.7	28.1	28.1	30.5		22.2	26.4
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0

## 2. 政経学部専門科目（分野別）

区分	分野	法律	政治	行政	経済	全体
設問	科目数	22	27	8	66	123
I-1	平均値	4.46	4.49	4.48	4.41	4.44
	標準偏差	0.16	0.21	0.28	0.29	0.25
I-2	平均値	4.17	4.31	3.88	4.01	4.10
	標準偏差	0.43	0.49	0.57	0.58	0.55
I-3	平均値	1.63	1.84	1.81	1.81	1.78
	標準偏差	0.17	0.58	0.36	0.37	0.40
I-5	平均値	1.47	1.53	1.68	1.60	1.57
	標準偏差	0.16	0.24	0.36	0.42	0.35
II-1	平均値	4.16	4.16	4.19	4.02	4.09
	標準偏差	0.21	0.34	0.46	0.44	0.39
II-3	平均値	4.13	4.20	4.15	4.08	4.12
	標準偏差	0.18	0.25	0.39	0.33	0.30
II-5	平均値	4.13	4.02	4.17	3.93	4.00
	標準偏差	0.32	0.50	0.53	0.57	0.52
II-6	平均値	4.10	4.00	4.16	4.04	4.05
	標準偏差	0.35	0.52	0.45	0.50	0.47
II-7	平均値	4.37	4.41	4.18	4.14	4.24
	標準偏差	0.23	0.24	0.50	0.48	0.42
II-8	平均値	2.10	2.31	2.38	2.57	2.42
	標準偏差	0.30	0.75	0.87	0.67	0.67
II-9	平均値	3.66	3.75	3.75	3.62	3.66
	標準偏差	0.24	0.35	0.26	0.50	0.42
II-10	平均値	3.80	3.92	4.00	3.70	3.79
	標準偏差	0.20	0.35	0.42	0.49	0.43
III	平均値	4.04	4.11	4.08	3.90	3.98
	標準偏差	0.29	0.34	0.40	0.50	0.43

### ※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.44	3.43	3.43	3.46	3.45
	標準偏差	0.21	0.30	0.25	0.25	0.25
II-4	平均値	3.17	3.20	3.13	3.19	3.18
	標準偏差	0.17	0.21	0.14	0.21	0.20

### ※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回答 / 分野	法律	政治	行政	経済	全体
1. 講義への興味	16.4	16.0	13.8	18.7	17.6
2. 教員にひかれて	1.5	1.8	4.0	3.5	2.9
3. 単位が必要	30.0	26.9	34.4	35.5	33.1
4. 単位取得が楽	13.8	16.4	18.0	13.1	14.1
5. 時間帯が空いている	38.3	38.9	29.9	29.1	32.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



### 3. 外国語学部専門科目（学科別）

区 分	学 科	英米語	中国語	スペイン語	全 体
設 問	科 目 数	62	22	37	121
I-1	平 均 値	4.43	4.38	4.43	4.43
	標 準 偏 差	0.41	0.31	0.30	0.36
I-2	平 均 値	3.63	4.11	3.99	3.83
	標 準 偏 差	0.70	0.36	0.60	0.65
I-3	平 均 値	2.07	2.32	2.37	2.21
	標 準 偏 差	0.60	0.56	0.63	0.62
I-5	平 均 値	1.49	1.81	2.01	1.71
	標 準 偏 差	0.40	0.40	0.71	0.56
II-1	平 均 値	4.24	4.23	4.30	4.26
	標 準 偏 差	0.40	0.45	0.33	0.39
II-3	平 均 値	4.20	4.28	4.25	4.23
	標 準 偏 差	0.33	0.36	0.30	0.32
II-5	平 均 値	4.29	4.23	4.40	4.31
	標 準 偏 差	0.43	0.53	0.44	0.45
II-6	平 均 値	4.32	3.98	4.29	4.25
	標 準 偏 差	0.40	0.47	0.38	0.42
II-7	平 均 値	4.23	4.21	4.35	4.26
	標 準 偏 差	0.51	0.58	0.33	0.48
II-8	平 均 値	2.94	3.11	3.02	2.99
	標 準 偏 差	0.83	0.74	0.70	0.77
II-9	平 均 値	4.09	3.98	4.14	4.09
	標 準 偏 差	0.34	0.43	0.37	0.37
II-10	平 均 値	4.01	3.70	4.02	3.95
	標 準 偏 差	0.44	0.40	0.40	0.43
III	平 均 値	4.22	4.10	4.30	4.22
	標 準 偏 差	0.43	0.44	0.38	0.42

#### ※3の回答が適切である項目

II-2	平 均 値	3.23	3.43	3.35	3.30
	標 準 偏 差	0.33	0.27	0.35	0.33
II-4	平 均 値	3.10	3.21	3.18	3.15
	標 準 偏 差	0.27	0.17	0.23	0.25

#### ※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 学 科	英米語	中国語	スペイン語	全 体
1. 講義への興味	5.8	3.6	5.9	5.4
2. 教員にひかれて	1.5	0.7	2.0	1.4
3. 単位が必要	47.3	74.6	51.1	53.2
4. 単位取得が楽	16.7	10.1	18.4	15.8
5. 時間帯が空いている	28.8	10.9	22.6	24.1
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

#### 4. 工学部専門科目

##### (1) 実験・実習科目 (学科別)

区分	学科	機械	電子システム	情報	デザイン	基礎教育	全体
設問	科目数	4	6	5	7	1	23
I-1	平均値	4.86	4.90	4.76	4.59	4.95	4.77
	標準偏差	0.08	0.10	0.08	0.12		0.16
I-2	平均値	2.57	3.13	3.07	3.53	4.78	3.21
	標準偏差	0.25	0.43	0.58	0.48		0.63
I-3	平均値	3.82	4.06	4.08	3.88	4.86	4.00
	標準偏差	0.15	0.48	0.26	0.33		0.38
I-4	平均値	3.89	4.13	4.00	3.74	4.08	3.94
	標準偏差	0.21	0.30	0.18	0.27		0.28
II-1	平均値	3.66	4.16	3.94	3.98	4.32	3.98
	標準偏差	0.43	0.36	0.29	0.44		0.40
II-4	平均値	3.31	3.82	3.37	3.74	3.89	3.61
	標準偏差	0.51	0.32	0.32	0.63		0.49
II-5	平均値	3.57	3.90	3.67	3.95	3.92	3.81
	標準偏差	0.55	0.34	0.45	0.61		0.48
II-6	平均値	3.48	3.82	3.82	4.05	4.14	3.84
	標準偏差	0.26	0.21	0.26	0.61		0.42
II-7	平均値	3.39	3.87	3.85	4.02	4.03	3.83
	標準偏差	0.38	0.18	0.28	0.54		0.41
II-8	平均値	3.66	4.12	3.88	3.84	4.03	3.90
	標準偏差	0.28	0.52	0.31	0.66		0.49
II-9	平均値	3.19	3.85	3.53	3.76	3.81	3.63
	標準偏差	0.32	0.41	0.28	0.55		0.46
II-10	平均値	3.43	3.92	3.74	3.84	4.03	3.77
	標準偏差	0.49	0.47	0.21	0.47		0.43
II-11	平均値	3.22	3.83	3.58	3.90	3.95	3.70
	標準偏差	0.53	0.43	0.16	0.48		0.46
III	平均値	3.46	3.95	3.69	3.87	3.97	3.78
	標準偏差	0.54	0.35	0.30	0.51		0.43

##### ※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.74	3.51	3.76	3.68	3.89	3.67
	標準偏差	0.11	0.28	0.29	0.23		0.25
II-3	平均値	3.39	3.15	3.32	3.44	3.19	3.32
	標準偏差	0.16	0.24	0.12	0.17		0.20

(注) : 「実験・実習用アンケート」で実施した演習等科目を含む。

(2) 学科・学科目別(講義科目)

区分	学科	機 械	電子システム	情 報	デザイン	基礎教育系列	全 体
設 問	科目数	19	24	24	11	26	104
I-1	平均値	4.71	4.67	4.62	4.56	4.69	4.66
	標準偏差	0.12	0.15	0.18	0.19	0.18	0.17
I-2	平均値	3.52	3.35	3.55	3.60	4.00	3.62
	標準偏差	0.62	0.46	0.54	0.55	0.38	0.55
I-3	平均値	1.65	1.95	1.79	2.11	1.88	1.85
	標準偏差	0.48	0.26	0.20	0.65	0.34	0.39
I-5	平均値	1.57	1.88	1.64	1.70	1.86	1.74
	標準偏差	0.20	0.31	0.19	0.42	0.48	0.36
II-1	平均値	3.59	3.67	3.63	3.68	3.87	3.70
	標準偏差	0.46	0.31	0.46	0.42	0.59	0.47
II-3	平均値	3.75	3.80	3.75	3.71	3.94	3.80
	標準偏差	0.38	0.27	0.32	0.27	0.42	0.35
II-5	平均値	3.64	3.89	3.81	3.93	3.92	3.84
	標準偏差	0.52	0.36	0.53	0.43	0.63	0.51
II-6	平均値	3.72	3.74	3.86	3.84	3.83	3.80
	標準偏差	0.41	0.32	0.44	0.33	0.56	0.43
II-7	平均値	3.68	3.74	3.69	3.91	3.90	3.78
	標準偏差	0.53	0.37	0.51	0.24	0.64	0.50
II-8	平均値	2.87	3.16	3.26	3.20	2.68	3.02
	標準偏差	0.58	0.57	0.62	0.79	0.53	0.63
II-9	平均値	3.18	3.24	3.22	3.43	3.45	3.30
	標準偏差	0.38	0.32	0.40	0.42	0.53	0.43
II-10	平均値	3.13	3.30	3.33	3.65	3.40	3.34
	標準偏差	0.42	0.25	0.41	0.37	0.60	0.45
III	平均値	3.37	3.49	3.47	3.65	3.70	3.53
	標準偏差	0.51	0.34	0.47	0.44	0.64	0.50

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.54	3.70	3.68	3.60	3.49	3.60
	標準偏差	0.24	0.26	0.32	0.29	0.28	0.29
II-4	平均値	3.32	3.39	3.34	3.34	3.26	3.33
	標準偏差	0.26	0.21	0.22	0.19	0.23	0.23

※1-4「受講動機」回答の分布(複数回答可)

単位：%

回答/学科	機 械	電子システム	情 報	デザイン	基礎教育系列	全 体
1. 講義への興味	11.7	11.3	16.4	12.7	9.6	13.4
2. 教員にひかれて	1.9	2.8	1.2	1.8	4.0	1.9
3. 単位が必要	63.2	60.9	56.9	50.2	66.9	58.2
4. 単位取得が楽	7.7	9.1	6.2	9.3	6.7	7.8
5. 時間帯が空いている	15.5	15.9	19.4	25.9	12.8	18.8
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## 5. 国際学部科目

### (1) 英語群 (配当学年、回答者の学年で分類)

区 分	回答者学年	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
設 問	科 目 数	40	22	37	21	1	79
I-1	平 均 値	4.50	3.97	4.46	3.70	5.00	4.46
	標 準 偏 差	0.21	0.68	2.00	0.78		0.22
I-2	平 均 値	3.79	3.65	3.83	3.63	1.00	3.81
	標 準 偏 差	0.41	0.81	0.39	0.64		0.40
I-3	平 均 値	1.98	2.17	2.32	2.28	3.00	2.12
	標 準 偏 差	0.40	0.88	5.00	0.84		0.49
I-5	平 均 値	1.72	1.94	1.81	2.00	5.00	1.77
	標 準 偏 差	0.40	1.06	0.31	1.21		0.37
II-1	平 均 値	4.10	4.14	4.05	3.77	3.00	4.09
	標 準 偏 差	0.36	0.69	0.34	0.75		0.37
II-3	平 均 値	4.15	4.16	4.09	3.96	4.00	4.12
	標 準 偏 差	0.32	0.66	0.26	0.60		0.29
II-5	平 均 値	4.29	4.41	4.19	4.27	4.00	4.24
	標 準 偏 差	0.41	0.64	0.34	0.60		0.36
II-6	平 均 値	4.15	4.00	4.17	4.12	4.00	4.16
	標 準 偏 差	0.43	1.12	0.38	0.70		0.41
II-7	平 均 値	4.28	4.12	4.23	3.85	4.00	4.25
	標 準 偏 差	0.41	0.77	0.36	1.10		0.38
II-8	平 均 値	3.09	3.02	3.21	3.17	4.00	3.12
	標 準 偏 差	0.64	0.87	0.64	0.96		0.68
II-9	平 均 値	3.99	4.12	4.05	3.90	4.00	4.04
	標 準 偏 差	0.33	0.79	0.30	0.85		0.33
II-10	平 均 値	3.90	3.94	3.87	3.81	4.00	3.90
	標 準 偏 差	0.37	1.05	0.36	0.85		0.36
III	平 均 値	4.14	4.16	4.12	4.07	4.00	4.14
	標 準 偏 差	0.35	0.85	0.35	0.80		0.35

#### ※3の回答が適切である項目

II-2	平 均 値	3.32	3.33	3.26	3.33	1.00	3.27
	標 準 偏 差	0.28	0.51	0.35	0.73		0.34
II-4	平 均 値	3.14	3.20	3.16	3.29	3.00	3.14
	標 準 偏 差	0.21	0.36	0.20	0.52		0.20

#### ※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
1. 講義への興味	2.5	2.8	1.5	3.6	0.0	2.2
2. 教員にひかれて	1.8	5.6	0.9	3.6	0.0	1.6
3. 単位が必要	65.4	69.4	73.4	75.0	0.0	69.2
4. 単位取得が楽	9.3	13.9	11.8	7.1	0.0	10.8
5. 時間帯が空いている	21.1	8.3	12.4	10.7	100.0	16.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 地域言語群 (配当学年、回答者の学年で分類)

区 分	回答者の学年	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
設 問	科目数	39	18	34	11	11	84
I-1	平均値	4.53	4.43	4.29	3.68	4.45	4.40
	標準偏差	0.22	0.58	0.24	0.90	0.52	0.31
I-2	平均値	4.27	4.44	4.24	3.86	4.50	4.28
	標準偏差	0.27	0.49	0.37	0.78	0.41	0.33
I-3	平均値	2.05	3.10	2.14	2.41	2.33	2.15
	標準偏差	0.42	1.37	0.43	1.43	0.53	0.44
I-5	平均値	1.72	2.74	1.77	2.23	2.14	1.83
	標準偏差	0.46	1.61	0.54	1.25	0.74	0.55
II-1	平均値	4.30	4.22	4.18	3.91	4.49	4.28
	標準偏差	0.25	1.25	0.35	0.30	0.46	0.33
II-3	平均値	4.24	4.15	4.26	3.95	4.06	4.23
	標準偏差	0.23	0.74	0.35	0.47	0.24	0.28
II-5	平均値	4.19	4.36	4.24	3.55	4.25	4.21
	標準偏差	0.39	0.67	0.43	1.44	0.75	0.46
II-6	平均値	4.22	4.26	4.24	3.91	4.47	4.26
	標準偏差	0.30	0.82	0.37	0.83	0.49	0.36
II-7	平均値	4.16	4.25	4.12	4.00	4.63	4.21
	標準偏差	0.31	0.67	0.40	0.63	0.42	0.39
II-8	平均値	2.92	3.28	2.98	3.14	2.57	2.91
	標準偏差	0.49	1.13	0.56	1.00	0.69	0.55
II-9	平均値	4.06	4.26	4.04	3.82	4.32	4.09
	標準偏差	0.29	0.60	0.35	0.60	0.38	0.33
II-10	平均値	4.01	4.18	4.01	3.36	4.54	4.08
	標準偏差	0.42	0.90	0.39	1.03	0.35	0.42
III	平均値	4.29	4.43	4.25	4.09	4.80	4.35
	標準偏差	0.34	0.71	0.42	0.70	0.36	0.40

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.34	3.35	3.42	3.45	3.20	3.35
	標準偏差	0.26	0.88	0.27	0.69	0.26	0.27
II-4	平均値	3.19	3.22	3.18	3.18	3.01	3.17
	標準偏差	0.18	0.72	0.18	0.87	0.13	0.19

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
1. 講義への興味	3.1	12.9	1.2	0.0	7.1	3.0
2. 教員にひかれて	2.0	0.0	2.0	0.0	1.8	1.8
3. 単位が必要	41.3	38.7	53.2	44.4	1.8	42.7
4. 単位取得が楽	12.4	12.9	15.6	22.2	33.9	15.0
5. 時間帯が空いている	41.3	35.5	28.0	33.3	55.4	37.4
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 基礎科目群 (回答者の学年で分類)

区 分	回答者の学年	1 年	2 年	3・4 年	全 体
設 問	科目数	15	12	9	19
I-1	平均値	4.55	4.51	4.04	4.55
	標準偏差	0.25	0.45	1.21	0.21
I-2	平均値	3.63	3.89	3.38	3.85
	標準偏差	0.98	0.69	1.12	0.64
I-3	平均値	1.80	1.87	1.62	1.87
	標準偏差	0.44	0.53	0.58	0.33
I-5	平均値	1.71	1.86	1.93	1.83
	標準偏差	0.41	0.66	1.01	0.37
II-1	平均値	3.94	4.31	4.26	4.22
	標準偏差	1.16	0.29	0.61	0.35
II-3	平均値	3.95	4.55	3.92	4.25
	標準偏差	1.18	0.32	0.64	0.41
II-5	平均値	3.91	4.26	4.19	4.17
	標準偏差	1.16	0.29	0.68	0.46
II-6	平均値	3.97	4.31	4.00	4.24
	標準偏差	1.15	0.47	0.85	0.38
II-7	平均値	3.97	4.36	3.83	4.22
	標準偏差	1.16	0.48	0.86	0.37
II-8	平均値	2.58	2.79	2.93	2.77
	標準偏差	0.89	0.56	0.81	0.47
II-9	平均値	3.71	4.13	3.80	3.97
	標準偏差	1.08	0.34	0.90	0.39
II-10	平均値	3.68	4.20	3.78	3.95
	標準偏差	1.08	0.36	0.50	0.41
III	平均値	3.85	4.16	4.09	4.11
	標準偏差	1.13	0.41	0.98	0.41

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.21	3.49	3.26	3.39
	標準偏差	0.93	0.43	0.36	0.28
II-4	平均値	3.00	3.43	3.31	3.21
	標準偏差	0.85	0.45	0.43	0.19

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1 年	2 年	3・4 年	全 体
1. 講義への興味	9.7	6.6	7.3	8.7
2. 教員にひかれて	3.8	1.3	0.0	3.1
3. 単位が必要	46.4	53.9	41.5	47.1
4. 単位取得が楽	12.7	11.8	9.8	12.0
5. 時間帯が空いている	27.4	26.3	41.5	29.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

(4) 専門共通科目 (回答者の所属で分類)

区分	科目区分	専門(1年)	専門(2年)	専門(3・4年)	全体
設問	科目数	17	18	17	20
I-1	平均値	4.68	4.37	4.10	4.50
	標準偏差	0.20	0.57	0.62	0.21
I-2	平均値	3.73	3.63	3.90	3.84
	標準偏差	0.88	0.70	0.64	0.59
I-3	平均値	1.64	1.90	1.93	1.73
	標準偏差	0.31	0.62	0.51	0.30
I-5	平均値	1.58	1.86	1.84	1.66
	標準偏差	0.26	0.76	0.73	0.22
II-1	平均値	4.09	3.93	4.09	4.06
	標準偏差	0.44	0.57	0.40	0.40
II-3	平均値	4.11	4.00	4.07	4.07
	標準偏差	0.31	0.55	0.51	0.24
II-5	平均値	4.18	3.96	4.16	4.10
	標準偏差	0.32	0.45	0.48	0.27
II-6	平均値	4.12	3.77	4.07	4.04
	標準偏差	0.42	0.43	0.52	0.34
II-7	平均値	4.14	3.73	3.99	4.10
	標準偏差	0.48	0.61	0.59	0.42
II-8	平均値	2.38	2.67	2.59	2.49
	標準偏差	0.53	0.59	0.49	0.40
II-9	平均値	3.92	3.52	3.77	3.76
	標準偏差	0.50	0.43	0.40	0.41
II-10	平均値	3.98	3.47	3.99	3.89
	標準偏差	0.52	0.51	0.49	0.43
III	平均値	3.98	3.61	3.93	3.92
	標準偏差	0.55	0.57	0.43	0.42

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.35	3.57	3.41	3.42
	標準偏差	0.21	0.48	0.32	0.25
II-4	平均値	3.21	3.23	3.15	3.21
	標準偏差	0.16	0.31	0.18	0.15

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 / 科目区分	専門(1年)	専門(2年)	専門(3・4年)	全体
1. 講義への興味	13.6	8.6	9.8	12.3
2. 教員にひかれて	3.0	2.9	1.3	2.6
3. 単位が必要	32.3	47.6	43.6	36.6
4. 単位取得が楽	13.1	13.3	15.8	13.2
5. 時間帯が空いている	38.1	27.6	29.5	35.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

(5) 専門コース科目（回答者の所属で分類）

区 分	科目区分	国際協力		国際経済		国際政治		国際文化		国際観光		農業総合		専門コース科目	
	科目数	10		14		11		5		4		2		46	
設 問	学生所属	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻
I-1	平均値	4.30	4.44	4.14	4.23	4.20	4.16	4.45	4.45	4.59	4.77	4.15	4.18	4.26	4.33
	標準偏差	0.21	0.37	0.27	0.34	0.15	0.35	0.15	0.25	0.14	0.09	0.21	0.26	0.24	0.36
I-2	平均値	3.35	3.72	3.66	3.90	3.53	3.52	3.51	3.44	4.65	4.81	3.88	3.55	3.64	3.79
	標準偏差	0.40	0.69	0.41	0.50	0.26	0.55	0.50	0.51	0.29	0.19	0.18	0.77	0.49	0.64
I-3	平均値	1.92	2.12	1.98	1.97	1.70	1.82	1.75	1.56	1.89	1.80	1.73	1.68	1.85	1.89
	標準偏差	0.51	0.96	0.40	0.64	0.17	0.44	0.16	0.14	0.12	0.21	0.67	0.96	0.36	0.64
I-5	平均値	1.98	2.37	1.89	1.90	1.64	1.68	1.68	1.33	1.79	1.76	2.33	3.18	1.84	1.93
	標準偏差	0.58	1.19	0.38	0.56	0.28	0.53	0.24	0.14	0.19	0.16	1.17	0.26	0.44	0.78
II-1	平均値	3.95	4.08	3.94	4.09	3.95	4.04	3.63	3.47	4.34	4.39	4.05	3.64	3.95	4.01
	標準偏差	0.27	0.49	0.34	0.44	0.33	0.51	0.66	0.52	0.30	0.33	0.42	0.90	0.38	0.52
II-3	平均値	3.89	4.11	4.04	4.21	3.99	4.11	3.80	3.79	4.30	4.38	4.05	3.64	3.99	4.11
	標準偏差	0.21	0.36	0.26	0.43	0.31	0.41	0.45	0.57	0.29	0.20	0.42	0.90	0.30	0.44
II-5	平均値	3.98	4.17	3.77	3.89	3.98	4.17	3.79	3.63	4.36	4.46	4.25	3.95	3.94	4.04
	標準偏差	0.23	0.42	0.62	0.70	0.43	0.43	0.65	0.45	0.33	0.25	0.00	0.06	0.49	0.54
II-6	平均値	4.09	4.34	3.97	4.11	3.97	4.15	3.84	3.79	4.21	4.25	4.60	4.18	4.03	4.15
	標準偏差	0.16	0.40	0.41	0.53	0.43	0.38	0.69	0.58	0.47	0.55	0.21	0.26	0.42	0.47
II-7	平均値	4.04	4.18	4.10	4.20	4.11	4.24	3.86	3.85	4.36	4.41	4.30	3.23	4.09	4.14
	標準偏差	0.34	0.47	0.34	0.42	0.33	0.38	0.41	0.40	0.36	0.42	0.42	1.74	0.35	0.52
II-8	平均値	2.72	2.96	2.48	2.28	2.27	2.45	2.17	2.11	2.12	1.91	2.93	2.82	2.44	2.44
	標準偏差	0.76	1.04	0.39	0.42	0.34	0.57	0.28	0.27	0.51	0.39	0.11	0.26	0.51	0.69
II-9	平均値	3.69	4.00	3.62	3.76	3.83	4.06	3.63	3.56	4.25	4.30	3.95	3.64	3.76	3.90
	標準偏差	0.28	0.57	0.34	0.52	0.29	0.39	0.77	0.63	0.39	0.43	0.64	0.90	0.41	0.54
II-10	平均値	3.85	4.13	3.78	3.95	3.90	4.13	3.69	3.67	4.35	4.44	4.13	3.68	3.88	4.03
	標準偏差	0.34	0.49	0.37	0.44	0.28	0.35	0.70	0.57	0.32	0.31	0.53	0.96	0.41	0.48
III	平均値	3.87	4.16	3.87	4.07	3.95	4.14	3.67	3.61	4.43	4.53	4.40	4.23	3.94	4.10
	標準偏差	0.32	0.60	0.39	0.46	0.31	0.34	0.79	0.73	0.29	0.26	0.21	0.32	0.43	0.51

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.38	3.54	3.40	3.31	3.25	3.24	3.35	3.31	3.27	3.22	3.25	3.09	3.33	3.32
	標準偏差	0.23	0.48	0.19	0.27	0.17	0.25	0.29	0.22	0.29	0.25	0.00	0.13	0.21	0.33
II-4	平均値	3.15	3.17	3.16	3.11	3.12	3.16	3.21	3.15	3.23	3.24	3.08	3.05	3.15	3.15
	標準偏差	0.13	0.52	0.15	0.24	0.07	0.16	0.10	0.12	0.20	0.20	0.11	0.06	0.13	0.29

単位：%

回 答 / 科目区分	国際協力		国際経済		国際政治		国際文化		国際観光		農業総合		専門コース科目	
1. 講義への興味	11.5	12.8	11.3	12.6	9.7	8.1	11.1	15.4	6.2	4.5	3.8	4.5	10.3	10.5
2. 教員にひかれて	2.9	1.1	2.4	2.0	2.5	1.6	2.5	3.4	0.9	0.9	3.8	0.9	2.4	2.0
3. 単位が必要	36.2	35.1	40.0	44.4	36.3	37.9	38.3	47.0	31.9	25.0	30.8	25.0	37.0	37.9
4. 単位取得が楽	18.8	7.4	15.5	9.3	22.4	22.6	13.9	8.5	15.5	17.9	34.6	17.9	18.1	13.9
5. 時間帯が空いている	30.5	43.6	30.9	31.8	29.1	29.8	34.3	25.6	45.6	51.8	26.9	51.8	32.2	35.8
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



## 6. 教養教育科目

### (1) 講義科目 (群別)

項目	群	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群	第8群	第9群	第10群	第12群	全体
	科目数	7	5	6	9	9	5	7	4		18	23	93
I-1	平均値	4.34	4.19	4.60	4.33	4.44	4.44	4.49	4.33		4.35	4.54	4.43
	標準偏差	0.24	0.40	0.24	0.24	0.30	0.10	0.09	0.22		0.47	0.33	0.32
I-2	平均値	4.16	3.28	3.55	3.66	4.03	3.52	4.25	3.57		3.55	2.55	3.45
	標準偏差	0.56	0.81	0.23	0.52	0.50	0.77	0.47	0.77		0.80	0.52	0.81
I-3	平均値	1.41	1.67	1.69	1.45	1.51	1.47	1.48	1.55		1.63	1.50	1.53
	標準偏差	0.10	0.16	0.56	0.12	0.09	0.15	0.21	0.30		0.28	0.40	0.29
I-5	平均値	1.32	1.50	1.47	1.35	1.31	1.39	1.53	1.53		1.53	1.64	1.48
	標準偏差	0.17	0.23	0.24	0.09	0.13	0.14	0.17	0.35		0.34	0.32	0.28
II-1	平均値	3.81	3.40	3.88	3.44	3.95	3.64	3.53	3.75		4.08	4.10	3.85
	標準偏差	0.39	0.43	0.25	0.57	0.27	0.50	0.32	0.39		0.57	0.39	0.48
II-3	平均値	3.90	3.74	3.92	3.69	4.02	3.75	3.87	4.03		4.10	4.05	3.96
	標準偏差	0.23	0.08	0.21	0.31	0.21	0.29	0.30	0.18		0.31	0.29	0.29
II-5	平均値	4.03	3.91	4.03	3.38	3.99	3.74	3.47	3.74		4.27	4.20	3.97
	標準偏差	0.30	0.08	0.33	0.70	0.49	0.73	0.37	0.63		0.38	0.39	0.51
II-6	平均値	3.91	3.82	4.05	3.63	3.89	3.83	3.92	3.81		3.89	4.01	3.90
	標準偏差	0.35	0.50	0.26	0.63	0.28	0.41	0.45	0.47		0.53	0.37	0.43
II-7	平均値	4.12	3.46	3.75	3.86	4.15	3.73	3.87	3.99		4.32	4.13	4.03
	標準偏差	0.22	0.41	0.44	0.52	0.20	0.43	0.26	0.26		0.25	0.40	0.41
II-8	平均値	1.89	2.29	2.51	2.03	2.21	2.57	2.47	2.48		2.30	2.78	2.42
	標準偏差	0.25	0.37	0.87	0.52	0.34	0.42	0.69	0.89		0.34	0.73	0.61
II-9	平均値	3.47	3.42	3.67	3.20	3.65	3.56	3.21	3.50		3.98	3.86	3.64
	標準偏差	0.45	0.31	0.16	0.37	0.24	0.41	0.45	0.51		0.46	0.40	0.46
II-10	平均値	3.63	3.64	3.73	3.32	3.59	3.69	3.30	3.66		4.00	3.44	3.60
	標準偏差	0.26	0.23	0.33	0.35	0.26	0.42	0.34	0.45		0.34	0.40	0.40
III	平均値	3.85	3.68	3.81	3.46	3.86	3.71	3.47	3.70		4.07	3.89	3.80
	標準偏差	0.37	0.31	0.23	0.41	0.24	0.45	0.45	0.34		0.52	0.48	0.45

### ※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.38	3.17	3.16	3.30	3.33	3.22	3.72	3.47		3.20	3.47	3.36
	標準偏差	0.25	0.28	0.07	0.20	0.25	0.13	0.41	0.31		0.30	0.37	0.32
II-4	平均値	3.15	2.92	3.07	3.17	3.19	3.09	3.34	3.40		2.98	3.42	3.19
	標準偏差	0.09	0.45	0.08	0.21	0.17	0.18	0.40	0.29		0.35	0.37	0.33

### ※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 / 群	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群	第8群	第9群	第10群	第12群	全体
1. 講義への興味	26.6	18.2	25.6	29.3	27.0	28.9	24.9	24.5		16.1	5.3	23.5
2. 教員にひかれて	2.5	7.7	5.2	3.7	1.6	5.6	2.3	3.7		4.7	3.0	3.9
3. 単位が必要	26.5	27.1	30.0	30.4	29.2	28.7	40.7	33.3		31.5	76.0	33.5
4. 単位取得が楽	7.2	8.1	7.6	5.4	8.5	4.6	4.8	5.1		10.6	4.7	6.8
5. 時間帯が空いている	37.2	38.9	31.7	31.3	33.7	32.3	27.4	33.3		37.2	11.0	32.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0

(2) 外国語科目 (商・政経・外国語学部、12カ国語)

項目	外国語	英語	A語	B・P語	C語	F語	G語	K語	I・M語	I・P語	R語	S語	日本語	全体
	科目数	139	1	3	24	15	16	13	12		3	17	31	274
I-1	平均値	4.46	4.00	4.46	4.52	4.45	4.46	4.57	4.66		4.48	4.38	4.57	4.49
	標準偏差	0.32		0.27	0.19	0.27	0.23	0.16	0.28		0.54	0.30	0.29	0.29
I-2	平均値	3.82	4.00	3.98	4.28	4.25	4.15	4.11	4.23		4.38	4.05	4.11	3.99
	標準偏差	0.53		1.14	0.44	0.43	0.53	0.37	0.59		0.40	0.45	0.39	0.53
I-3	平均値	1.89	2.50	1.72	2.09	1.96	2.15	1.84	1.92		1.64	1.89	2.57	2.00
	標準偏差	0.46		0.14	0.49	0.42	0.57	0.25	0.17		0.49	0.42	0.45	0.49
I-5	平均値	1.62	1.33	1.39	1.66	1.68	1.81	1.47	2.12		1.41	1.57	2.59	1.75
	標準偏差	0.41		0.28	0.46	0.36	0.66	0.19	1.36		0.40	0.33	0.49	0.59
II-1	平均値	3.98	4.33	4.24	4.20	4.20	4.12	4.19	4.12		3.95	3.95	4.29	4.07
	標準偏差	0.45		0.38	0.33	0.48	0.50	0.22	0.51		0.42	0.56	0.49	0.46
II-3	平均値	3.99	4.50	4.06	4.18	4.08	4.15	4.12	3.84		3.84	4.11	4.19	4.05
	標準偏差	0.41		0.62	0.27	0.42	0.40	0.20	0.40		0.39	0.37	0.46	0.40
II-5	平均値	4.12	4.67	4.35	4.17	4.17	4.20	4.29	4.21		3.80	3.89	4.35	4.16
	標準偏差	0.50		0.33	0.49	0.52	0.53	0.25	0.54		0.88	0.68	0.51	0.52
II-6	平均値	4.07	4.67	4.42	4.04	4.10	4.08	4.11	4.31		3.65	3.85	4.22	4.09
	標準偏差	0.46		0.26	0.24	0.48	0.52	0.32	0.41		0.36	0.49	0.43	0.45
II-7	平均値	4.18	4.67	4.36	4.21	4.17	4.30	4.11	4.25		4.00	4.05	4.24	4.19
	標準偏差	0.47		0.31	0.41	0.49	0.43	0.29	0.58		0.71	0.50	0.50	0.46
II-8	平均値	2.60	2.33	2.59	2.93	2.44	2.88	2.78	2.94		2.21	2.96	2.72	2.69
	標準偏差	0.62		0.47	0.60	0.56	0.56	0.45	0.50		0.53	0.62	0.60	0.61
II-9	平均値	3.80	4.00	4.08	3.80	3.69	3.78	3.83	3.82		3.79	3.29	4.26	3.82
	標準偏差	0.43		0.13	0.47	0.47	0.54	0.30	0.65		0.46	0.51	0.42	0.49
II-10	平均値	3.52	4.00	3.65	3.61	3.64	3.65	3.69	3.88		3.57	3.31	4.04	3.62
	標準偏差	0.52		0.21	0.49	0.65	0.62	0.30	0.61		0.43	0.52	0.49	0.55
III	平均値	3.96	4.33	4.12	4.05	4.07	4.11	4.11	4.10		4.15	3.73	4.33	4.03
	標準偏差	0.52		0.34	0.40	0.57	0.54	0.32	0.59		0.69	0.64	0.55	0.53

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.24	3.33	3.10	3.50	3.54	3.52	3.28	3.44		3.38	3.78	3.15	3.33
	標準偏差	0.31		0.36	0.27	0.26	0.29	0.29	0.44		0.33	0.34	0.26	0.34
II-4	平均値	3.08	3.17	2.92	3.23	3.20	3.17	3.22	3.21		3.22	3.42	3.08	3.14
	標準偏差	0.19		0.13	0.21	0.21	0.18	0.21	0.31		0.38	0.33	0.23	0.24

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 /	外国語	英語	A語	B・P語	C語	F語	G語	K語	I・M語	I・P語	R語	S語	日本語	全体
1. 講義への興味		4.0	16.7	0.0	2.0	0.6	3.9	2.9	2.5		7.7	3.1	3.2	3.4
2. 教員にひかれて		1.9	0.0	0.0	1.3	1.9	0.5	1.9	11.0		7.7	2.6	4.7	2.4
3. 単位が必要		70.9	50.0	17.4	64.6	62.7	54.9	52.4	33.9		30.8	53.6	46.9	62.1
4. 単位取得が楽		8.1	0.0	21.7	8.9	11.8	10.3	5.8	7.6		15.4	4.7	10.0	8.4
5. 時間帯が空いている		15.1	33.3	60.9	23.3	23.0	30.4	36.9	44.9		38.5	35.9	35.2	23.6
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注1. A語：アラビア語、B・P語：ブラジル・ポルトガル語、C語：中国語、F語：フランス語、  
G語：ドイツ語、K語：韓国語、I・M語：インドネシア・マレーシア語、  
I・P語：インド・パキスタン語 (実施科目なし)、R語：ロシア語、S語：スペイン語

注2. 国際学部の地域言語は、47ページを参照

### (3) スポーツ・トレーニング科目

設 問	科 目 数	28
I-1	平均値	4.51
	標準偏差	0.25
I-2	平均値	4.21
	標準偏差	0.24
I-3	平均値	4.37
	標準偏差	0.27
II-1	平均値	4.33
	標準偏差	0.29
II-4	平均値	4.22
	標準偏差	0.35
II-5	平均値	4.48
	標準偏差	0.31
II-6	平均値	4.38
	標準偏差	0.37
II-7	平均値	4.42
	標準偏差	0.34
II-8	平均値	4.48
	標準偏差	0.27
II-9	平均値	4.37
	標準偏差	0.30
II-10	平均値	4.23
	標準偏差	0.26
II-11	平均値	4.33
	標準偏差	0.25
III	平均値	4.43
	標準偏差	0.31
IV-1	平均値	4.28
	標準偏差	0.25
IV-2	平均値	3.92
	標準偏差	0.54
IV-3	平均値	3.47
	標準偏差	0.39

#### ※3の回答が適切である項目

設 問	科 目 数	28
II-2	平均値	3.15
	標準偏差	0.25
II-3	平均値	3.09
	標準偏差	0.14

#### ※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

回 答	全 体
1. 講義への興味	5.2
2. 教員にひかれて	3.9
3. 単位が必要	50.3
4. 単位取得が楽	10.8
5. 時間帯が空いている	29.8
合 計	100.0

(4) 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目

区分	課程・講座	教 職	社 教	日 語	全 体
設 問	科目数	32	1	5	38
I-1	平均値	4.52	4.22	4.50	4.51
	標準偏差	0.23		0.17	0.22
I-2	平均値	4.17	3.00	4.08	4.13
	標準偏差	0.45		0.54	0.49
I-3	平均値	1.70	1.44	1.59	1.68
	標準偏差	0.47		0.26	0.44
I-5	平均値	1.74	1.67	1.62	1.72
	標準偏差	0.49		0.48	0.48
II-1	平均値	4.13	4.00	4.25	4.14
	標準偏差	0.35		0.49	0.36
II-3	平均値	4.15	4.33	4.37	4.19
	標準偏差	0.31		0.29	0.31
II-5	平均値	4.21	4.44	4.53	4.25
	標準偏差	0.38		0.26	0.38
II-6	平均値	4.06	4.11	4.25	4.09
	標準偏差	0.38		0.21	0.36
II-7	平均値	4.28	4.33	4.41	4.30
	標準偏差	0.42		0.26	0.40
II-8	平均値	2.68	3.22	1.87	2.59
	標準偏差	0.68		0.26	0.70
II-9	平均値	3.87	3.78	4.26	3.92
	標準偏差	0.35		0.37	0.36
II-10	平均値	3.95	4.11	4.28	3.99
	標準偏差	0.34		0.41	0.36
III	平均値	4.15	4.11	4.41	4.18
	標準偏差	0.37		0.40	0.38

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.24	3.00	3.26	3.24
	標準偏差	0.21		0.05	0.20
II-4	平均値	3.09	3.00	3.00	3.08
	標準偏差	0.16		0.06	0.15

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 課程・講座	教 職	社 教	日 語	全 体
1. 講義への興味	3.6	0.0	5.3	3.7
2. 教員にひかれて	1.4	0.0	0.0	1.3
3. 単位が必要	74.4	63.6	34.2	71.0
4. 単位取得が楽	12.1	18.2	7.9	11.8
5. 時間帯が空いている	8.5	18.2	52.6	12.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

## V 評価及び課題



## 1. 商学部

### (1) アンケート実施状況

平成 24 年度に「授業改善のための学生アンケート」を実施した商学部の教員数は、専任教員 48 名、講師（非常勤）116 名であり、実施率はそれぞれ 100 %、99.1 %（講師の未実施者数 1 名）。専任教員に関しては平成 12 年度から今年度まで実施率は 100%であるが、講師に関しては 6 年ぶりに 100 %を下回った。しかしながら、これらの数字から判断する限り、専任教員、講師とも「授業改善のための学生アンケート」の実施の必要性に関して、一定の理解が得られているようである。

平成 24 年度の実施科目数は専任教員 99 科目、講師 215 科目であり、1 年生から 4 年生まで延べ 9,027 名（昨年 11,585 名）が回答している。1 年生は 3,393 名（昨年 4,026 名）、2 年生は 2,535 名（昨年 3,035 名）、3 年生は 2,094 名（昨年 3,189 名）、4 年生 987 名（昨年 1,313 名）と、昨年に比べて全体的に回答者数は減少している。

アンケートはその実施が目的ではない。アンケートの結果が教員に適性にフィードバックされて、授業改善が行われることが目的である。この観点から、集計結果を分析し、今後取り組むべき課題とその解決策を指摘する。

### (2) 集計結果

#### ①. アンケート設問項目別の点検・評価

- ・「学生の出席状況」（設問項目 I -1）について、平成 24 年度の平均値は 4.44（5 点満点）（昨年 4.50）であった。専任教員の科目が 4.46（昨年 4.52）、講師の科目は 4.46（昨年 4.53）であった。専任教員と講師との間に平均値の差はみられないが、いずれも昨年に比べると 0.06~0.07 ポイントの低下が見られる。
- ・「ノートやメモをきちんととっているか」（設問項目 I -2）の平均値は、全体で 3.99（昨年 4.00）、専任教員の科目は 3.94（昨年 4.04）、講師の科目 3.86（昨年 4.01）といずれも昨年に比べて微減傾向にある。
- ・「どのくらい予習・復習を行っているか」（設問項目 I -3、① 30 分未満、② 30 分以上、③ 1 時間以上、④ 2 時間以上、⑤ 4 時間以上）の平均値は、全体で 1.78、専任教員の科目は 1.86、講師の科目 1.88 であり、平均的に予習復習の時間は 1 時間に満たないことがわかる。今年度から新設された質問項目であるため、昨年度の値とは比較できないが、決して高い数字とは言えない。まだまだノート等をとらず（あるいはノートをうまくとれず）、予習等を通して教室以外で学習する機会は少ない（あるいは学習する気はない）といった傾向があるかもしれない。単位制の本来の目的を遂行するためにも、教員は予習・復習を必要とするような授業、例えば、次回講義の予告、小テストの実施やレポートの提出を求めるなどの工夫をする必要があるだろう。
- ・「受講動機」（設問項目 I -4）については、①この時間帯が空いていたから 13.53 %、②単位取得が楽だから 3.33 %、③単位が必要だから 43.50 %、④教員にひかれて 13.91 %、⑤講義要項を読んで興味を持ったから 25.72 %という結果であった。受講動機の中で、講義内容および教員の魅力以外の動機が 60 %以上を占め、学生が主体的に授業に

参加しているとは言えない状況である。

- ・「授業時間以外に先生へ質問に行くことがあるか」（設問項目Ⅰ-5）の平均値は、全体で 1.64、専任教員の科目は 1.69、講師の科目 1.63 と、学生がオフィスアワー等に先生に質問に行く程度はそれほど高いとは言えない。
- ・「授業の狙い」（設問項目Ⅱ-1）の平均値は、全体で 4.00（昨年 3.95）、専任教員の科目は 4.03（昨年 3.97）、講師の科目は 4.01（昨年 4.09）と、やや専任教員の科目の平均値が高い。講師の平均値が昨年に比べて低くなっているのに対して、専任教員の平均値は向上し、全体としても向上している。シラバスにある授業の目的や達成目標を「○○できる」「○○が身につく」などの表現で統一したことが一因であると考えられる。
- ・「講義要項に沿って授業が行われているか」（設問項目Ⅱ-3）の平均値は、全体で 4.02、専任教員の科目は 4.08、講師の科目 4.05 となっており、講師に比べて専任教員の平均値がやや高いが、概ね講義要項に沿った授業が行われていると考えて良いだろう。
- ・「話し方や声は聞き取りやすいか」（設問項目Ⅱ-5）である。平均値は全体で 4.07（昨年 3.98）、専任教員の科目は 4.07（昨年 4.01）、講師の科目 4.12（昨年 4.12）となっており、昨年に比べて向上している。
- ・「教材等は授業内容を理解するのに有効か」（設問項目Ⅱ-6）である。平均値は全体で 3.99（昨年 3.89）、専任教員の科目は 4.04（昨年 3.89）、講師の科目 4.02（昨年 3.99）となっており、こちらも昨年に比べて向上している。
- ・「教室内の雰囲気」（設問項目Ⅱ-7）の平均値は、全体で 4.13、専任教員の科目は 4.18、講師の科目 4.15 となっており、概ね高い値を示しているだけでなく、ここ数年で平均値が向上していることも好ましい結果である。
- ・「宿題・課題の大変さ」（設問項目Ⅱ-8）の平均値は、全体で 2.43、専任教員の科目は 2.57、講師の科目 2.62 となっており、どちらかと言えば、宿題・課題は大変ではないという結果である。
- ・「授業の内容は理解できたか」（設問項目Ⅱ-9）の平均値は、全体で 3.63（昨年 3.63）、専任教員の科目は 3.70（昨年 3.70）、講師の科目 3.78（昨年 3.85）となっており、決して高い値とも言えないため、わかりやすい授業を行うための工夫が必要である。
- ・「授業を通じてものの見方や考え方が深まったか」（設問項目Ⅱ-10）の平均値は、全体で 3.64、専任教員の科目は 3.70、講師の科目 3.63 となっている。平均値自体決して高い値とも言えないため、授業を通じてものの見方や考え方が深まったかどうかを実感できるような工夫があっても良いかもしれない。
- ・「満足度」（設問項目Ⅲ）の平均値は、全体で 3.95（昨年 3.80）、専任教員の科目は 3.98（昨年 3.85）、講師の科目 3.99（昨年 3.98）となっている、昨年に比べて向上しており、望ましい結果である。

全国的な FD の研究会等では、満足度の数値が 5 段階評価で 3.5 以上であることが望ましいとされているようであるが、この基準に従えば、商学部専門科目は合格ラインを満たしているという結果にはなっている。



## ②. 学科別の結果の点検

- ・「満足度」は、経営 3.86 (昨年 3.75)、国際ビジネス 3.88 (昨年 3.80)、会計 3.82 (昨年 3.83) と、経営、国際ビジネス学科は昨年に比べて向上している。学生の理解度や満足度、関心度に影響を与えるとされている項目について見ると、まず「話し方や声は聞きやすいか」は、平成 23 年度が経営 3.91、国際ビジネス 3.94、会計 3.97 であったのに対して、24 年度はそれぞれ 3.95、3.96、3.99 と、いずれの学科においても向上している。
- ・「教材等は授業内容を理解するのに有効か」は、平成 23 年度が経営 3.81、国際ビジネス 3.87、会計 3.92 であったのに対して、24 年度は 3.92、3.92、3.94 と、「話し方や声は聞きやすいか」の項目と同様に、いずれの学科においても向上している。これらの項目の向上が、全体の満足度に少なからず影響を与えているものと思われる。
- ・「学生の出席状況」については、経営 4.49 (昨年 4.53)、国際ビジネス 4.42 (昨年 4.51)、会計 4.51 (昨年 4.67) と、昨年に比べていずれの学科においても平均値が低下している。
- ・「ノートやメモをとっているか」については、経営 4.01 (昨年 4.05)、国際ビジネス 3.89 (昨年 4.05)、会計 3.86 (昨年 4.10) と、昨年に比べていずれの学科においても平均値が低下している。
- ・「予習・復習」については、経営 1.73、国際ビジネス 1.77、会計 1.66 と、いずれの学科においても平均するとそれほど多くの時間が予習・復習に充てられているとは言えない。
- ・「学生の出席状況」「ノートやメモをとっているか」の平均値の低下と、「予習・復習」の平均値の低さを鑑みると、学生の主体性が低下している可能性がある。基礎ゼミ I 等で学生に対する働きかけを積極的に行っていく必要があるだろう。
- ・「授業の狙いやポイントが明確か」については、経営 3.90 (昨年 3.90)、国際ビジネス 3.92 (昨年 3.95)、会計 3.95 (昨年 3.99) と、経営が昨年と同水準であるのに対して、国際ビジネスと会計学科において微減傾向が見られる。
- ・「講義要項に沿った授業か」については、経営 3.94、国際ビジネス 3.97、会計 3.98 と決して低くはない値であるため、いずれの学科においても概ね講義要項に沿った授業が行われていると考えられる。
- ・「授業の内容は理解できたか」については、経営 3.60 (昨年 3.59)、国際ビジネス 3.64 (昨年 3.67)、会計 3.52 (昨年 3.62) と、経営は昨年に比べて向上しているものの、国際ビジネスと会計において低下している。特に会計においては 0.1 ポイントも低下している。
- ・「ものの見方や考え方が深まったか」については、経営 3.55 (昨年 3.56)、国際ビジネス 3.57 (昨年 3.68)、会計 3.44 (昨年 3.57) と、いずれの学科においても昨年に比べて低下しているが、特に国際ビジネスと会計においては 0.1 ポイント以上の低下が見られる。

以上の、「授業の内容は理解できたか」「ものの見方や考え方が深まったか」といった

講義内容の本質に関わる項目について共通して言えることは、会計学科において大幅な低下傾向が見られることであり、今後注意が必要であろう。

### (3) 今後の課題

第1に、教員個人レベルでのFD活動に関して、学生による評価結果に対する教員のコメントをさらに学生にフィードバックするためにも、学生による評価結果をわかりやすい形で全面公開することが望ましいと考えられる。可能な限りアンケート期間中の早期にアンケートを実施し、授業期間中に学生に結果をフィードバックすることが望ましい。来年度は前期中にアンケートを実施する予定であるため、通年科目や、セメスター科目であっても前期と後期で履修学生がほぼ同じという科目の場合には、後期の講義中にアンケートの結果を学生達にフィードバックすることが可能である。

第2に、組織レベルでのFD活動に関して、学科・コース等の構成メンバーである教員が学生による評価結果を持ち寄り、お互いに情報を共有した上で、授業カリキュラムの再編成や履修モデルの作成等を進めていくべきである。

さらに、大学の理念・目標を受けて商学部と各学科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を明確にし、各授業の到達目標との整合性を合理的・体系的に説明するカリキュラム・ポリシーを具体的にすべきである。具体的には、商学部と各学科のディプロマ・ポリシーと各授業の到達目標との関係性を合理的に表現したカリキュラム・マップを作成することになる。カリキュラム・マップはディプロマ・ポリシーと各授業の到達目標の整合性を明示するマトリックスである。これにより、どの授業でどのディプロマ・ポリシーを実現するかが一目瞭然となる。教員がカリキュラム・マップを作成することで、ディプロマ・ポリシーの達成度を具体的にどの授業で保証しているかを明確に説明できる。学生の立場から見れば、何のためにその授業を履修するか、カテゴリ（学科・科目群・学年）ごとの目標を達成するとどのような能力を修得できるかを知ることができる。具体的には、各授業の目的や到達目標をシラバスに明記し、講義の中でも学生達にきちんと説明することが必要であろう。

そして、各教員が授業改善に向けて現場で行っている工夫点などをお互いに自由闊達に紹介し合える雰囲気をもった場をもつことも必要であろう。商学部では昨年度に引き続き基礎ゼミⅠの担当者を中心として懇談会を行った。出席者が各ゼミでどのような取り組みを行っているのか、そしてどのような問題を抱えているのかなどを報告してもらうことによって、実に多くの事例を教員間で共有できたものと思われる。共有された事例のいくつかは来年度の基礎ゼミⅠの取り組みに反映されるであろうし、その結果として基礎ゼミⅠの成果だけでなく、他の講義への良い効果も期待できるであろう。また、商学部では基礎ゼミⅠ担当者にアンケートを行い、各教員が基礎ゼミⅠでどのような取り組みを行っているのか回答してもらった。この結果を基礎ゼミⅠの事例集としてまとめ、各教員に配布する予定である。今後、このような様々な角度からの学部横断的な意見共有および意見集約の場をもつことは意義深いことであろう。

## 2. 政経学部

### (1) 実施状況について

平成 24 年度の「授業改善のための学生アンケート」調査は、前期に行われた昨年度に  
かわり、後期、平成 24 年 11 月 5 日(月)から 12 月 15 日(土)の十分な期間をもって実施  
された。専任教員では対象教員 54 人全員によって実施され(100%)、講師(非常勤)は対  
象教員 117 人のうち 116 名によって実施された(99.1%)。

アンケート調査の実施科目数は専任教員全体で 118 科目と昨年度(119 科目)よりも 1  
科目減少した。また講師(非常勤)全体では 197 科目と昨年度(190 科目)よりも 7 科目増  
加し、アンケート対象となった総数は 315 と昨年(309 科目)よりも 6 科目増加した。

専任教員は 1 人あたり平均して 2.18 科目(昨年度は 2.20 科目)、講師(非常勤)は 1 人あ  
たり平均して 1.70 科目(昨年度は 1.54 科目)のアンケート調査を実施したことになる。

アンケート調査の実施科目を科目別に多い順で言えば、専門科目が 125 科目(昨年度は  
135 科目)、外国語科目が 113 科目(昨年度は 98 科目)、教養科目・総合教育科目が 29 科  
目(昨年度も 29 科目)、スポーツ・トレーニング科目が 18 科目(昨年度は 16 科目)、教職  
・社教・日本語科目が 14 科目(昨年度は 16 科目)、ゼミ・外書購読が 13 科目(昨年度も  
14 科目)などとなっている。学生のアンケート回答数(延べ人数)は、1 年生が 3,298 人(昨  
年度は 4,194 人)、2 年生が 3,116 人(昨年度は 4,114 人)、3 年生が 3,023 人(昨年度  
は 3,656 人)、4 年生が 1,394 人(昨年度は 1,745 人)であり、無回答の 26 人を含めて合計  
10,857 人(昨年度は 13,771 人)がアンケートに応じている。

### (2) 集計結果について

#### ①. 設問項目別評価

政経学部専門科目のアンケート結果に関して、近年は全般に平均値の上昇が見られる。  
しかし、平成 23 年度は、前年度に比べて若干ではあるが、平均値を下げた項目が見られ  
た。その特徴を上げると、以下の 4 点に集約できる。

- (i) アンケート項目 I にみられる学生側の修学意識に関してはかなりはっきりとした改  
善の傾向が見られる。
- (ii) 教員サイドの要因であるアンケート項目 II に関しても、多くの項目で対前年比の評  
価(平均値)上回っており、昨年の反省を教員が生かしていることがわかる。
- (iii) その一方で、難易度および進度に関しては前年を下回る結果となっている。
- (iv) 今年度より新設されたオフィスアワーの活用については、学生の認識と教員の要求  
との間に大きなかい離が生じる結果となっている。

とはいえ、5 年間の長期的トレンドを見る限り、評価は全体として上昇傾向である。  
満足度に関しては高い評価を得ており、教員の日々の努力の成果と言えるであろう。

こうした教員の努力の背景には、政経学部が過去 4 年間にわたって行ってきた入試戦  
略における基礎学力の重視や、初年次教育(アカデミック・スキル)における各教員の努力  
が数値として表れていると考えられる。とりわけ、初年次教育を通じて、入学してくる学  
生の学力水準を可能な限り把握しようとする教員の姿勢がうかがえる。こうした成果が、

学生の知的好奇心を喚起させ、ひいては講義に対する(知的な)要求を増加させているとすれば、今後とも、こうした教員の不断の努力によって、高い学生満足度を得ることができるようになる。

以下、項目ごとに見ていくことにしたい。

- ・ I-1 学生の出席状況は授業に **80%**以上出席していると回答している学生は、**60.22%** (昨年度は **60.82%**)とほぼ横ばいであった。しかし、就職活動の開始が前年度の 12 月から始まったことを含め、就職活動が長期化する中で、出席状況が改善した点は評価に値するであろう。また、学部の方針として、可能な限りすべての科目で出席をとる方向で現在教員は努力している。こうした取り組みが一つの形になって表れたといえるだろう。
- ・ I-2 ノートやメモを取っているかどうかについて、「そう思う」と「強くそう思う」を合計すれば **71.86%** (昨年度は **67.30%**)と、大幅に改善されていることが分かる。初年次教育でも、様々なタイプの講義様式(例えば、板書を書く先生ばかりではなく、スライドを用いて説明される先生、口頭で説明されることの多い先生)が大学では普通に行われており、それに合わせたノートやメモの取り方をしなければならないことについて、再三にわたって指導されている。こうした成果が出ているといえるだろう。  
また、「どちらとも言えない」、「そう思わない」、「まったくそう思わない」の合計も、**28.14%** (昨年度は **32.70%**)と減少している。
- ・ I-3 予習・復習をしているかどうかについて、「そう思う(2h以上)」と「強くそう思う(4h以上)」の合計は **6.84%**であった。大学講義の復習は、これまで(定期試験などの直前を除けば)あまり行われてこなかったというのが実際のところであろう。予習に関しては、教科書を指定しても一読もしないで講義に臨んでいる学生が大多数である。この点、教員が今後継続的に学生に予習・復習の徹底を周知させねばなるまい。FD活動の一環として、予習・復習の奨励を行いたい。**Black board(Bb)**システムを利用したり、講義中に平常試験や課題などを提出させながら、知識の定着を促すような工夫が必要で、この点に関しては、まだ改善の余地が大きい。
- ・ 今年度より導入された質問項目である、I-5 オフィスアワーの活用については、**6.56%**にとどまった。学生の多くが「いつ」「どこで」教員に会えるのかわかっていないというのが現状であろう。
- ・ II-1 授業の狙いは明確かどうかについて、「そう思う」と「強くそう思う」の合計は **73.44%**であり(昨年度は **68.30%**)、昨年度よりもポイントを上回った。逆に「そう思わない」とまったくそう思わない」は **6.34%** (昨年度は **7.34%**)と減少しており、教員の工夫によって授業の狙いが明確になったことを示す結果となった。
- ・ 今年度より導入された質問項目の II-3 講義要項との進み具合については、**73.49%**の学生が講義要項どおり授業が進んでいると考えており、進度について多くの教員が配慮、腐心している様子がうかがえる。
- ・ II-5 声の大きさ(の適当さ)について、「そう思う」と「強くそう思う」の合計は **75.30%** (昨年度は **65.27%**)となり、昨年から大幅に改善される結果となった。教室でのマ

イク使用に関して、個別学生から「マイクは持っているものの、マイクを離して講義をする教員がいる」といった話を聞いたことがあるが、教室内のマイク設備に問題がない以上、マイクを使った講義を推奨する、マイク効果がないマイクの使用に対して改善を要求する、といった対策が効果的であろう。また、不特定多数の教員が使用するマイクに関しては、「専任教員一人一人が自身のマイクを持つべきである」という一部教員の声もあり、こうしたことが徹底されると、さらにマイクを使用しない教員が明らかになり、改善につながると思われる。

- ・ II-6 教材等の効果について、「そう思う」と「強くそう思う」の合計は **73.35%**（昨年度は **68.03%**）と増加した。教員の **Bb** 利用率も増加してきており、教員による教材の改善が進んでいると思われる。
- ・ 今年度より導入された質問項目の II-7 教室内の雰囲気については、昨年度、II-8 学習しやすいように教室の雰囲気が保たれているかどうかについて問うものであった。今年度、教室内の雰囲気が保たれていると考えている学生（「そう思う」と「強くそう思う」と回答した学生）は、**75.23%**（昨年度は **68.85%**）と数値が上昇した。また、「そう思わない」と「まったくそう思わない」の合計は **6.70%**（昨年度は **7.67%**）と減少した。アカデミックな雰囲気で学習できるよう、教員一層の工夫が行われたと評価できよう。
- ・ II-9 理解しやすさ（昨年度は II-9 授業内容が理解できたかどうか）について、「そう思う」と「強くそう思う」と回答している学生は **57.16%**（昨年度は **51.82%**）と改善した。ここ数年間は学生の理解度が進んでいる（昨年度は例外的に減少）。授業が理解できるかどうかは教育の要であるから、理解できる学生の割合を増加させることは教員の責務である。
- ・ II-10 見方・考え方が深まったかどうかについて、「そう思う」と「強くそう思う」と回答した学生は **60.4%**（昨年度は **52.44%**）と改善した。また「そう思わない」と「まったくそう思わない」の合計は **9.87%**（昨年度は **10.88%**）となり、見方・考え方が深まった割合が増加した割に、「そう思わない」、「まったくそう思わない」という学生の割合はあまり変化していないことにも注意が必要である。
- ・ III.総合的に見て授業に満足したかどうかについて、「そう思う」と「強くそう思う」と回答した学生は **69.86%**と、昨年度の **60.88%**よりも **10%**近く増加している。ここにも教員の教授方法をはじめとする創意工夫、努力のあとを読み取ることができる。

以上のように、設問項目の全体から見て、昨年度よりも大幅に評価が改善したというのが今年度の評価結果である。政経学部として取り組んでいる **FD** 活動の成果が表れてきたことは評価できよう。政経学部では、平成 **24** 年度の **FD** 活動として、「教員が授業を改善し、授業力を高めることにより、学生の学習意欲と学習能力の向上を図ること」を目的とし、以下の **7** 点を中心として **FD** 活動に取り組んできた。

- ①. 教員相互の授業見学を行う。
- ②. 初年次教育（アカデミックスキル・クラス：以下「アスク」）の授業力を改善する。
- ③. 「授業改善のための学生アンケート」を実施する。



- ④. ゼミナール担当教員の意見交換会を設置する。
- ⑤. ゼミナールの枠を越えた学生と教員の意見交換の場を設けることを計画する。
- ⑥. 学生の IT 技術力向上に関する方法を計画する。
- ⑦. 次年度カリキュラム改正に向けた検討

これらの一つ一つに対して、各教員は、研究・入試業務等の制約の中、教育のさらなる向上のために腐心してきた。その成果が、少しずつ表れているというのが平成 24 年度の授業アンケートの結果とみてよいだろう。もちろん、これに慢心せず、教員は一層の授業改善に向け、努力を継続する必要がある。

## ②. 教員別評価

### I. 専任教員の評価

専任教員の評価では、

- I-1 「学生の出席状況」 4.47
- I-2 「ノート・メモ」 4.08
- I-3 「予習・復習」 1.83
- I-5 「質問(オフィスアワー等)」 1.65
- II-1 「狙いの的確さ」 4.09
- II-3 「講義要綱との進み具合」 4.13
- II-5 「声の大きさ」 4.07
- II-6 「教材等の効果」 4.06
- II-7 「教室内の雰囲気」 4.26
- II-8 「宿題・課題」 2.46
- II-9 「理解しやすさ」 3.72
- II-10 「見方・考え方が深まる」 3.76
- III 「満足度」 4.01

となり、I-3「予習・復習」、I-5「質問(オフィスアワー等)」、II-8「宿題・課題」などに改善の余地がある。

### II. 講師(非常勤)の評価

講師(非常勤)の評価は、

- I-1 「学生の出席状況」 4.40
- I-2 「ノート・メモ」 3.97
- I-3 「予習・復習」 1.78
- I-5 「質問(オフィスアワー等)」 1.59
- II-1 「狙いの的確さ」 4.07
- II-3 「講義要綱との進み具合」 4.07
- II-5 「声の大きさ」 4.09
- II-6 「教材等の効果」 4.08

- II-7「教室内の雰囲気」 4.19
- II-8「宿題・課題」 2.57
- II-9「理解しやすさ」 3.73
- II-10「見方・考え方が深まる」 3.70
- III「満足度」 4.00

となり、専任教員と同様の傾向が見受けられる。

### III. 専任教員と講師(非常勤)との比較

学生に接する時間の長さが圧倒的に異なる(専任教員の方が長い)ため、単純比較はできないことに注意が必要である。今年度を見る限り、II-6「教材等の効果」、II-8「宿題・課題」、II-9「理解しやすさ」において講師(非常勤)が専任教員を若干上回ったものの、総じて専任教員の評価の方が高い結果となった。

#### ③. 学科別評価

法律政治学科と経済学科とを比較すると、昨年度はII-2「難易度(の適切さ)」やII-3「進度(の適切さ)」で経済学科が法律政治学科を上回る結果となり、他の質問項目に関しては法律政治学科が経済学科を上回った。しかし、今年度は、I-3「予習・復習」、I-5「質問(オフィスアワー等)」、II-8「宿題・課題」に関して経済学科が法律政治学科を上回り、他の項目では法律政治学科が経済学科を上回るという結果となった。ただし、その差は極めて僅差である。

具体的には、法律政治学科の平均値から経済学科の平均値を引いた値は以下のようになっている(▲はマイナス値)。

- I-1「学生の出席状況」 + 0.03
- I-2「ノート・メモ」 + 0.16
- I-3「予習・復習」 ▲ 0.05
- I-5「質問(オフィスアワー等)」 ▲ 0.06
- II-1「狙いの的確さ」 + 0.08
- II-3「講義要綱との進み具合」 + 0.05
- II-5「声の大きさ」 + 0.02
- II-6「教材等の効果」 + 0.03
- II-7「教室内の雰囲気」 + 0.10
- II-8「宿題・課題」 ▲ 0.29
- II-9「理解しやすさ」 + 0.08
- II-10「見方・考え方が深まる」 + 0.14
- III「満足度」 + 0.10

#### ④. 分野別評価

政経学部の専門科目である法律、政治、行政、経済の各分野について、それぞれの設問項目の値を合計して高い順に示せば、政治分野が 47.05(昨年度 50.58)、行政分野が 46.92

(昨年度 48.54)、法律分野が 46.22(昨年度 49.09)、経済分野が 45.83(昨年度 47.94)である。値の合計を高い順にみると、法律と政治が入れかわっている(ただし、設問項目数が昨年度に比べて 2 つ減少しているので、昨年度との単純比較はできない)。また、項目の平均値は、法律 3.56(昨年度 3.78)、政治 3.62(昨年度 3.89)、行政 3.61(昨年度 3.73)、経済 3.53(昨年度 3.69)と、平均値で見ると各分野近接していることがわかる。また、昨年度よりも平均値が下がっているのは、新たな設問項目である I-5「質問(オフィスアワー等)」、II-8「宿題・課題」などが評価を下げたためであり、今後の動向に注視する必要がある。

## I. 法律分野

- I-1「学生の出席状況」 4.46 (昨年度 4.37)
- I-2「ノート・メモ」 4.17 (昨年度 4.00)
- I-3「予習・復習」 1.63 (昨年度 2.71)
- I-5「質問(オフィスアワー等)」 1.47
- II-1「狙いの的確さ」 4.16 (昨年度 3.94)
- II-3「講義要綱との進み具合」 4.13
- II-5「声の大きさ」 4.13 (昨年度 3.97)
- II-6「教材等の効果」 4.10 (昨年度 3.90)
- II-7「教室内の雰囲気」 4.37 (昨年度 4.14)
- II-8「宿題・課題」 2.10
- II-9「理解しやすさ」 3.66 (昨年度 3.55)
- II-10「知識が身につく」 3.80 (昨年度 3.61)
- III「満足度」 4.04 (昨年度 3.77)である。

多くの点で改善がみられるが、「予習・復習」、「宿題・課題」の徹底が課題となろう。

## II. 政治分野

- I-1「学生の出席状況」 4.49 (昨年度 4.49)
- I-2「ノート・メモ」 4.31 (昨年度 4.21)
- I-3「予習・復習」 1.84 (昨年度 2.85)
- I-5「質問(オフィスアワー等)」 1.53
- II-1「狙いの的確さ」 4.16 (昨年度 4.01)
- II-3「講義要綱との進み具合」 4.20
- II-5「声の大きさ」 4.02 (昨年度 3.98)
- II-6「教材等の効果」 4.00 (昨年度 3.91)
- II-7「教室内の雰囲気」 4.41 (昨年度 4.37)
- II-8「宿題・課題」 2.31
- II-9「理解しやすさ」 3.75 (昨年度 3.70)
- II-10「知識が身につく」 3.92 (昨年度 3.77)
- III「満足度」 4.11 (昨年度 3.93)である。

政治分野も法律分野と同様の傾向が読み取れる。



### III. 行政分野

- I-1 「学生の出席状況」 4.48 (昨年度 4.42)
- I-2 「ノート・メモ」 3.88 (昨年度 3.65)
- I-3 「予習・復習」 1.81 (昨年度 2.96)
- I-5 「質問(オフィスアワー等)」 1.68
- II-1 「狙いの的確さ」 4.19 (昨年度 3.86)
- II-3 「講義要綱との進み具合」 4.15
- II-5 「声の大きさ」 4.17 (昨年度 3.92)
- II-6 「教材等の効果」 4.16 (昨年度 3.78)
- II-7 「教室内の雰囲気」 4.18 (昨年度 3.97)
- II-8 「宿題・課題」 2.38
- II-9 「理解しやすさ」 3.75 (昨年度 3.53)
- II-10 「知識が身につく」 4.00 (昨年度 3.67)
- III 「満足度」 4.08 (昨年度 3.74) である。

行政分野も法律分野と同様の傾向が読み取れる。

### IV. 経済分野

- I-1 「学生の出席状況」 4.41 (昨年度 4.41)
- I-2 「ノート・メモ」 4.01 (昨年度 3.87)
- I-3 「予習・復習」 1.81 (昨年度 2.77)
- I-5 「質問(オフィスアワー等)」 1.60
- II-1 「狙いの的確さ」 4.02 (昨年度 3.80)
- II-3 「講義要綱との進み具合」 4.08
- II-5 「声の大きさ」 3.93 (昨年度 3.77)
- II-6 「教材等の効果」 4.04 (昨年度 3.86)
- II-7 「教室内の雰囲気」 4.14 (昨年度 3.96)
- II-8 「宿題・課題」 2.57
- II-9 「理解しやすさ」 3.62 (昨年度 3.47)
- II-10 「知識が身につく」 3.70 (昨年度 3.51)
- III 「満足度」 3.90 (昨年度 3.68) である。

「学生の出席状況」は 4.41 と高い評価だが、頭打ちになっている。また、受講動機の回答分布をみると、「教員にひかれて」受講している学生は、法律・政治に比べて、行政や経済の方が高い傾向がある。その一方、「時間帯が空いている」からと回答した学生数は、法律・政治の方が、行政や経済よりも多い。

#### (3) 今後の課題

過去 5 年間で最も低い平均値となった昨年度のアンケート結果に比して、今年は多くの項目で評価が上回る結果となった。この結果に対して、今後の課題を以下に述べたい。

第一に、今年度の結果についてである。今年度は評価が改善されたものの、アンケート実施を前期から後期に変更したことによって、前期のみで後期に履修を放棄した学生がア

アンケートから外れたため、総じて、就学意欲の高い層がアンケートに回答することになったことも事実である。また、新たに設置された「宿題・課題」についての評価は決して高くはなかった。この点については教員の工夫が必要となろう。

第二に、学生の修学意識の改善には、政経学部がこれまで行ってきた入試改革および初年次教育(アカデミック・スキル)などの成果が表れていると考えられる。今後、教員には、さらなる教育の「質」の改善に向けて、不断の努力が求められよう。同時に、初年次教育の評価を正確に行うために、今後、初年次クラスを担当する教員には、積極的にアンケートを実施するよう、委員会等を通じて周知することも検討していく必要がある。

第三に、各教員が授業成果を高めるには、それぞれの設問項目で「どちらとも言えない」、「そう思わない」、「まったくそう思わない」の回答を可能な限り少なくすることは極めて重要である。「どちらとも言えない」との回答をどのように解釈するかで大きな差が生じるが、この回答を選んだ学生がその授業に十分満足していないことは確かであろう。「どちらとも言えない」と回答した学生も多い。もし教員が授業で少しでも手を抜くとすれば、この回答を選んだ学生はおそらく「そう思わない」の選択肢へと移るであろう。今後もさらなる改善に向け、より一層の教員努力が求められる。

尚、現在、政経学部では、平成 26 年度のカリキュラム改定に向けて、教授会、教務委員会、関係各委員会及び会議はもとより、カリキュラム検討小委員会(座長：学部長)を設置し、語学改革、教養教育の統廃合、専門課程における入門科目の設置といった検討などが行われている。こうした一連の改革によって、大学 4 年間で培う「学士力」の向上、大学の出口と社会の入り口のミスマッチ解消といった効果が期待されている。

今年度は全体的に評価が改善されたが、これに慢心することなく、FD 活動を行っていく必要がある。

### 3. 外国語学部

#### (1) 実施状況について

今年度「授業改善のための学生アンケート」を実施した外国語学部教員は、専任教員（特別非常勤講師を含む）が 38 名、講師（非常勤）が 43 名であった。実施率は、専任教員、講師（非常勤）ともに 100 %であった。昨年度は、完全実施にあと一步の数字であったが、今回はそれが達成できたことは大きな前進であり、当然のこととはいえ、教員の中に F D 活動を推進する意識が定着してきたことを示すものと考えられる。

実施科目数を見ると、専任教員は 96、講師（非常勤）は 87 で、合計 183 であった。その内訳は、外国語学部専門科目が 111、国際学部専門科目が 1、教養科目・総合教育科目が 22、外国語科目が 34、教職・社教・日語科目が 7、ゼミ・外書講読が 8 である。

アンケート回答数（延べ人数）は、1 年が 1,164 名、2 年が 682 名、3 年が 607 名、4 年が 182 名、無回答が 17 名で、合計 2,652 名であった。昨年度は、1 年が 1,289 名、2 年が 1,079 名、3 年が 746 名、4 年が 209 名、無回答が 35 名で、合計 3,358 名であった。昨年度に比べ、全般的に減少傾向にあるが、バランスという点では顕著な変化は見られなかった。

#### (2) 集計結果

##### ① 学科目別（講義等科目）

以下に外国語学部の集計結果を中心に、適宜昨年や過去 5 年間の経過などを考慮に入れながら、コメントを加えていく。

外国語学部専門科目に対する評価設問項目別に具体的に見ていくと、以下のような結果になる。まず、3つの項目以外は、すべて全体の数値より上回っている。その3項目とは、I-1「学生の出席状況」、I-2「ノート・メモ」、I-5「質問（オフィスアワー等）」である。I-1「学生の出席状況」4.43 で、大学全体の平均値 4.47 とであるのでほぼ同レベルであると考えられる。しかし、残念ながら昨年度の数値 4.54 を下回ってしまった。I-5「質問（オフィスアワー等）」も 1.66 と、大学全体の平均値 1.71 を少し下回っている。全体の数値を下回ったとは言え、僅差なので十分挽回可能な範囲であろう。

I-1「学生の出席状況」以外に 4.0 以上がついている項目は、次の 7 項目である。

II-1「狙いの明確さ」	4.25
II-3「講義要項と進み具合」	4.23
II-5「声の大きさ」	4.30
II-6「教材等の効果」	4.24
II-7「文字・画面」	4.26
II-9「理解しやすさ」	4.09
III「満足度」	4.22

II-1「狙いの明確さ」、II-5「声の大きさ」など、いずれも外国語教育にとって重要

な項目であるが、昨年度同様、良好な評価であるといえる。特にⅢ「満足度」は、学生の授業全体に対する総合評価のようなもので、この数値が高いことは、学生の学習がそれだけ円滑に進んでいることを示し、大変望ましいことである。また、3.00 の回答が適切であると考えられる設問項目Ⅱ－2「難易度」とⅡ－3「進度」に関しても、それぞれ3.30、3.14 という数字で、大学全体の平均値より良好な結果が出ている。

これらの数字より、外国語学部担当教員の基本的な姿勢や資質、適正などと大いに関係ある項目は、今年度も学生から比較的高い評価を受けていることがわかる。特に「難易度」、「進度」、「教室内の雰囲気」などは、少人数のクラスが多いため、学生へのきめ細かい対応ができていると考えられる。

また、外国語学部専門科目は、すべての設問項目について、それぞれ昨年度のものに近い良好な評価がつけられている。たとえ少しずつであっても、上向き傾向が今後も続くよう期待したい。

これまで改善の余地があるとされてきたⅠ－3「予習・復習」は2.16で、大学全体の1.92より高くなっていた。語学には、こつこつと継続的な学習が求められるので、毎時間の予習と復習は大切である。学生の学力を向上させるためには、最も重要な項目だと考えられるので、この数値はさらに高くする必要がある。学生に対しては、予習・復習に力を入れるよう、新入生オリエンテーションのときから指導しているが、各教員が授業の中でさらにこのことを強調しなければいけないだろう。

#### 最近5年間のデータから見た評価（年度比較）

今年度も概ね順調な伸び、及び現状維持が観察され、大きな問題はないと思われる。Ⅰ－1「学生の出席状況」、Ⅰ－2「ノート・メモ」、Ⅱ－5「声の大きさ」、Ⅱ－7「教室内の雰囲気」、Ⅱ－9「理解しやすさ」、Ⅱ－10「見方・考え方が深まる」、Ⅱ－2「難易度」、そしてⅡ－4「進度」は、過去5年間安定して高い評価を得ている。さらに、Ⅱ－6「教材等の効果」とⅢ「満足度」は、上昇傾向にある。唯一、Ⅰ－2「ノート・メモ」Ⅲ「満足度」の数値が、下降気味であることが懸念される場所である。初年次教育でも強調している点であるが、定期的に学生に提出させ、教員が点検するなどして、各授業でさらに徹底する必要があるであろう。

#### ②教員所属別評価 専任教員（特別非常勤講師を含む）に対する評価

Ⅰ－1は、全体平均と同じで数値であり、Ⅰ－2は少々下回ったが、それ以外の項目は全て全体平均を上回っているので、まずまず良好な結果と言える。昨年度他学部より低かった「教材等の効果」と「教室内の雰囲気」を含め、Ⅰ－1とⅠ－2以外は、すべて他学部より高い評価を受けている。実際、全15項目中、なんと10項目で外国語学部の数値は、全学トップであった。特に評価が高いのは、昨年同様Ⅱ－1「狙いの明確さ」とⅡ－5「声の大きさ」である。Ⅰ－10の「見方・考え方が深まる」の評価は、今年は3.97であった。毎年徐々に評価が高くなっているので、さらに高い評価につながるよう努力したい。Ⅱ－6「教材等の効果」とⅡ－7「教室内の雰囲気」についても、それぞれ4.25、4.29で、昨年度よりは向上している。全体的にみて、特にポイントが高い項目からは、外国語

学部の専任教員たちが、毎年授業の工夫をしながら学生の指導に真摯に対応していることが分かる。

学生の授業に対する「満足度」(Ⅲ)は、昨年度 4.20 であったが、今年度は 4.24 に上がり、安定した評価になっている。これは大学全体の 4.02 を大きく上回り、5 学部で一番良い数値である。ただし、学生が満足する授業が必ずしも良い授業であるとは限らないということは認識しておく必要がある。学生の学力を真剣に伸ばそうとすれば、宿題を多く出したり授業中の学習態度を厳しくチェックしたりする必要があり、そのような厳しさを嫌う学生もいるからである。

### 講師（非常勤）に対する評価

4 項目で、大学全体の数値より少し低い数字があるが、その差はおおむね小さく、全体としては良好な数値であると言える。

問題点を挙げるとすると、Ⅰ－5「質問（オフィスアワー等）」とⅡ－7「教室の雰囲気」の数値が、全体の数値より低いことがあげられる。前者は、もともと講師にはオフィスアワーの設定が求められておらず、個々の学生に対応する自分のオフィスもないので数値を上げるのは難しいであろう。後者は、効果的な授業運営に欠かせない項目なので、一層の努力を期待したい。また、昨年同様学生たちのⅠ－3「予習・復習」のポイントを上げることも課題であろう。講師（非常勤）担当授業での学生たちの「予習・復習」の数値は 1.97 で、大学の平均 1.92 を上回っているものの、専任教員の数値 (2.16) より低く、外国語学部の学生として決して高いとは言えないであろう。やはり、この項目の数値を着実に上げることが今後の課題と言えよう。来年度はさらに学生たちが予習・復習にもっと時間を割くよう、いっそうの指導をお願いしたい。

最後に、Ⅲ「学生の満足度」は、昨年度 3.97 であったが、今年度は 4.06 へと約 0.1 ポイントも上った。専任教員と講師（非常勤）との連携を密にしながら、より効果的な外国語教育ができるようにさらに協力関係を強めたて、学生の満足度を上げたい。

### ③学生所属別評価（講義科目）

#### 学年別の分析

学年別の分析は、大学全体の数値しかないので、外国語学部の傾向ははっきりしないが、おおむね学年が進行するとともに数値が上がっている。これは学年進行とともに学生側の学習態度や意識にプラスの変化がみられることと関連していると思われ、歓迎すべき傾向であろう。その中で、出席状況だけが上記の傾向から逸脱している。これにはいくつかの要因がありそうであるが、就職活動もその中に含まれるであろう。また、卒業要件単位をすでに取り終えている学生もいること関係しているかもしれない。

学年進行とともに上昇している項目としては、Ⅲ「満足度」がある。1 年～3 年までが 3 点台で大きな変化はないが、4 年生になるとそれが急に 4.00 に上昇している。この傾向は、過去 5 年間ほぼ一定している。他の学年に比べて、4 年生の回答件数は少ないが、それでも最終学年の 4 年生の満足度が高いことは、喜ばしいことである。

## 学科別の分析

講義科目に関する今回の学生アンケートの回答を学科別に見てみよう。

### I-1 「学生の出席状況」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.55、中国語 4.63、スペイン語 4.47 だったので、英米語以外は向上している。今年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.56、中国語 4.45、スペイン語 4.49 で、ほぼ昨年度のレベルを維持していて、且ついずれも全体平均よりは若干高くなっている。

### I-2 「ノート・メモ」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 3.99、中国語 4.09、スペイン語 4.08 で、英米語が若干下回っていたが、今年度は、それぞれ 3.78、3.90、3.95 だった。全学科とも若干ながら数値が下降している点が気にかかる点であるが、大学全体の数値に比較するとそれほどの遜色はない。

### I-3 「予習・復習」

昨年度の学科ごとの平均値は、他学部の平均値と大差はなかった。今年度は、それぞれ 1.96、2.03、2.04 ということで、英米語の数値は他学部の数値と大きな差はなかったが、中国語とスペイン語は、大学全体で唯一 2 ポイント以上の数値を挙げている。これは、大学での初習の語学である為であろう。

### I-5 「質問（オフィスアワー等）」

今年度の学科ごとの平均値は、英米語 1.35、中国語 1.66、スペイン語 1.70 であった。ただし、英米語の数値は、大学全体で最も低い数値であり、改善の余地がある。

### II-1 「狙いの明確さ」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.07、中国語 3.96、スペイン語 4.11 で、スペイン語が高かった。今年度は、それぞれ 4.05、4.06、4.15 と、昨年度と比較して中国語とスペイン語の数値が上がった。3 学科の数値は、学内のトップ・スリーであった。これは語学の授業であるということと関連があるであろう。

### II-3 「講義要項との進み具合」

今年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.09、中国語 4.13、スペイン語 4.14 と、高い数値であった。この 3 学科の数値は、上記の「狙いの明確さ」同様、学内のトップ・スリーであった。この点に関しては、適切な授業運営が行なわれていると言える。

### II-5 「声の大きさ」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.10、中国語 3.99、スペイン語 4.13 であったが、今年度は、それぞれ 4.08、4.07、4.16 となり、中国語とスペイン語の数値が上昇した。即ちスペイン語の数値は、学内でトップである。

### II-6 「教材等の効果」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.01、中国語 3.82、スペイン語 4.03 で、他学部の数字に近かった。今年度は、それぞれ 4.13、3.95、4.16 と、昨年度と比較して 3 学科とも上昇した。英米語とスペイン語の数値は、学内のトップ・ツーである。



## Ⅱ－７「教室内の雰囲気」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 4.02、中国語 3.85、スペイン語 4.05 で、学内平均をやや上回っていた。今年度は、それぞれ 4.09、4.04、4.16 と、昨年度と比較して上昇した。スペイン語の数値は学内トップであった。

## Ⅱ－８「宿題・課題」

今年度の学科ごとの平均値は、英米語 2.76、中国語 2.93、スペイン語 2.87 で、3 学科とも学内平均を上回っていた。特に語学学習では、宿題・課題は必須の要素であるので、当然の数値であろう。

## Ⅱ－９「理解しやすさ」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 3.85、中国語 3.63、スペイン語 3.95 で、学内平均をやや上回っていた。今年度は、それぞれ 3.83、3.75、3.97 と、昨年度と比較して英米語を除き数値が上昇した。特にスペイン語の数値は、学内トップであった。

## Ⅱ－１０「見方・考え方が深まる」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 3.78、中国語 3.62、スペイン語 3.86 で、学内平均に近かった。今年度は、それぞれ 3.77、3.60、3.80 と、昨年度と比較して 3 学科とも多少数値が下降したが、顕著な差はなかったと言える。

## Ⅲ「満足度」

昨年度の学科ごとの平均値は、英米語 3.96、中国語 3.96、スペイン語 4.04 であった。今年度は、それぞれ 4.01、3.96、4.09 と、昨年度と比較して中国語は現状維持であるが、英米語とスペイン語は上昇した。大学全体で、この数値が 4 を超えているのは、英米語、スペイン語、国際学部の 3 つだけで、特にスペイン語の数値は、学内トップである。初年次教育の SAM やその他のきめ細かい指導などの効果が出ているためであろう。先にも書いたが、この満足度は、学生の授業に対する総合評価の数値とも解釈できるので、この部分の数値が高いことは、大変望ましいことであろう。

最後の項目になるが、Ⅱ－２「難易度」、Ⅱ－４「進度」についても、全体の数値（この二つは、3 が最適な数値）それぞれ 3 学科平均で、3.37、3.19 で、3 学科の数値もそれぞれそれに近く、学生の評価が高いと言えるであろう。

外国語学部の 3 学科中、英米語と中国語に評価の若干低い項目があるが（たとえば、英米語では「質問（オフィスアワー等）」、中国語では「教材の効果」など）、大学全体の中では決して低くはなく、ほぼ平均値に近い評価を受けている。さらに、スペイン語は、学内トップの数値をいくつか出している点が特記される。昨年度までも、「狙いの明確さ」、「声の大きさ」、「教室内の雰囲気」、「満足度」などの項目は、学内で高い評価を受けていた。今後も、いい意味で外国語学部らしさが出せるような授業を続けていきたい。

学科別満足度の過去 5 年間の趨勢を振り返ると、英米語では 3 年前に下降した数値が、この 2 年間で着実に盛り返し、4.01 となった。中国語も最近は 3.7、3.8 あたりで低迷していたが、今年度は 3.96 に上昇した。スペイン語は過去 5 年間コンスタントに 4 以上の数値を挙げていて、今年度は 4.09 を記録して、学内トップとなった。

#### ④授業に対する学生の満足度

##### 学科目別満足度

学科目別満足度の平均値を見てみると、「外国語学部専門科目」は、「スポーツ・トレーニング科目」や「ゼミ・外書講読」には及ばないものの、大学全体の中では高いポイントを得ている。また、この5年間のデータを見ても、常時平均値4.0以上を維持しており、年度によるばらつきもそれほど激しくなく、安定した評価を得ている点は大いに評価できる。

このデータを見る限り、外国語学部では、最近5年間、学生の視点からは概ね満足度のいく授業が行われていると考えていだろう。

##### 教員所属別満足度

外国語学部に所属する教員（講師（非常勤）を含む）の授業に対する学生の満足度は、国際学部、兼担と並び、高い満足度を示している。また、過去5年間は平均値4.0以上を維持し、安定した数値を示している点も特筆すべきところである。

##### 教員身分別・年齢別満足度

これは全学的な傾向であるが、身分別では特別非常勤講師が、他を大きく突き放して高い満足度を示している。外国語学部では各語学のネイティブがこの任にあっており、学生を少人数できめ細かに教育しているところにその理由がありそうである。年齢別では、60代以降の満足度が急に下がるが、それまでの年齢では、それほど大きな差はない。特に50代の数値がこの5年間で急速に良くなっている点が目につくが、歓迎すべき傾向である。

#### 学科目別回答の分析

##### 設問項目別に見た「外国語学部専門科目」に対する満足度

それぞれの設問に対し、学生は5段階（最高値は⑤）で評価を下している。どの項目で満足のいく数値⑤や④が多く付けられているだろうか。

I-1 「学生の出席状況」は、⑤が 62.87%と最も多く、次いで④の 24.02%となっている。

I-2 「ノート・メモ」は、⑤の 37.98%が最も多く、次いで④の 32.44%となっている。

I-3 「予習・復習」は、①の 34.03%が最も多く、次いで②の 29.31%となっている。

I-4 「受講した動機」は、③の「単位が必要だから」54.43%が最も多く、次いで⑤の「時間帯が空いている」が 23.39%となっている。逆に「講義への興味」は 5.60%と低く、考えさせられる数値となっている。

II-1 「狙いの明確さ」は、⑤の 45.24%が最も多く、次いで④の 36.61%となっている。

II-2 「難易度」は、③のちょうど良いが 60.97%で最も多く、次いで④のやや難しいが 30.33%である。

II-3 「講義要項と進み具合」は、⑤が 44.23%で、④が 33.57%である。

II-4 「進度」は、③が 77.53%、④が 15.08%である。



- Ⅱ－５「声の大きさ」は、⑤の 57.61%が最も多く、次いで④の 28.22%となっている。
- Ⅱ－６「教材等の効果」は、⑤の 46.84%が最も多く、次いで④の 31.44%となっている。
- Ⅱ－７「文字・画面」は、⑤の 49.28%が最も多く、次いで④の 29.70%となっている。
- Ⅱ－８「教室内の雰囲気」は、③が 36.55%と最も多く、次いで④の 22.00%となっている。
- Ⅱ－９「理解しやすさ」は、④の 42.75%が最も多く、次いで⑤の 32.36%となっている。
- Ⅱ－１０「見方・考え方が深まる」は、④の 37.20%が最も多く、次いで③と⑤の二つが 38.83 となっている。
- Ⅲ「満足度」は、⑤が 44.23%と最も多く、次いで④の 35.85%である。

全体的に概ね良好な結果であると言える。

#### ⑤学部設問項目

昨年度同様、今回のアンケートに外国語学部が独自に入れた設問項目は、次の 2 つであった。

Ⅳ－１「この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか」

Ⅳ－２「このクラスの学生数は適切ですか」

最初の設問は、政経学部でも設定されているもので、これに対する回答の平均値は、専任教員の授業では 4.41 で、講師（非常勤）の授業では 4.16 であった。4 を超えており、満足できる結果だと考えられる。また、「このクラスの学生数は適切ですか」に対する回答の平均値は、専任教員の授業では 4.33、講師（非常勤）の授業では 4.14 であった。これも概ね良好な数値であると思われる。

上記 2 項目は、特に少人数教育を中心とした外国語の授業で、集中して効果的に授業が行われる環境が整備されているかどうかをチェックする設問であるが、今年度も学生の反応は、問題なく良好であったと結論づけられる。

#### （３）授業改善に向けての今後の課題

ここまで「平成 24 年度授業改善のための学生アンケート」の集計結果を解説してきたが、今年度も外国語学部の数値は全般にわたって比較的安定した高い水準にあると言えるであろう。過去には若手教員の数値が高い一方、ベテラン教員の数値が振るわない時期もあったが、ほとんど年齢差もなくなっている。これは FD に対する意識が教員の中で共有され、年齢に関係なく不断の授業改善の努力がなされてきた結果だと思われる。説明方法や声の大きさ、理解のしやすさ、明確さなど、特に外国語教授法の中の要となる部分を、多くの教員が着実に実践していることが、これらの結果に繋がっているであろう。

他学部 비해 学生数が比較的少なく、少人数の授業が展開されているので、授業時間内だけでなく、休み時間を利用して研究室に足を運び、教員の指導を受けている学生の姿は、今年度もよく見かけられた。ただ一方で、Ⅰ－５「質問（オフィスアワー等）」の数値は、それほど高くない。特定の学生は質問するが、それが全体的な流れとはなっていない現状

があるようだ。「語学サロン」への参加者の固定化とも類似している。より多くの学生を巻き込んだ、さらなる組織的な対策が必要となるであろう。

学生の満足度が高いのは、授業中だけでなく、それ以外の場面（例えば、留学相談、資格試験対策、就活相談、外国語弁論大会などの指導）での教員の指導体制も関連していると思われる。教室内外で懇切な指導を続けることが、学生たちをさらに伸ばすことに繋がるはずである。そのための創意工夫は、これからも継続していくようにしなければならない。

近年の最大の課題は、学生の学力の大きな個人差である。それに対応するために、授業の工夫が以前より求められている。外国語学部では、3 学科とも能力別クラスを導入することによって、より学習効果が上がる体制が整備されている。しかし、同時に教員たちは絶えず学生の学習到達度を細かくチェックする必要があり、教員間の連携も重要である。今後も学生たちの学力差は広がる一方であろうことは想像に難くない。さまざまな学習到達度の学生が混在する授業では、それにどう対応するか、授業の進め方がさらにむずかしくなることは必至であり、それだけ教員の力量がますます問われることになる。その為には、これまで以上に教員による不断の FD 活動が必須となる。来年度も学部内でさらなる FD 活動を推進したい。

## 4. 工学部

### (1) 授業アンケートの実施状況

今年度は、後期科目に関して授業改善のための学生アンケートを行った。1年生は入学以来、半年以上経過した状態であり、どの学年も一般的な条件下での実施と言える。実施状況は以下の通りである。なお、本アンケートは、実施日に出席していた学生によるものであり、欠席が続く学生への対処は別途考える必要があるとの認識が前提である。

工学部での実施科目は、176科目で、昨年の161科目を上回った。アンケート回答数(のべ人数)は、6459人で、昨年より約220名程度少なくなった。科目数は大きく増加しており、昨年度からの科目増の影響が今回も現れたものと考えている。のべ人数の減少は、授業の履修制限制度や、一昨年度から導入されたGPAが影響して履修取消があったためと思われる。

学生アンケートを実施した176科目の内訳は、専門(講義)科目が104科目、専門(実験・実習・演習)科目が23科目、教養科目が6科目、外国語科目が32科目、スポーツ・トレーニング科目が2科目、教職・日本語科目が8科目、その他が1科目である。昨年と比べて、専門(講義)科目が88科目から大きく増加しているが、実験・実習科目が35科目から13科目減少した。この差については、前期・後期の違いによるものであり、1年間を通しての科目数については大きい違いはない。

実施対象教員数は、専任教員60名と講師(非常勤)49名であるが、全員が実施し、昨年までと同様100%の実施率となった。

実施率が常に高率であることは、授業改善に役立つデータを得る有効な手段として「学生によるアンケート」が定着していることを示している。今後もアンケートの分析結果を具体的に如何に授業改善に結びつけるかが重要である。昨年度まで5年間、後期開講科目・通年科目を対象に授業アンケートを実施し、今年度は後期に実施したことから、昨年度前期からの年次進行に伴う科目間の連携といった切り口で調べることも可能と思われる。なお、今後は隔年で前期・後期と交互に実施することにより、授業改善結果を検証できるだけの、いわゆる定点観測を行うための資料を揃えることができると考えている。

以下、全体集計結果に基づき、工学部の専門科目に対する授業アンケート結果を分析し、所見を述べる。さらに分野別集計結果に基づいて工学部専門科目に対する授業アンケートを分析し、所見を述べ、実施目的が達成できたかという視点から今後の課題を指摘して総評としたい。

### (2) 全体集計結果に基づく授業アンケート結果の分析

工学部の卒業生の多くが製造業や、他の様々な分野の企業でも技術系の職種に就職する。ここ2～3年の顕著な傾向として、高度に発達した社会基盤(インフラ)の維持のために必要な人材が、多く求められている。このような社会の変化に対応するべく、工学部の専門科目(学科別専門科目と基礎科目)には、実験・実習・演習科目が多い。また、近年、座学による学習を苦手とする学生が多く、実験や演習を通じて、初めて実際に技術を自分のものとしてできる場合が少なくない。かつては、講義科目を対象としたアンケート様式を実

験・実習・演習科目にも適用していたが、授業内容の違いから講義用アンケートでは授業改善に活かせるデータ収集が難しいという欠点があった。そこで、現在はそれらの科目用のアンケート様式は新たに作成され、講義科目とは別にすることが可能になった。

以下、昨年までと同様に、専門（講義）科目、専門（実験・実習・演習）科目の順に授業アンケート結果を分析する。なお、工学部の授業は、基本的には 1 クラス 100 人以下で行われており、履修登録者数別比較表のうち、100 人以下の科目だけが該当する旨を記しておく。

## 1) 専門（講義）科目

### ①. 出席状況（設問 I - 1）

今年度も含め、この数年、工学部の学生の 70 % 以上が、90 % 以上授業に出席していると回答しており、おおむね授業への出席状況は良好である。実験・実習科目では 99 % の出席率を得ているが、科目の特性上、当然のことと考えている。しかし、一方、全く出席しない学生の存在も顕在化しており、出席者による本アンケートだけではなく、それ以外の方法による出席状況調査の必要性を強く感じている。

### ②. ノート・メモ（設問（I - 2）

近年講義に出席に出席しても、ノートやメモを取らない学生がしばしば見受けられる。実験・実習科目では、その内容をノートに書き留めることが必須となっている。しかし、講義におけるノートと区別して考えている学生も多いように思われる。さらに、実習科目ではノート自体が副次的な存在となる場合が多く、実験・実習科目全体の比率を低下させていると考えている。一方、技術・開発系職種における実験ノートは、発明や発見の記録という意味で、本人だけでなく企業の特許取得にも影響してくる。したがって、実験・実習科目における「ノート」の扱いについて、講義のノートとは異なる指導が必要と思われるため、やはり何らかの形でアンケートの組上に載せる必要性を感じている。今後の議論・検討を期待する。

### ③. 予習・復習（設問 I - 3）

予習や復習に取り組む学生は、実験・実習科目では 3.21（実験用設問 I - 2：事前準備）、講義科目では 1.85 ときわめて大きな差異が生じた。本来、単位数の計算においては、実験実習科目では予習・復習を含んでおらず、講義科目では同じ時間数の予習・復習時間を見込んでいる。確かに、実験科目においては、テキストを前もって読んでおくよう指導をしているが、学生においては、単に実験時間短縮のためと捉えている結果と思われる。平均としては毎年少しずつではあるが、改善され続けてはいるが、大学教育における「自習」なるものの本質的な変化が現れていると実感できる。ただし、基本的には科目数の過多が原因として考えられる。知識の定着や応用への適用力向上のために、講義科目においては、予習・復習を前提としたカリキュラム構成を検討すべき時期がきたと思われる。

### ④. 狙いの明確さ・説明方法・声の大きさ・教材の効果（設問 II - 1、II - 5、II - 6）

これらのすべての項目において、概ね 3.8 ポイントと高めで安定している。しかし、他学部では 4 ポイントを超えており、教員の熱意の現れと思われることが懸念される。工学部の講義科目は体系的に段階を経る方式が多く、ひとつの科目だけでは目的が曖昧

になってしまう傾向が推測される。したがって、カリキュラム全体の中で当該科目が占める役割について、学生への十分な説明が必要と思われる。

⑤. 教室の雰囲気（設問Ⅱ－７）

教室の雰囲気については、ここ数年安定した値を示している。しかし、前項と同様、他学部では 4 ポイントを超えていることに対して、3.8 ポイントと後塵を拝している。個々の学生の受け止め方の違いによるものと思われるが、今後の分

⑥. 難易度（Ⅱ－２）・理解のし易さ（Ⅱ－９）

従来の後期実施時では、難易度は前期より高く、年々、授業が難しいと思う学生がわずかではあるものの増加していた。今回は他学部との比較では中位である。授業の難易度については、就職する卒業生に要求される専門性（到達目標）を考えるとやむをえない面もあり、入学生の基礎学力が低下している中、今後も学生に分かりやすい授業の実施が望まれる。また、多様な入試システムから工学の基礎である数学や物理などの科目を高校で履修していない学生が増えていることも一因ではないかと思われる。学生支援センターの協力も得て更なる改善を目指すことが望まれる。

⑦. 進度（設問Ⅱ－４）・講義要項との同期（設問Ⅱ－３）および受講動機（設問Ⅰ－４）

一概に他学部との比較はできないが、授業の進行速度については、速すぎると感じる学生が増えていたが、一昨年度からその傾向がわずかではあるが改善されていると考えている。今回も 3.33 であり、「やや速め」と感じているようである。平均的には改善傾向にあるが、「遅い」、「速すぎる」と感じる学生の両極端に別れる傾向があるのではないかと思われる。講義要項と実際の進度の関係では、本来は 5.00 に近い値であるべきである。他学部は 4 点台であるが、工学部だけ 3 点台となっている。要項の内容とかけ離れた講義はあり得ないため、学生自身が講義要項の内容を知らない場合が多いと考えられる。これは、設問Ⅰ－４において、工学部の学生だけが、「⑤講義要項を読んで興味を持ったから」という回答が他学部に比べて極端に少ないことから、十分に推測できる。

⑧. 「見方・考え方が深まる」、「知識・技術が身につく」（設問Ⅱ－１０）

昨年度とほぼ同じであったが、この 5 年間を通してみると、改善傾向にある。工学部の授業は実践力養成を目的としており、その目的が少しずつであるが理解されるようになっていくといえるが、未だ「身についた」という実感が伴っていないように思われる。

⑨. 満足度（設問Ⅲ）

5 学部で最低値を示している。到達目標が明確であることから、学生の達成感の不足が満足度の低さに現れていると推察できる。知識・技術が身についたり、見方・考え方が深まるという実感が、そのまま満足度につながるように引き続き取り組みたいと思う。ただ、学年別の満足度調査は必要と思われる。それぞれ自分の将来像を描いて入学してきており、それがどこで挫折していったかを知ることは、教員として必須であると思われる。

アンケートが現在の方法になってから、少しずつではあるが、教員の授業改善の努力により良い方向に向かっているといえる。今後、入学する学生の多様性がますます増し、入学時の学力の差が大きくなり、難しい、進行が速いと感じる学生と、易しい、遅いと感じ



る学生の両極端に分かれ、両者のやる気を引き出すことが重要な指導になるのではないかとと思われる。

## 2) 専門（実験・実習・演習）科目

### ①. 出席状況（設問Ⅰ－1）

出席率はきわめて高い。このところ若干の減少傾向が見られる時期もあったが、本年度は昨年度に引き続き、高い水準を保っている。

### ②. 事前準備・レポートの作成（設問Ⅰ－2、Ⅰ－3）

実験などに事前の予習が必要であるという認識のない学生も多いが、実験の意義・目的を事前に勉強しておくことは実験実習の深い理解に繋がることから、事前の準備の必要性を指導していく必要がある。また、実験や演習の後のレポートは、実習した内容を自分のものにするために必要不可欠であるばかりでなく、エンジニアとしても必要な技術であるため、再提出を課すなどして、きめ細かく指導する必要があると考える。

### ③. 狙いの明確さ・説明方法・声の大きさ（設問Ⅱ－1、Ⅱ－4、Ⅱ－5）

これらの項目は、ここ数年を見ると概ね改善傾向にあり、特に説明方法・声の大きさの改善傾向が著しく、教員の改善の結果が反映されているようである。実験や演習などは、狙いの明確さが重要であるので、この改善はより良い効果に繋がるものと思われる。

### ④. 教材の効果・適切性（設問Ⅱ－6、Ⅱ－7）

昨年度は例年に比べて減少傾向が見られたが、今回は若干の改善傾向が見られる。これは授業の相互参照などを通して異なる観点からのアドバイスを受けての効果とも考えられるので、引き続き授業参観を重要視したい。

### ⑤. 理解のしやすさ（設問Ⅱ－9）

最近5年間では改善の方向にあるが、比較的低い水準にある。実験・演習科目であることを考えるともう少し高くする工夫が必要だと考える。

### ⑥. 見方・考え方が身につく（設問Ⅱ－10）

最近の傾向から、わずかであるが改善効果を維持していると言える。しかし、工学部科目の特性から、広く視野を広げることよりもむしろ、技術習得に重点を置いた設問であってしかるべきと考えられる。今後の課題としたい。

⑤～⑥の項目で、学生の基礎学力の低下に教員が対処し、授業が改善されてきたことがわかる。今回も低めに推移していたが、後期に実施したため、授業内容の高度化に慣れていなかったことも原因として考えられる。授業参観では、実験・実習を対象とすることが多く、客観的な立場からの意見交換が反映され、徐々にではあるが、改善されている一因になっていると思われる。実験・演習科目であるので、より一層これらの項目が改善される必要がある。

### ⑦. 難易度・進度（設問Ⅱ－2、Ⅱ－3）

難しいと感じる学生が増加してきていたが、このところ改善傾向にある。ただし、昨年度までの数年間のアンケートと科目が異なることに留意すべきである（前期・後期の違い）。いずれにせよ、一定の技術や知識、考え方を取得することと難易度や進度の兼ね合いは難しい問題である。安易に内容を易しくするのではなく、学生が興味を持って

取り組み、困難さを感じないようなテーマなどを工夫したい。

#### ⑧. 満足度（設問 III）

全体として、他学部と比べて低い傾向が続いている。設問Ⅱ－9、10と同じ文脈で考える必要があり、到達目標に対する中間段階の目標設定など、「短期間ごとの達成感の継続」を踏まえたカリキュラム設定の必要性を感じる。

### （3）分野別集計に基づく授業アンケート結果の分析

工学部の組織は、機械システム工学科（以下、機械）、電子システム工学科（以下、電子）、情報工学科（以下、情報）、工業デザイン学科（以下、工デ）の4学科および基礎教育系列（以下、基礎）から構成されている。

以下、専門（講義）科目、専門（実験・実習・演習）科目の順に、分野別集計結果に基づき、授業アンケート結果を分析する。ただし、今年度より科目分類を単純化したため、昨年度までの結果とは直接の比較ができないことを付記しておく。

#### 1) 専門（講義）科目

##### ①. 出席状況（設問Ⅰ－1）

工学部全体の平均は 4.66 と、昨年度の 4.63、一昨年度の 4.58 に比べて改善傾向を維持している。機械、電子および基礎系列の講義科目が工学部平均より高い。情報とデザインの講義科目の出席状況はやや低い傾向にある。デザインの講義科目の出席状況は引き続き改善されている。基礎の講義科目の出席率は増加傾向にあったが、昨年の 4.79 から 4.69 と減少した。

必修となっていることが多い実験・実習科目になどに比べると若干ではあるが、選択科目の多い講義科目の出席率が低い。しかし、他学部などの結果と比較すれば、工学部の全科目区分について出席率は高いと言える。

##### ②. ノート・メモ（設問Ⅰ－2）

工学部全体の平均は 3.62 で、昨年度の 3.68 に対してやや減少した。一昨年度の平均値は 3.63 であり、概ね同様の傾向が続いている。基礎教育の選択科目は 4.00 であり、昨年の 4.11 に対して減少したが、一昨年度と同じ値であることから、今後も経過観察していきたい。基礎教育科目のほとんどは低学年の科目で占められていることから、リメディアル教育が中心である。専門科目への円滑な移行を考慮すると、ノートなどの基本的な作業の徹底が望まれる。

##### ③. 予習・復習（設問Ⅰ－3）

工学部全体の平均値は 1.85 であった。昨年のまでの設問回答では 2.7 ポイント程度であったため、この時間数は、学生自身はやや少ないとの認識であると推察できる。

この設問は、設問Ⅳ－1（宿題や課題への取組）と紛らわしい点も大きいと思われ、設問の再考が必要である。全体的には、学科・基礎別あるいは科目区分に関わらず、予習・復習に取り組む学生がまだまだ少なく、今後も改善が必要である。

##### ④ 狙いの明確さ（設問Ⅱ－1）

工学部全体の平均は 3.70 であり、昨年度と変化はなかった。基礎科目は、昨年は 4.17 であったが、今回は 3.87 と減少幅が大きかった。情報の講義科目は 3.63 であり、昨年

の 3.45、一昨年の 3.19 と比べて増加傾向にある。

⑤ 説明方法（設問Ⅱ－４）

工学部全体の平均値は 3.33 であり、一昨年や昨年度とほぼ同じである。情報の講義科目が 4 年前から 2.96、3.08、2.88、3.04、3.34 と、やや幅の大きい増減を繰り返している。工学部の講義科目全般に説明方法の工夫・改善の余地がある状況に大きな変わりはない。

⑥ 声の大きさ（設問Ⅱ－５）

工学部全体の平均は 3.84 であり、昨年度の 3.62、一昨年度の 3.67 から改善傾向が見られた。例年と同様に、デザインと基礎教育が高い評価となっている。機械の 3.64 がやや目立って低い。

⑦ 教材等の効果（設問Ⅱ－６）

工学部全体の平均値は 3.80 であり昨年度の 3.71 から若干の改善が見られた。例年はデザインの講義科目が高い評価を受けているが、今年は他学科と同程度の値となっており、今後の変化に注目すべきであろう。

⑧ 教室内の雰囲気（設問Ⅱ－７）

工学部全体の平均は 3.78 であり、昨年の 3.62、一昨年度の 3.68 から若干の改善傾向が見られた。デザインの講義は 3.91 と高かったが、一昨年は 4.10、昨年は 3.69 と変化が激しい。基礎科目は一昨年の 4.11、昨年の 4.06 から 3.90 とやや減少したが、3 年前の 3.72 からの改善傾向は維持できていると思われる。

⑨ 難易度（設問Ⅱ－２）

授業の難易度が適切かどうかとの問いに対して、工学部全体の平均は 3.60 であり、昨年度の 3.71 から若干の改善が見られた。他学部と比べてやや高い値となっているが、今後も授業内容を見直し、改善していく必要がある。

⑩ 理解のしやすさ（設問Ⅱ－９）

工学部全体の平均は 3.30 であり、昨年度の 3.29、一昨年度の 3.28 と比べるとほぼ同じであるが、他学部と比べると低い値となっている。工学部の専門性を考えれば、やむを得ない面もあるが、高度な内容を分かりやすく説明する努力が必要とされ、如何に授業を理解させるかに改善・工夫の余地は多い。

⑪ 講義要項との同期（設問Ⅱ－３）

工学部全体の平均は 3.80 であり、前述のように、講義要項の意味が学生に認識されていないと考えられる。特に専門科目の値が 3.7 ～ 3.8 と、基礎科目の 3.94 に対してやや低い。これは、専門科目では、科目名が講義内容をそのまま表していることが多く、自分の興味に合った科目を選び易いという一面があると思われる。

⑫ 知識・技術が身につく（設問Ⅳ－３）

工学部全体の平均は 3.17 であり、昨年度の 3.37、一昨年度の 3.28 に対して、やや低下している。工学部の授業は実践力養成を目的としており、知識・技術の習得を重要視しているが、理解のしにくさゆえに、知識・技術が身につくとは考えない学生が多いようである。

⑬ 見方・考え方が深まる（設問Ⅱ－１０）

工学部全体の平均は 3.34 であり、昨年度の 3.33、一昨年の 3.35 と比べてほぼ横ばい



であり、他学部と比べると低い状況が続いている。「知識・技術が身につく」と同様に習得すべき内容の理解のし難さ故に、見方・考え方を深められたと実感させるまでには至っていない。

#### ⑭満足度（設問Ⅲ）

全学部の満足度の平均値、**4.02** と比べると、工学部全体の平均値は **3.53** と低く、昨年度の **3.48** とあまり変わっていない。他の各学部との比較においても低い状況が続いている。「受講動機」の回答分布を見ると、単位の取得を一番の理由とする学生数が他学部と比べると多く、また、他学部では「時間帯が空いているから」とする学生が多いのに対して、工学部はその割合が低い。体系だった学問をひとつひとつ地道に学んでいく工学部には新奇さが少なく、講義に興味があり、積極的に履修したいという学生よりも、エンジニアとして必要な知識を修得したいという動機をもった学生が多く、授業への期待感が少ない分、満足度も低いのではないかと思われる。ただし、講義への興味が **13.4%** と、昨年度の **10.4%**、一昨年度の **8.9%** に比べると徐々に高くなっている。

後期実施のため、講義への関心度が大きかったと思われる。また、コース制導入による意識付けの効果も考えられる。学生の講義への興味を高めることは学生の学力向上とも深い関係があるので、一層の改善が望まれる。なお、昨年度の情報（講義）の満足度は **3.47** であり、一昨年の **2.90**、昨年の **3.08** と、年を追って持ち直してきている。

## 2) 専門（実験・実習・演習）科目

### ① 出席状況（設問Ⅰ－1）

工学部の平均値は **4.77** であり、他学部と比べても高い水準を保っている。

### ② 事前準備（設問Ⅰ－2）

工学部の平均値は **3.21** であり、昨年度の **3.40**、一昨年度の **3.58** に比べると低下傾向にある。機械の平均値は **2.57** であり、一昨年の **2.98**、昨年の **3.20** から急落している。ただし、2 点台は危険な水準と思われるが、実験科目は講義科目に比べて予習・復習の比重が小さいため、今後の経過観察で充分であろうと考えられる。

### ③ レポート作成（設問Ⅰ－3）

工学部全体の平均は **4.00** であり、昨年度の平均値 **4.03** と大きく変わらない。比較的高い数値を保っていることから、レポート作成の指導は適切に行なわれていると考えられる。

### ④ 理解のしやすさ（設問Ⅱ－9）

工学部全体の平均は **3.63** であり、昨年度の **3.71** から若干の低下が見られた。実験・実習科目は講義科目（平均値 **3.30**）と比べて理解しやすいと考えているように思われる。

### ⑤ 授業の狙い・重要なポイント（設問Ⅱ－1）

工学部全体の平均は **3.98** であり、昨年の **4.00**、一昨年度の **4.02** と比べて大きく変わらない。実験・実習科目では、テキストで具体的に説明したり、実際のモノを見て理解できるので、内容や目的が分かりやすいためと思われる。

### ⑥ 知識・技術が身につく（設問Ⅱ－10）

理解しやすさと関連して、工学部全体の平均は **3.77** と高く、昨年の **3.82** とほぼ同じ値である。眼前で行われる実験・実習の経験を通して、学生は知識・技術が身につくと感

じているようである。

#### ⑦ 満足度（設問Ⅲ）

工学部全体の平均は 3.78 であり、昨年度の 3.82 とほぼ同じ水準を保っている。昨年と同様にデザインの科目は 3.87 と高い水準となっているが、今回は電子の 3.95、基礎の 3.97 が注目すべき結果である。機械の平均値は3年前の 3.27、2年前の 3.67、昨年の 3.90 という改善傾向に対す、今回は 3.46 とやや足踏み状態となった。

#### （4）今後の課題

工学部専門科目に関する授業アンケートの全体集計結果および分野別集計結果に基づいて分析を行なった。設問Ⅰ－3 予習・復習から、設問Ⅲ満足度まで、徐々にではあるが、平均値においてはほとんどの項目で高くなっており、昨年に比べて改善が進んだといえる。授業を受ける学生に関わる設問Ⅰ－1の出席状況は増加傾向にあり、設問Ⅰ－2のノート・メモでは低下傾向に歯止めがかかり、増加に転じた。ゆとり教育の下で学んできた学生気質や、入試の多様化の影響で、工学部に入学してくる学生の基礎学力にかなりの幅が見られる。設問Ⅱ－2の難易度は、昨年度に比べればやや改善された。授業についていけず授業が面白くなる学生の防止のため、分かり易く平易な授業を目指している効果の現れと考えている。しかし、それでもついていけない学生と、平易なため知的好奇心が薄れて講義に物足りなさを感じる学生の、両極端に分かれている印象がある。学生の様々な能力を拾い上げる柔軟な教育が必要とされると思われる。

授業アンケートの目的が、「教員の授業改善に役立てること。また、教育の質の向上を図ること。」であることを踏まえ、従来に引き続き、以下の点を今後の課題としたい。

#### ①. 学生の授業への取り組み姿勢を改善する方策の検討

高校までの学習が不十分な学生が増加している現状に対応するために、工学部学習支援センターを設立し、高大接続教育に一定の効果を上げている。この取り組みを今後も授業改善にも活かしていく必要がある。さらに、期末試験の時期には、専門科目について質問する学生も多くいることから、基本的な計算過程に関しては、学年を問わず専門科目との協力関係を築いていきたい。

また、教員の授業改善が徐々に進み、学生の授業への取り組みも若干ではあるが改善している。数学や物理を基礎とする工学部の授業にあっては、これらに対する基礎学力が不足している学生が増加しており、授業への取り組み方を再考する必要がある。昨今の基礎系列科目の平均値は前年度のそれを上回っており、継続的な改善効果が見られる。

一方、漠然とした興味で工学部に進んだ学生も多いように思われる。初年次教育や、コース制の下で学ぶ学生が積極的に関わろうとする勉学環境を、一層盛り上げることが重要である。

#### ②. 満足度の改善

工学部の実験・実習科目は例年、「満足度」が比較的高く、「出席状況」、「理解しやすさ」、「知識・技術が身につく」などの項目の全てで講義科目よりも高い評価になっている。机上の知識だけを学んできた学生が新鮮さをもって実際のモノに触れる実験・実習科

目を習得しているのではないかと思われる。工学部の専門講義科目の満足度は改善されてきたとは言えるが、他学部と比べてまだ、その満足度は低く、今後も引き続いて改善を目指す必要がある。

実験・実習に興味を覚える学生に対して、その原理や理屈を分かりやすく説明することにより一段と高いレベルに上げることが期待される。各授業の目的をより周知させ、コース制の下で展開される将来の進路と授業科目の関連などを説明することが重要である。このような努力が「満足度」の改善に繋がり、「理解しやすい授業」へとも繋がると思われる。

### ③. 予習・復習時間について

学部平均が 1.85 であったが、学科別では機械の 1.65 からデザインの 2.11 まで開きが大きかった。ただし、この設問は「課題や宿題」の項目と主旨が重なる部分があり、回答する上での混乱があった可能性もある。

一方、学生にとっては履修すべき科目数が多く、時間割の上でも余裕がないため、毎日の各時限をこなすのに精一杯の状態であることは、引き続き配慮していくべき課題だと考えている。本報告の趣旨からは外れるが、期末試験も同じ時間割で進行していくのは、学生にとってきわめて過酷な状態であることは、問題として再度提起しておきたい。

## 5. 国際学部

### (1) 実施の状況

本年度もこれまで同様に、専任教員と講師（非常勤）を問わず、学部開設のすべての科目を対象に「授業改善のための学生アンケート」を実施した。できるだけ多くの回数の授業を行った後で学生の反応を把握するために、実施期間は予備日も利用し、平成24年11月5日（月）から12月21日（金）に設定した。

アンケートの実施科目総数は252科目であった。アンケート結果は、英語群（6分類）、地域言語群（6分類）、基礎科目群（4分類）、専門共通科目（4分類）、専門コース科目（14分類）の5群34分類の分野別データとして集計された。

アンケート回答数（延べ人数）は、1年生3,136人、2年生3,110人、3年生1,133人、4年生246人、無回答105人の7,730人であった。

### (2) 学科目別の評価

#### ① 授業の内容や進め方

専門科目（73科目）について、授業の内容や進め方に関する各項目の過去4年間における平均値を並べた。昨年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けた。但し、「2-2. 難易度」と「2-3. 進度」の2項目は数値が3の回答が適切であると判断されるものであるため、3に近づく方向を「上昇」とした。参考のために、本年度における大学全体の平均値も付記してある。

なお、「2-5. 講義要項との進み具合」と「2-8. 宿題・課題」は、本年度から新しく設けられた項目である。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	全体(参考)
2-1. 狙いの明確さ	▼3.94	▼3.92	△3.99	△4.00	▼3.98	4.06
2-3. 講義要項との進み具合					4.02	4.08
2-5. 声の大きさ	▼3.92	△3.93	□3.93	△3.95	△4.00	4.11
2-6. 教材等の効果	▼3.81	△3.84	△3.99	▼3.98	△4.04	4.07
2-7. 教室内の雰囲気	▼4.04	□4.04	△4.08	△4.09	△4.12	4.16
2-8. 宿題・課題					2.45	2.72
2-9. 理解しやすさ	▼3.63	△3.66	△3.75	▼3.72	△3.76	3.80
2-10. 見方・考え方が深まる	▼3.66	△3.68	△3.81	▼3.79	△3.88	3.75
3. 満足度	▼3.77	△3.79	△3.87	▼3.86	△3.95	4.02

#### 3の回答が適切である項目

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	全体
2-2. 難易度	▼3.46	△3.44	▼3.45	▼3.53	△3.34	3.38
2-4. 進度	▼3.21	△3.19	▼3.21	▼3.28	△3.16	3.19

専門科目の平均値は、全体として昨年度より上昇した。9項目のうち8項目で昨年度より平均値が高い。その一方で、1項目について昨年度よりも低下しものの、その差は極めて僅かであった。授業の総合的な評価にあたる「3. 満足度」では、平成18年度から低下傾向が続き、平成22年度になって大幅に改善した。本年度は平成22年度よりもさらに高い水準に達した。しかし、大学全体の平均値との比較では、11項目のうち8項目で下回っている。「3. 満足度」でも大学全体の平均値よりも若干低く、さらなる改善の余地がある。

2-1から2-4までの4項目は、授業の設計に関するものである。「2-1. 狙いの明確さ」だけは昨年度よりも僅かに低下したが、その他の3項目については昨年度から上昇した。本年度から新しく設けられた「2-3. 講義項目との進み具合」も4.0を超えて、高い水準であった。

次に、授業の技術と運営に関する2-5から2-7までの3項目では、すべての項目で平均値が昨年度よりも高まった。「2-8. 宿題・課題」については、「この授業は、宿題・課題等が大変でしたか」という問いに対して、「どちらとも言えない」(33.32%)の回答が最も多かった。

2-9と2-10は学習の成果に関する項目である。2項目ともに平均値で昨年度から上昇した。「2-10. 見方・考え方が深まる」では大学全体の平均値を上回ったが、「2-9. 理解しやすさ」ではこれより低い結果にとどまった。

## ② 受講する姿勢や動機

1-1から1-5までの各項目について、回答の多かった上位2つを挙げた。これらの結果によれば、授業への出席状況は良好で、多くの学生が授業中にノートやメモをとっている。その反面で、予習や復習の時間が短く、授業時間以外に先生へ質問に行く学生は極めて少ないという実態が明らかとなった。

- 1-1. 授業への出席状況 ① 90%以上 (54.62%)、② 80%以上 (31.19%)
- 1-2. ノート・メモをとる ①強くそう思う (28.58%)、②そう思う (28.45%)
- 1-3. 予習・復習 ① 0.5h未満 (57.59%)、② 0.5h以上 (1h未満) (18.60%)
- 1-4. 受講動機 ①単位が必要だから (36.98%)、②講義要項を読んで興味を持った (33.52%)
- 1-5. 質問に行く ①全くそう思わない (63.51%)、②どちらとも言えない (14.58%)

## (3) 学部設問項目の評価

学部設問項目として、本年度もこれまで同様に、「授業の開始時間・終了時間」、「出欠席管理」、「授業中の私語」の3項目を設けた。学部設問項目について、過去4年間における各項目の平均値を並べた。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
6-1. 授業の開始・終了時間					
専任教員	△4.46	▼4.45	△4.47	▼4.44	△4.46
講師(非常勤)	△4.43	▼4.41	▼4.40	△4.42	△4.48
6-2. 出欠席管理					
専任教員	△4.50	▼4.43	△4.49	▼4.46	△4.51
講師(非常勤)	△4.52	▼4.48	□4.48	▼4.47	△4.54
6-3. 授業中の私語					
専任教員	△4.08	▼4.06	▼4.03	□4.03	△4.17
講師(非常勤)	▼3.73	△3.76	□3.76	▼3.72	△3.83

授業の開始・終了時間と出欠席管理については、継続的に高い平均値を維持しており、これらが定着していることを表している。授業中の私語については、専任教員の場合は低下傾向が続いたが、本年度は昨年度より高い。さらに、講師（非常勤）の場合は、専任教員の場合よりも平均値で若干劣るが、昨年度との比較では上昇しており、学部全体として授業中の私語が改善に向かっていることが分かる。

#### （４）教員所属別の評価

専任教員の科目（92科目）と講師（非常勤）の科目（156科目）について、各項目の昨年度と本年度の平均値を並べた。平均値がより高いものに○印を、低いものに●印を付けた。平均値が同じ場合には、□印とした。

	専任教員	講師(非常勤)
2-1. 狙いの明確さ	●4.13	○4.14
2-3. 講義要項との進み具合	●4.13	○4.14
2-5. 声の大きさ	●4.15	○4.16
2-6. 教材等の効果	□4.17	□4.17
2-7. 教室内の雰囲気	○4.24	●4.16
2-9. 理解しやすさ	●3.93	○4.00
2-10. 見方・考え方が深まる	○3.98	●3.95
3. 満足度	●4.10	○4.19

#### 3の回答が適切である項目

	専任教員	講師(非常勤)
2-2. 難易度	●3.37	○3.30
2-4. 進度	●3.18	○3.15

昨年度は平均値で講師（非常勤）よりも専任教員の方が高かったが、本年度は昨年度と



は全く正反対の結果になった。本年度、10項目のうち7項目で専任教員よりも講師（非常勤）の方が優れていた。しかし、この差はさほど重大なものとはいえない。

## （5）分野別の評価

### ① 分野相互間の比較

英語群（79科目）、地域言語群（84科目）、基礎科目群（19科目）、専門共通科目（20科目）、専門コース科目（46科目）の5群について、相互に比較した。平均値が最も高いものに○印を、最も低いものに●印を付けた。

	英語群	地域言語群	基礎科目群	専門共通科目	専門コース科目
2-1. 狙いの明確さ	4.12	○4.28	4.22	4.06	●3.95
2-3. 講義要項との進み具合	●3.14	4.23	○4.25	4.07	3.99
2-5. 声の大きさ	○4.24	4.21	4.17	4.10	●3.94
2-6. 教材等の効果	4.16	○4.26	4.24	4.04	●4.03
2-7. 教室内の雰囲気	○4.25	4.21	4.22	4.10	●4.09
2-9. 理解しやすさ	4.04	○4.09	3.97	●3.76	●3.76
2-10. 見方・考え方が深まる	3.90	○4.08	3.95	3.89	●3.88
3. 満足度	4.14	○4.35	4.11	●3.92	3.94

### 3の回答が適切である項目

	英語群	地域言語群	基礎科目群	専門共通科目	専門コース科目
2-2. 難易度	○3.27	3.35	3.39	●3.42	3.33
2-4. 進度	○3.14	3.17	●3.21	●3.21	3.15

地域言語群が、最も多くの項目で平均値が高かった。これに英語群、基礎科目群が続いている。これらに対して、10項目のうち6項目で、専門コース科目の平均値が最も低い。「3. 満足度」では、地域言語群、英語群、基礎科目群、専門コース科目、専門共通科目という順になっている。

### ② 英語群

「3. 満足度」で昨年度（3.94）より上昇し、大学全体の平均値も上回っている。「2-5. 声の大きさ」と「2-7. 教室内の雰囲気」の2項目で評価が高い。「2-2. 難易度」と「2-4. 進度」については、昨年度と比較して、3.46から3.27、3.29から3.14に改善されている。

### ③ 地域言語群

「3. 満足度」で昨年度（4.24）を上回り、極めて優れた結果であった。「2-1. 狙いの明確さ」、「2-6. 教材等の効果」、「2-9. 理解しやすさ」、「2-10. 見方・考え方が深まる」の4項目で平均値が最も高い。これは定着した傾向になっている。地域言語群は学部の特徴の一つとして、その授業に対する評価は高い水準を維持してきた。

#### ④ 基礎科目群

「3. 満足度」で大学全体の平均値よりも高く、昨年度（3.96）を上回った。「2-3. 講義要項との進み具合」で最も平均値が高い。さらに、「2-1. 狙いの明確さ」、「2-5. 声の大きさ」、「2-6. 教材等の効果」、「2-7. 教室内の雰囲気」の4項目で、4.0を超えている。これらの結果は、基礎科目群の授業が充実していることを裏付けている。

#### ⑤ 専門共通科目

昨年度は最も多くの項目で他の分野より劣っていたが、本年度は平均値で大幅に上昇した。「3. 満足度」で昨年度（3.67）より高い。「2-1. 狙いの明確さ」、「2-3. 講義要項との進み具合」、「2-5. 声の大きさ」、「2-6. 教材等の効果」、「2-7. 教室内の雰囲気」の5項目で、4.0を超えた。これまで専門共通科目の平均値が低いという状況が続いていたが、この状況が改善されたといえる。

#### ⑥ 専門コース科目

専門コース科目の授業については、「3. 満足度」で昨年度（3.98）より若干低下した。「2-1. 狙いの明確さ」、「2-5. 声の大きさ」、「2-6. 教材等の効果」、「2-7. 教室内の雰囲気」、「2-9. 理解しやすさ」、「2-10. 見方・考え方が深まる」の6項目で平均値が最も低く、昨年度との比較でも悪化している。この傾向を定着させてはならない。

特に、専門コース科目については、履修学年別ではなく、科目が配当されているコースと学生の所属の2点を考慮して集計を行ってきた。国際協力（10科目）、国際経済（14科目）、国際政治（11科目）、国際文化（5科目）、国際観光（4科目）、農業総合（2科目）の6コースの各平均値を比較して、平均値が最も高いものに○印を、最も低いものに●印を付けた。

	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合
2-1. 狙いの明確さ	3.95	3.94	3.95	●3.63	○4.34	4.05
2-3. 講義要項との進み具合	3.89	4.04	3.99	●3.80	○4.30	4.05
2-5. 声の大きさ	3.98	●3.77	3.98	3.79	○4.36	4.25
2-6. 教材等の効果	4.09	3.97	3.97	●3.84	4.21	○4.60
2-7. 教室内の雰囲気	4.04	4.10	4.11	●3.86	○4.36	4.30
2-9. 理解しやすさ	3.69	●3.62	3.83	3.63	○4.25	3.95
2-10. 見方・考え方が深まる	3.85	3.78	3.90	●3.69	○4.35	4.13
3. 満足度	3.87	3.87	3.95	●3.67	○4.43	4.40

#### 3の回答が適切である項目

	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合
2-2. 難易度	3.38	●3.40	○3.25	3.35	3.27	○3.25
2-4. 進度	3.15	3.16	3.12	3.21	●3.23	○3.08



専門コース科目の平均値の相互比較では、全体として国際観光コースの授業が最も優れていた。10項目のうち7項目で国際観光コースが平均値で最も高い。これに続いたのが、農業総合コースであった。昨年度は、国際協力コースで平均値の低下が目立ったが、本年度になって大幅に改善された。これらと比較して、国際文化コースと国際経済コースは平均値が低い。特に、国際文化コースは10項目のうち6項目で平均値が最も低い結果になった。「3. 満足度」では、国際観光コース、農業総合コース、国際政治コース、国際協力コース、国際経済コース、国際文化コースという順になっている。コース間の差の拡大は回避しなければならない。

## (6) 評価と課題

本年度のアンケートの結果によれば、総じて昨年度よりも評価は高まった。授業の内容や進め方に関して、平成18年度から低下傾向が続いていたが、平成22年度から改善に転じて、本年度はさらにその水準を高めた。しかし、大学全体の平均値との比較では、やや劣っている部分があり、まだ改善の余地が残されている。

受講する姿勢や動機に関して、学生の授業への出席状況は良好で、多くの学生が授業中にノートやメモをとっている。その反面で、予習や復習の時間が短く、授業時間以外に先生へ質問に行く学生は極めて少ないという実態が明らかとなった。

授業の開始・終了時間と出欠席管理については、継続的に高い平均値を維持しており、この傾向が定着している。学部全体として、授業中の私語も改善に向かっている。

分野相互間における平均値の比較では、地域言語群が突出して高い。これに英語群と基礎科目群が続いている。また、専門共通科目で全体として平均値が上昇した一方で、専門コース科目の授業に対する評価が芳しくなかった。これらの点で今後の変化を見極める必要がある。

専門コース科目相互間の比較では、全体として国際観光コースの授業で評価が最も高い。これも継続的な傾向である。これに農業総合コースが続いている。国際協力コースの平均値は昨年度から上昇した。これらに対して、国際文化コースの平均値が低い水準にとどまった。コース間の差を縮める対策の検討が求められる。

アンケートの結果から明らかになった問題を真摯に受け止め、その解決のために学部全体で取り組みたい。学部独自の授業見学とFD研究会において、これらの問題を取り上げたい。特に、好ましくない傾向が継続するようであれば、具体的な対策を講じる。今後も、アンケートの結果を踏まえて、多様なFD活動を一体的に推進して、授業の改善に結び付けたい。

## 6. 教養教育科目

### (1) 講義等科目

本節で対象とする 教養教育科目（以下、教養科目と略称）は、第 1 ～第 10 群および第 12 群の講義科目である。ただし今回は、第 9 群は調査結果が出されていないので、対象から外される。教養科目で今年度アンケートを実施したのは、93 科目であった。昨年度は 104 科目を実施した。ここでは与えられたデータに基づいて、教養科目の授業の調査結果の概要を述べ、幾つかのコメントを記しておきたい。

#### ① 教養科目全体の特徴——5 学部の専門科目との比較より

まず、「学科目別・平均値・標準偏差」(p.11)における教養科目全体の結果から見ていく。その際、同じ授業形態の科目で、データ数が比較的大きな商・政経・外国語・工・国際という 5 学部の専門科目の結果と比較しながら見る。

#### 学生の受講姿勢

教養科目の「出席状況」は 4.47 で、工学部(4.66)に次いで 2 位である。双方の順位は昨年と同じである。工学部とのポイントの差は 0.19 であるが、教育の環境・条件を考慮すると、教養科目はかなり高い数値であるといえる。

「メモ・ノート」(3.68)は逆に下から 2 番目で、最下位が工学部(3.62)である。教養科目は全体の平均よりも 0.22 ポイント低い。

「予習・復習」(1.70)は最下位で、最上位の外国語学部(2.16)との差は大きい。教養科目は中・大教室での授業科目が多いことが、この数値に表れていると思える。学生に予習・復習を力説しても、大人数の教室では声が届きにくいというのが現状である。

#### 授業の内容や進め方

これに関する 9 項目の結果は次のようである。

「質問」(1.60)は下から 2 番目で、最下位は政経学部(1.53)である。「狙いの明確さ」(4.01)は、外国語学部(4.25)に次いで 2 位である。「講義要項との進み具合」(4.05)は、外国語学部(4.23)、政経学部(4.08)に次いで 3 位である。「声の大きさ」(4.05)は、外国語学部(4.30)、商学部(4.07)に次いで 3 位である。「教材等の効果」(4.04)は、外国語学部(4.24)に次いで 2 位である。「教室の雰囲気」(4.14)は、外国語学部(4.26)、政経学部(4.19)に次いで 3 位である。「宿題・課題」(2.49)は、工学部(3.02)、外国語学部(3.01)に次いで 3 位である。「理解のしやすさ」(3.78)は、外国語学部(4.09)に次いで 2 位である。「見方・考え方が深まる」(3.76)は、外国語学部(3.93)、国際学部(3.88)に次いで 3 位である。

見られるように、教養科目は 1 位こそないものの、ほとんどの項目において 2 位、3 位である。それ以外は 5 位である。教養科目が現在置かれている教育の環境・条件を考慮すると、この結果は大健闘であるといえる。外国語学部と同程度に環境・条件が整った学部は他にもあるが、教養科目はほとんどの項目で、そのような学部の科目よりも優れた数値を記録している。このことは、大いに評価されて然るべきである。

## 難易度・進度

「難易度」は 3.36 で、0.36 程「適切」(3.00)を上回っている。すべての学部で「適切」を上回っているが、教養科目は外国語学部(3.30)、国際学部(3.34)に次いで「適切」に近い。教養科目は多種多様の講義を含んでおり、受講生の専門分野とはかけ離れた内容の講義もある。その意味で、すべての受講生の能力・関心に沿った内容の授業をおこなうことは難しい。このような教養科目に特有の事情を考慮すると、「難易度」3.36 という数値は、授業が創意・工夫して巧くおこなわれていることを示している、といえる。

「進度」は 3.19 で、0.19 ポイント程「適切」(3.00)を上回っている。すべての学部で「適切」を上回っているが、教養科目は外国語学部(3.14)、国際学部(3.16)に次いで「適切」に近い。全体の平均値は 3.19 であるから、教養科目はまずまずの数値を記録している、といえる。全学部で全般的に「進度」が早すぎる理由は、「講義要項との進み具合」が適切であることが、担当者に求められているからである、と思える。そうであるとすれば、「進度」が少々早すぎるようになるのは、はやむを得ないといえる。

## ② 教養科目の各群の結果(P.51)

### I.今年度の結果

#### 第1～9群について

第 10 群(日本語の表現)と第 12 群(情報技術)の科目は、授業の規模・形態、必修か否か等の点で、第 1 群～第 9 群とは異なる。したがって、これらの科目については、後に別途検討したい。

第 1 群～第 9 群の編成と名称は次のようである。

A 系列：1 群(人間の探求)・2 群(文学・芸術)・3 群(身体と運動)

B 系列：4 群(歴史・民族)・5 群(社会のしくみ)・6 群(現代社会の変容)

C 系列：7 群(自然の認識)・8 群(技術の発達)・9 群(環境と人間)

上記のように、9つの群はカリキュラム上、A 系列(人間)、B 系列(社会)、C 系列(自然と環境)の 3 系列に大きく区分されている。これら 3 つの系列での数値の結果は、各項目に関してバラツキがあり、とくに顕著な傾向は見られなかった。なお、今回は第 9 群は調査対象となっていない。以下には、各項目について、調査結果を見ていきたい。

#### 学生の受講姿勢

##### 〈出席状況〉

「出席状況」は、すべての群で 4.0 を上回っている。ただし 3 群(4.60)が最上位で、それに 7 群(4.49)が続いている。教養科目には受講生の数が多い授業が数多くあることが考えられる。それにもかかわらず、教養科目の「出席状況」は全般的に優れている。外国語科目、ゼミ・外書講読のような少人数制の科目と比較してもさほど劣っていない。

「メモ・ノート」は、7 群(4.25)が最上位で、それに 1 群(4.16)、5 群(4.03)が続いている。それに対し、2 群(3.28)は低い。大学全体の中でも低い。しかし近年は、プリントの配布、ブラック・ボードの活用など、授業方法が多様化しているので、「メモ・ノート」の数値は必ずしも授業方法の優劣を客観的に表示するものではない、といえる。

「予習・復習」は、「メモ・ノート」と同様に大学全体の平均を下回っている項目である。3 群(1.69)が最上位で、1 群(1.41)が最も低い。大学全体において、この項目で高い数値を示しているのは、ゼミ・外書講読、外国語学部、外国語科目である。このような数値の結果は、教養科目のこの項目での数値が低いことの原因をありありと示している、といえる。教養科目はほとんどの科目が中・大教室において、講義形式の授業がおこなわれている。したがって、受講生に予習・復習を呼び掛けても、それを強制的に要求することは困難である。ただ近年は、そのような困難を克服する努力がなされている。年度末の定期試験以外に中間試験やミニ・テストをおこなったり、レポートを書かせたりしている担当者もいる。

#### 授業の内容・進め方

12 項目のすべてを概観すると、第 3、5 群は平均値が高い項目が比較的多い。これに対し、第 2、4 群は高い項目が少ない。とくに 3 群は、「予習・復習」(1.69)、「声の大きさ」(4.03)、「理解のしやすさ」(3.67)、「教材等の効果」(4.05)「見方・考え方が深まる」(3.73)の 5 項目において、教養科目では最上位である。しかしこれら 5 項目は「見方・考え方が深まる」を除いて、大学全体の平均よりも低い項目である。つまり 3 群がこれらの項目で健闘しても、教養科目全体としては大学全体の水準に届いていないことを意味している。ここでも中・大教室で授業という性格が、このような数値となって反映していると思える。ちなみに「教室の雰囲気」は大学全体の平均が 4.16 であるのに対し、教養科目全体の平均は 4.14 で、大学全体よりも 0.02 程劣るが、4.0 を上回っている。この数値は、教員の努力と成果を表示している、といえる。

授業の内容・進め方に関する 9 項目の結果の詳細は、次のようである。

「質問」は 7、8 群(1.53)が最も高く、5 群(1.31)が最も低い。「狙いの明確さ」は、5 群(3.95)が最も高く、2 群(3.40)が最も低い。「講義要項との進み具合」は 8 群(4.03)が最も高く、4 群(3.69)が最も低い。「声の大きさ」は 1、3 群(4.03)が最も高く、4 群(3.38)が最も低い。しかし、この項目は教室の大きさ、受講者数、マイクの調子などが大きく関係するので、数値は客観的ではない。「教材等の効果」は 3 群(4.05)が最も高く、4 群(3.63)が最も低い。この項目は授業の内容・性質と深く関係している。特定のテキストの沿っておこなう授業もあれば、そうでないものもある。この項目の数値は、このような事情を考慮して判断しなければならない。「教室の雰囲気」は、5 群(4.15)が最も高く、2 群(3.46)が最も低い。

「宿題・課題」は、6 群(2.57)が最も高く、1 群(1.89)が最も低い。「理解のしやすさ」は、3 群(3.67)が最も高く、4 群(3.20)が最も低い。「見方・考え方が深まる」は、3 群(3.73)が最も高く、7 群(3.30)が最も低い。

#### 満足度

「満足度」は、B 系列 5 群(3.86)が最も高く、C 系列 7 群(3.47)が最も低い。A 系列 3 群は、5 項目で最上位であるけれども、この「満足度」では 3.81 で、3 位である。なぜ、このような結果になったのかは、よく分からない。おそらくは先ほども述べたように、「満足度」は受講者の主観的な感情で、客観性が乏しい性質のものであるからではないか、と

思える。この項目は、担当者にとってはインパクトが強いものと思えるが、この項目がこのような特殊な性質を帯びているものであることは、念頭に置いておくべきである。なお、全群中、最多の4項目で最下位のB系列4群は、「満足度」(3.46)で最下位である。

#### 難易度・進捗

「難易度」は、最も「適切」(3.00)に近いのが3群(3.16)、続いて2群(3.17)で、最も「適切」から離れているのが7群(3.72)、続いて8群(3.47)である。つまり「適切」に近い2つの群が共にA系列で、離れているのが共にC系列である。

「進捗」は、最も「適切」に近いのが3群(3.07)、続いて2群(2.92)で、最も「適切」から離れているのが8群(3.40)、続いて7群(3.34)である。つまり、「難易度」とほぼ同じ結果が示されている。「難易度」と「進捗」とに必然的な関連があるのか否かは、この限りでは定かではないが、この結果は興味深い。

#### \*第10・12群について

以上は第1～第8群の結果についての報告である。次に、第1～第8群とは授業の形態と性質が異なる、D系列の第10群(日本語の表現)と第12群(情報技術)について報告したい。

#### 学生の受講姿勢

「出席状況」は10群が4.35で、12群が4.54である。12群は教養科目の全体の平均(4.43)よりも高く、10群はそれよりも低い。10群は12群と同様に少人数の科目が中心であるが、なぜこのような結果が生じたのかは、分からない。「メモ・ノート」は、10群が3.55で、12群が2.55である。12群は全体(3.45)よりも低い。これは授業の内容(パソコン演習)の性質上むしろ当然であろう。「予習・復習」は10群が1.63で、12群が1.50である。12群は教養科目の全体の平均(1.53)よりも低い。これも授業の内容が実技指導であることを考慮すれば、むしろ当然であるといえる。

#### 授業の内容・進め方

10群・12群の多くの項目において、教養科目の全体の平均よりも数値が高い。10群は、「講義要項との進み具合」「理解のしやすさ」「見方・考え方が深まる」において、12群は、「質問」「狙いの明確さ」「宿題・課題」において最上位である。

#### 満足度

10群(4.07)はすべての群のなかで最上位で、12群(3.89)は2位である。ここにも、少数授業の利点が示されているといえる。

#### 難易度・進捗

「難易度」は10群(3.20)が、2、3群に続いて「適切」に近く、12群(3.47)は全体の平均よりも難しい。「進捗」は10群(2.98)が最も「適切」に近く、12群(3.42)は全体の平均(3.19)よりも速すぎる。12群は、「難易度」「進捗」において平均よりも「適切」で



ないが、「満足度」は高い。この結果は、教育は小教室での少数学生と教師との人格的な接触が重要であることを、示唆しているといえる。

## II. 昨年度との比較

まず、教養科目全体（第1～8群、第10・12群）の平均に関して、昨年度と今年度において設問項目が同一のもの（10項目）について、数値を比較してみる。

「出席状況」は、昨年度が4.51で、今年度が4.43である（以下、4.51/4.43という形に略記）。「メモ・ノート」は、3.62/3.45である。「予習・復習」は、2.56/1.53である。「狙いの明確さ」は、3.96/3.85である。「声の大きさ」は、3.96/3.97である。「教材の効果」は、3.93/3.90である。「教室内の雰囲気」は、4.03/4.03である。「理解のしやすさ」は、3.72/3.64である。

「見方・考え方が深まる」は、3.71/3.60である。「満足度」は、3.91/3.80である。「難易度」は、3.43/3.36である。「進度」は、3.23/3.19である。

以上の学生の受講態度と授業の内容・進め方に関する10項目において、昨年度よりも高い数値を示しているのは、1項目（声の大きさ）のみである。それ以外の項目においては、昨年度と同じ数値を示している項目（教室内の雰囲気）を除くすべての項目において、昨年度よりも低い数値を示している。

これに対し「難易度」と「進度」の2項目は、共に昨年度よりも「適切」に近い数値を示している。とはいえ、「満足度」を含む多くの項目において昨年度よりも数値が低いことは、残念な結果といえる。とくに「予習・復習」が昨年度の低い数値からさらに下がったことは、深刻である。受講者の教室外での生活態度に関わる問題として、深刻に受け止めなければならない。

次に、第1～第8の各群に関して、昨年度と比較してみる。

昨年度は、全13項目中、1群が「満足度」を含む7項目で最上位、続いて4群が3項目で最上位であった。また「難易度」では3群が、「進度」では6群が、最も「適切」に近い数値を示していた。つまりA系列1群が際だって優れた数値を記録していた。

これに対し、今年度は3群が6項目で、5群が3項目で高い数値を示している。そして「満足度」の項目では、5群が最上位であった。したがって今年度は、昨年度の1群のような大健闘をした群はないが、学生の受講態度と授業の内容・進め方に関する13項目では、3群が最も優れ、5群がやや優れているといえる。ところが、その1群は今年度は、1項目「声の大きさ」においてのみ最上位であるにすぎない。しかも別の2項目「予習・復習」「宿題・課題」では最下位である。また、「難易度」と「進度」の双方の項目では、3群が最も「適切」に近い数値を示している。3群は学生の受講態度と授業の内容・進め方に関する6項目で最上位である。したがって今年度に最も優れた結果を記録したのは、3群である。

もっとも、昨年度との数値の比較に関しては、考慮すべき多くの事柄がある。教養科目においては、同じ科目であっても、年が変わる毎に受講生の数、学科別人数、基礎学力、学習態度などが異なる。それに講師（非常勤）の担当者が比較的多いので、教師が変わることも多い。したがって担当者が従来と同じ方法で授業をおこなっても、アンケートの結

果に差異が見られることが比較的多い。このような事情を考慮すると、昨年度との比較は参考資料にはなっても、さほど重要ではないと思える。

最後に、「受講動機」(p.51 下段)について昨年度の結果と比較してみる。今年度は、教養科目(第1～8群、第10・12群)の受講者は、「単位が必要」(33.5%)、「時間帯が空いている」(32.2%)、「講義への興味」(23.5%)が比較的多く、「単位取得が楽」(6.8%)、「教員にひかれて」(3.9%)が極めて少ない。これに対して昨年度は、「時間帯が空いている」(36.1%)、「単位が必要」(32.9%)が比較的多く、「講義への興味」(19.8%)が比較的少なく、「単位取得が楽」(7.4%)、「教員にひかれて」(3.9%)が極めて少なかった。したがって今年度は昨年度と比べ、「講義への興味」がやや多くなったといえる。この結果は確かに、昨年度よりは良い。しかし、この調査結果は昨年度と同様に、受講者の勉学に対するモチベーションが極めて低いことを示している。

### ③ 調査結果に基づく反省と展望若

#### I. 授業改善のための学生アンケートに関して

第1に、「学科目別・平均値・標準偏差」(p.11)において、全体の平均値の算定に際し、外国語科目、教職・社職・日本語科目、ゼミ・外書講読が含まれている。しかしこれらの科目は、授業形態(教室の規模・受講生の数・授業運営の仕方など)が、他の分野の科目とは異なる。したがってこれらの特殊な形態の科目は、全体の平均値の算定に含まれるべきではない。それらが含まれているために、平均値・標準偏差を客観的な判断を下すための数値として用いることができない。たとえば、教養科目は専門科目と比較して、各項目で外国語学部に次いで優れた数値を示しているけれども、全体ではほとんどの項目で平均よりも劣っているという結果になる。

第2に、設問項目にある「満足度」というのは、受講生の主観的な感情に大きく依存する数値である。ホテルやレストランでの利用者アンケートに、このような質問事項がよく見られる。このような質問事項が教育の場において適切であるかどうかは、議論の余地がある。客観性が乏しい「満足度」という項目に代えて、学生の受講態度と授業の内容・進め方に関する12の設問項目の平均値を算定して、記載してはどうか。

第3に、学生アンケート用紙には「自由意見欄」というのがある。大人数の授業では、受講生との意見交換をおこなう手段として、有益である。しかし受講生のなかには、「自由意見」の自由の意味を履き違えて、あらぬ事を書く者もいる。この項目の「自由意見」という表記には、検討の余地があると思える。

#### II. 教養教育科目に関して

今回の調査結果で、とくに目をひいたのは、ゼミ・外書講読が、学生の受講態度と授業の内容・進め方に関する項目において、優れた数値を示していることである。具体的には全体の中で、「出席」「ノート・メモ」を除くすべての項目において最上位である。とくに「質問」「声の大きさ」「教室の雰囲気」の項目だけではなく、「理解のしやすさ」「見方・考え方が深まる」のような学習そのものと関係する重要な項目において、高い数値を記録していることは、注目に値する。しかも、このようなゼミ・外書講読の優れた結

果は、今年度だけではない。昨年度においても、12項目中10項目で最上位という優れた結果を記録している。

こうして今年度は、学科別の全体のなかではゼミ・外書講読が、専門科目・教養科目の中では外国語学部専門科目が傑出している、ということになる。この結果は、教養科目の将来を展望うえで、重要な示唆を与えているといえる。教育において、最も重要なことは、いうまでもなく担当者の教師としての自覚・力量・熱意である。しかし今回の結果は、教育の物理的な環境・条件が、優れた教育がおこなわれるための大きな要因をなしている、ということを示唆している。ゼミ・外書講読と外国語学部専門科目における優れた結果が、中・大教室で展開される他の分野の科目とは異なる、その特殊な授業形態と深く関連していることは、否めないからである。

今回、教養科目は学生の受講態度と授業の内容・進め方に関する多くの項目において、5学部専門科目・教養科目のなかでは、外国語学部専門科目に次いで優れた結果を記録した。しかし環境・条件が改善されない限り、このような状態を来年度も持続できる可能性は乏しいであろう。キャンパス移転に向けて、教養科目の再編成についての議論がおこなわれている。その再編成がどのような方向へ向けおこなわれるべきであるかは、今回の調査結果が明確に示していると思える。今回の調査が教育の改善・改革に向けて生かされることを願うばかりである。



## (2) 外国語科目

### 1. アンケートの実施状況

本年度の「授業改善のための学生アンケート」は11月5日から12月15日に行われた。ここで「外国語科目」とは、商学部、政経学部、外国語学部の12カ国語、274科目の授業を意味する。科目の内訳は、英語、アラビア語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、インドネシア・マレーシア語、ロシア語、日本語である。

### 2. 項目別における集計結果（設問項目別に全体の平均値と比較）

#### I-1「学生の出席状況」

昨年の平均値が4.56であったのに対し、今年は4.49と0.07下がっている。一昨年度以前の数値とほぼ同じである。メジャー言語の中でもスペイン語が4.38と低く、改善が望まれる。

#### I-2「ノート・メモ」

外国語科目は3.99となり、昨年の平均値4.14から0.15の下降となった。昨年と同様、今年も全体の平均値(3.90)を上回っている。ただしここ数年では最も悪い値であり、注意が必要である。

#### I-3「予習・復習」

今年度の外国語科目の値は2.00となっており、全体の平均値1.92と比較しても0.08上回っている。しかし2.00とは毎回の予習・復習が30分であることを意味しており、決して十分な値とは言えない。

#### I-5「質問・オフィスアワー等」

今年度の値は1.75で、全体の平均値1.71と比較し、0.04上回った。しかし実体としては、ほとんど質問が行われていないことになる。

#### II-1「狙いの明確さ」

全体の平均値4.06に対し、外国語科目の平均値は4.07となっている。昨年は全体が4.03、外国語科目は4.09である。全体の値が0.03上がったのに対し、外国語科目は値を下げ、両者の差が縮まる結果となった。

#### II-3「講義要項との進み具合」

全体の平均値が4.08であるのに対して、4.05となった。僅差ではあるが、全体を下回る結果となった。

#### II-5「声の大きさ」

全体の平均値4.11に対し、外国語科目の平均値4.16となっており、0.05上回っている。昨年の外国語科目平均値は4.14であり、0.02上昇した。外国語学習にとって、「声

の大きさ」は発音練習等で重要な要素となるので、今後も上昇を期待したい。

#### II-6 「教材などの効果」

外国語科目の平均値は 4.09 で、全体の平均値 4.07 に対し 0.02 上回る結果となった。昨年の外国語科目の平均値は 3.97、全体の平均値は 3.96 であったため、両者とも昨年より評価が上昇している。

#### II-7 「教室内の雰囲気」

外国語科目の平均値は 4.19 で、全体の平均値 4.16 を 0.03 上回った。昨年の値（外国語科目 4.17、全体 4.09）を上回ったが、全体の平均値とは差が縮まる結果となった。

#### II-8 「宿題・課題」

全体の平均値が 2.72 であったのに対し、外国語科目の平均は 2.69 であった。アンケートの質問は「この授業は、宿題・課題が大変ですか」であるので、全体と比較して若干負担感が軽いということになる。しかしながら、毎回の予習・復習が平均 30 分程度なので、いかに学生に学習時間を確保させるかが課題となる。

#### II-9 「理解しやすさ」

外国語科目の平均値 が 3.82、全体の平均値 3.80 で、0.02 と外国語科目が若干上回っている。初めて学習する外国語において、理解しやすさは重要な項目となる。昨年の外国語科目の平均値が 3.91 で全体の平均値は 3.78 であった。今年度は全体の平均値との差が大きく縮まったことになり、課題が残った。特にスペイン語が 3.29 と値が低く、今後の改善が望まれる。

#### II-10 「見方・考え方が深まる」

外国語科目の平均値は 3.62、全体の平均値 3.75 となった。昨年の外国語科目の平均値が 3.88、昨年の全体の平均値 3.81 であった。昨年と比較して外国語科目が下がり、全体の平均値と逆転した。ここでも特定の言語の値が低く、改善が必要と思われる。

### III 「満足度」

全体の平均値 4.02 に対し、外国語科目の平均値は 4.03 となり、0.01 上回った。昨年の値を上回っているものの、(外国語科目 4.00、全体 3.92) 両者の差は縮んでおり、外国語科目としては課題が残った。

○の回答が適切である項目

#### II-2 「難易度」

全体の平均値が 3.38 であったのに対し、外国語科目は 3.33 であった。外国語科目の方が「ちょうど良い」の値に近いことになる。

## II-4 「進度」

全体の平均値が **3.19** であったのに対し、外国語科目の平均値は **3.14** であった。これも「ちょうど良い」の値に近い。

### I-4 「受講動機」回答の分布

多くの言語において、「単位が必要」と「時間帯が空いている」が多くのパーセンテージを占めている。「教員にひかれて」の値が低いのは、必修の第二外国語が入学前に選択されることに理由がある。「講義への興味」の値が低いのは問題であり、改善が必要である。

### 3. 本年度の集計結果の評価について

- ①. 「出席状況」は **4.49** と悪い値ではないが、前年度の水準 (**4.56**) 以上を目指すべきである。
- ②. 「出席状況」、「ノート・メモ」、「狙いの明確さ」、「知識・技術が身につく」、「見方・考え方が深まる」の項目が昨年の値を下回った。
- ③. 「声の大きさ」、「教材などの効果」、「教室内の雰囲気」が、昨年度の値を上回った。
- ④. 「満足度」については、昨年度を上回る結果となった。
- ⑤. 一昨年度はほぼすべての項目で、前年度の値を上回った。昨年度は一昨年度を上回った項目と下回った項目がほぼ同数であった。今年度も昨年度を上回った項目と下回った項目があったが、下回った項目の方が多かった。また全体の平均値が上がっているため、外国語科目の平均値との差が縮まるか、あるいは逆転する項目があった。相対的に外国語科目の値が下がっているとみなすことができる。

### 4. 課題

- ①. 外国語科目の中でも特に第二外国語科目は、昨年度と同様、言語ごとの一クラスあたりの人数に差がある。ここ近年はドイツ語のクラスが **40** 名を超えることが多く、平均 **30** 名を下回る言語との学習環境の差が顕著となっている。受講者の学習環境よりも教員の事情を優先させる風潮が柔軟なクラス数設定の妨げとなっており、大いに問題である。今後は特に国際情勢の変化によって、各言語の受講者数の変化が激しくなることが予想される。このため、各言語間のクラス数の調整について、具体的な対応策を早急に検討する必要がある。
- ②. アンケートの数値の大まかな傾向を見ると、外国語科目の値が全体的に下がり、全体の平均値が上がっている。外国語科目は昨年、一昨年と数値が上昇傾向にあった。今年度はそれ以前の数値に戻ったと言える。毎年数値を上昇させることは困難であるが、少なくとも来年度以降数値が下がらないよう留意する必要がある。
- ③. 各言語の数値を見ると、日本語の数値が高く、すべての項目において外国語科目の平均値を上回っている。これと比較してスペイン語の値が低い傾向がある。これは同言語全体が平均的に低いというよりも、特定のクラスが問題を抱え、著しく低い評価をされたために数値を下げている可能性もある。この点について、調査が必要であると考えられる。また、科目数の多い英語に対する評価の向上が、外国語科目全体に対する評価の向上に

つながる。それ故、英語科目の授業改善への一層の取り組みが期待される。前年度も指摘したが、英語と第二外国語はそれぞれ異なるシステムで授業運営がなされているので、二つを分けて評価する必要もあると考える。

- ④.外国語科目は、少数の専任教員と大多数の講師（非常勤）によって運営されている。そのため授業運営に当たっては、専任教員と講師（非常勤）の連携を密にする必要がある。近年この点は大きく改善されているが、それでも成績評価についてクラス毎にばらつきがあるとの声を聴く。特定のクラスにおいて著しく厳しい評価が施されると、公平性や単位の正当性に疑問が生じかねない。またネイティブの教員と日本人教員との間にも評価方法について十分な合意がなされているとは言えず、到達目標の共有化など一層の標準化への取り組みが必要である。
- ⑤.商学部、政経学部は英語、第二外国語とも 2 年次まで必修で、3, 4 年次は選択科目となる。現状では 4 年間を通した教育目標が、必ずしも明確になっていない。多くの受講生が外国語科目の選択の基準を「単位が必要だから」、「時間帯が空いているから」としているのは、学習の成果を具体的にイメージできていないからである。そのため、英語と第二外国語の連携を密にし、進路にどのように役立つか、具体例を示す必要がある。例えば ToEIC600-800 点台プラス地域言語の運用能力があれば、就職に有利に働く。こういった外国語学習とキャリア・メイキングについて、教員サイドが受講生に積極的に情報を提示する必要がある。そうすれば、受講生のモチベーションが上がる。また「個人研修奨学金」、「長期・短期留学」といった現行のプログラムについても、インセンティブとして積極的な応募を呼びかけることも重要である。

### (3) スポーツ・トレーニング科目

#### (A) 評価

##### I. 受講する姿勢や動機について

###### I-1 「学生の出席状況」

平均値 4.51 (平成 23 年度調査は 4.58、平成 22 年度 4.51、平成 21 年度 4.47、平成 20 年度 4.53、平成 19 年度 4.47)。出席率 80 %以上と答えた学生は 88 %であった。平成 23 年度調査では 90%、平成 22 年度 88 %、平成 21 年度 88 %、平成 20 年度 90 %、平成 19 年度 88%であり、昨年度と同等くらいの出席状況であった。

###### I-2 「健康・運動への関心」

平均値 4.21 (平成 23 年度調査 4.15、平成 22 年度 4.20、平成 21 年度 4.08、平成 20 年度 4.11、平成 19 年度 4.12)。平成 24 年度は「強く関心を持つが 47.29 %、そう思うが 30.65 %」で約 78%、平成 23 年度調査では約 78%、平成 22 年度約 80 %である。過去 4 年間は 75 %以上の学生が「健康・運動」に関心を持っていると回答したことになる。

###### I-3 「積極的参加」

平均値 4.37 (平成 23 年度調査は 4.30、平成 22 年度 4.35、平成 21 年度 4.28、平成 20 年度 4.21、平成 19 年度 4.21)。平成 24 年度は「強くそう思う 57.39 %、そう思うが 29.55 %」で 87%、平成 23 年度調査では 87%、平成 22 年度は 87 %、比率は昨年と同様の数値になった。

###### I-4 「受講動機の回答比率」

スポーツ・トレーニング科目は必修科目であるため、この項目調査は適当ではないと考えられる。

##### II. 授業の内容や進め方について

###### II-1 「狙いの明確さ」

平均値 4.33 (平成 23 年度調査では 4.25、平成 22 年度 4.33、平成 21 年度 4.23、平成 20 年度調査 4.21、平成 19 年度 4.30)。平成 24 年度は「強くそう思う 51.32%、そう思う 31.58%」の約 83 %。平成 23・22 年度の 84 %とほぼ同様の数値であった。平成 21 年度も同様に 84%であった。

###### II-2 「難易度」

平均値 3.15 (平成 23 年度調査は 3.17、平成 22 年度 3.26、平成 21 年度 3.20、平成 20 年度 3.20、平成 19 年度 3.22)。平成 24 年度は「ちょうど良い」が 72.98%で、平成 23 年度(71.76 %)より向上した。

###### II-3 「進度」

平均値 3.09 (平成 23 年度調査は 3.06、平成 22 年度 3.19、平成 21 年度 3.14、平成 20 年度 3.12、平成 19 年度 3.17)。平成 24 年度は「ちょうど良い」は 89 %で、平成 23 年度 87 %と比較して、改善されている。

#### Ⅱ－４「説明方法・分かりやすさ」

平均値 4.22（平成 23 年度調査は 4.11、平成 22 年度 4.23、平成 21 年度 4.02、平成 20 年度 4.08、平成 19 年度 4.17）。平成 24 年度は「強くそう思う 48.04%、そう思う 25.98%」で 74 %、平成 23 年度では 71 %。平成 22 年度 77 %、平成 21 年度 69 %、20 年度 71 %と、昨年比では改善した。この結果を大局的に見ると、まだまだ教員自身の改善努力が必要な項目になっている。良い変化の兆しは見えてきている。

#### Ⅱ－５「話し方や声の聞き取りやすさ」

平均値 4.48（平成 23 年度調査は 4.38、平成 22 年度 4.45、平成 21 年度 4.36、平成 20 年度 4.41、平成 19 年度 4.42）。平成 24 年度は「強くそう思う 65.84%、そう思う 23.47%」の約 89 %である。平成 23 年度は約 86%、平成 22 年度は約 89 %であり、平成 22 年度と同数であった。

#### Ⅱ－６「学生とのコミュニケーション」

平均値 4.38（平成 23 年度調査は 4.32、平成 22 年度 4.44、平成 21 年度 4.29、平成 20 年度 4.30、平成 19 年度 4.30）。平成 24 年度は「強くそう思う 56.74%、そう思う 26.59%」の約 83 %である。平成 23 年度は約 82 %、平成 22 年度は約 86 %の学生が評価している。前年度と比べ大きな変化はなく、目標値をクリアしなかった。

#### Ⅱ－７「リーダーシップ」

平均値 4.42（平成 23 年度調査は 4.36、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.32、平成 20 年度 4.32、平成 19 年度 4.38）。平成 24 年度は「強くそう思う 56.85%、そう思う 29.27%」の約 86 %である。平成 23 年度は約 85 %で、平成 22 年度は約 87 %であった。今年度は目標値をクリアしたが、「民主的・協調的リーダーシップ」は指導スキルに欠かせないものであるため今後も向上を目指す必要がある。

#### Ⅱ－８「授業の雰囲気」

平均値 4.48（平成 23 年度調査は 4.37、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.34、平成 20 年度 4.36、平成 19 年度 4.42）。平成 24 年度は「強くそう思う 58.80%、そう思う 30.15%」の約 89 %で、平成 23・22 年度も約 86 %であり、過去と比較して、少々上昇した。この項目に影響を与える要素は、学生間の集団力学、施設設備、備品などがあると考えられるが、教員の指導スキルが最も影響する項目でもある。目標値は 90%。まだ達成できない。

#### Ⅱ－９「理解しやすさ」

平均値 4.37（平成 23 年度調査は 4.37、平成 22 年度 4.41、平成 21 年度 4.29、平成 20 年度 4.30、平成 19 年度 4.35）。平成 24 年度は「強くそう思う 55.09%、そう思う 31.13%」の約 86 %である。平成 23 年度は約 84 %、平成 22 年度は約 86 %であり、平成 22 年度と同数となり、達成目標値の 85%をクリアした。

#### Ⅱ－10「知識・技術が身につく」

平均値 4.23（平成 23 年度調査は 4.26、平成 22 年度 4.28、平成 21 年度 4.13、平成 20 年度 4.16、平成 19 年度 4.20）。平成 24 年度は「強くそう思う 44.74%、そう思う 37.59%」の約 82 %で、平成 23・22 年度はともに約 82 %であった。前回同様、非常に良い数値である。重要な項目であるのでさらに何が有用な知識技術であるのか研究する必要がある。目標値に達成している。継続していきたい。



## II-1 「健康・体力維持に役立つ」

平均値 4.33（平成 23 年度調査は 4.36、平成 22 年度 4.38、平成 21 年度 4.22、平成 20 年度 4.19、平成 19 年度 4.27）。平成 24 年度は「強くそう思う 50.47%、そう思う 35.08%」の約 85 %、平成 23 年度約 85 %、平成 22 年度が約 86 %であった。昨年以前は約 80 %前後の評価であったが、昨年度・今年度の数値は達成目標値 85 %をクリアした。

## III. 総合的に見て、この授業に満足していますか

平均値 4.43（平成 23 年度調査は 4.39・平成 22 年度 4.46・平成 21 年度 4.34・平成 20 年度 4.35・平成 19 年度 4.36）。平成 24 年度は「強くそう思う 60.04%、そう思う 26.45%」の約 86 %である。過去 5 年間は約 85 %位の同じ傾向である。達成目標値 90 %に近い数値が今回の調査でも得られているが、今だに達成目標値はクリアしていない。

## IV. スポーツ・トレーニング用の独自の設問項目

### IV-1 「希望種目」

平均値 4.28（平成 23 年度調査は 4.15・平成 22 年度 4.19・平成 21 年度 4.09・平成 20 年度 4.22・平成 19 年度 4.08）。この調査項目に関しては、1 年生の授業は必修科目、2 年時以上は自由科目であるので、データが混在し正しい評価は出来ないと思われる。恐らく、1 年生は、受講時間、種目選択に学生個人の意思があまり反映されないから「単位取得のため」となり、2 年次以上の学生は必修ではないため、動機の特定は困難となる。しかし「スポーツ種目」はなるべく希望種目になるように出来得る限りの配慮を考えたい。

### IV-2 「時間帯」

平均値 3.92（平成 23 年度調査は 3.93・平成 22 年度 3.97・平成 21 年度 3.80・平成 20 年度 3.92・平成 19 年度 3.89）。時間帯は学生の満足を得ていないと考えられる。特に 1 時限目の授業は運動するのに相応しいとは思われない。しかし悪いという訳でもないようである。現在の授業時間設定はやむをえないものであるが今後の改善課題でもある。

### IV-3 「次年度の履修希望」

平均値 3.47（平成 23 年度調査は 3.56・平成 22 年度 3.60・平成 21 年度 3.51・平成 20 年度 3.54・平成 19 年度 3.56）。1 年次終了して 2 年次以降に履修したい学生の比率が、前年度と比べ、低下していた。「希望種目」「時間帯」の設問と同様に 1 年生のみに限定して調査する必要を感じる。

## (B) 課題

- ①平成 17 年度達成値から、平成 18 年度以降の「達成する目標値」を設定した（表 1 参照）。この数値は努力目標であり義務目標ではない。また数字の根拠となる理論も無い。しかし、「努力目標数値」と考え、時間をかけていくと根拠のある数字を見つけることが出来るであろうという前提のもとで以下を記す。表 1 の「希望種目」「時間帯」「次年度履修希望」には「達成目標値」を設定していない。

②表1の達成値はアンケートの調査項目で、「⑤強くそう思う、④そう思う」と回答した学生の割合である。但し、「難易度」「進捗」については、「③ちょうど良い」と解答した学生の割合である。また、表の項目の「達成・未達成・増減」は、達成目標値を達成した項目は◎印、未達成は×印で表し、そして、今回の調査が前年度に比べて増加した場合は↑、減少した場合は↓、横這いは→で表している。数値は小数点以下四捨五入である。

表1 「年度別達成値」と「達成目標値」の推移

	調査項目	20年度 達成値	21年度 達成値	22年度 達成値	23年度 達成値	24年度 達成値	達成 目標値	◎達成
I-1	学生出席状況	90%	88%	88%	90%	88%	95%	×↓
I-2	健康・運動関心	77%	77%	80%	78%	78%	80%	×→
I-3	積極的参加	83%	85%	87%	87%	87%	85%	◎→
II-1	狙いの明確さ	79%	84%	84%	84%	83%	80%	◎↓
II-2	難易度	72%	68%	72%	71%	73%	80%	×↑
II-3	進捗	85%	81%	85%	87%	89%	85%	◎↑
II-4	説明方法	71%	69%	77%	71%	74%	75%	×↑
II-5	話し方・声の大きさ	89%	86%	89%	86%	89%	87%	◎↑
II-6	コミュニケーション	84%	83%	86%	82%	83%	85%	×↑
II-7	教員のリーダーシップ	83%	85%	87%	85%	86%	88%	×↑
II-8	授業の雰囲気	85%	87%	86%	86%	89%	90%	×↑
II-9	理解しやすさ	85%	85%	86%	84%	86%	85%	◎↑
II-10	知識・技術の習得	77%	79%	82%	82%	82%	80%	◎→
II-11	健康・体力維持	79%	80%	86%	85%	85%	85%	◎→
III	総合的な満足度	86%	85%	86%	88%	86%	90%	×↓
IV-1	希望種目							
IV-2	時間帯							
IV-3	次年度履修希望							

総括

- ①「達成目標値」をクリアした項目：7項目
- ②「達成目標値」にあと1歩の項目：5項目
- ③「達成目標値」に一層の努力を要する項目：「学生出席状況」、「難易度」、「総合的な満足度」の3項目



備考 平成 24 年度の努力目標設定

平成 24 年度は平成 23 年度より達成目標値をクリアした項目が増加した。教員が共通意識を持ち、努力をした結果が数値に表れたと思える。更に努力次第で未達成項目の達成は可能と考え来年度はまた頑張りたい。平成 24 年度も「体育教員室」に努力目標として「説明方法を改善しよう」のポスターを掲示した。学生の評価結果としては十分に効果があったと思える。前述した通り平成 25 年度も引き続き努力していくつもりである。

討議のための参考資料として「表 2」を作成した。「表 1」の補完として利用できる。

表 2 「各年度の平均値の推移」

	調査項目	19 年度 平均値	20 年度 平均値	21 年度 平均値	22 年度 平均値	23 年度 平均値	24 年度 平均値
I-1	学生出席状況	4.47	4.53	4.47	4.51	4.58	4.51
I-2	健康・運動関心	4.12	4.11	4.08	4.20	4.15	4.21
I-3	積極的参加	4.21	4.17	4.28	4.35	4.30	4.37
II-1	狙いの明確さ	4.30	4.21	4.23	4.33	4.25	4.33
II-2	難易度	3.22	3.20	3.20	3.26	3.17	3.15
II-3	進度	3.17	3.12	3.14	3.19	3.06	3.09
II-4	説明方法	4.17	4.08	4.02	4.23	4.11	4.22
II-5	話し方・声の大きさ	4.42	4.41	4.36	4.45	4.38	4.48
II-6	コミュニケーション	4.30	4.30	4.29	4.44	4.32	4.38
II-7	教員のリーダーシップ	4.38	4.32	4.32	4.46	4.36	4.42
II-8	授業の雰囲気	4.42	4.36	4.34	4.46	4.37	4.48
II-9	理解しやすさ	4.35	4.30	4.29	4.41	4.37	4.37
II-10	知識・技術の習得	4.20	4.16	4.13	4.28	4.26	4.23
II-11	健康・体力維持	4.27	4.19	4.22	4.38	4.36	4.33
III	総合的な満足度	4.36	4.35	4.34	4.46	4.39	4.43
IV-1	希望種目	4.08	4.22	4.09	4.19	4.15	4.28
IV-2	時間帯	3.89	3.92	3.80	3.97	3.93	3.92
IV-3	次年度履修希望	3.56	3.54	3.51	3.60	3.56	3.47

## 7. 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目

授業評価の教職課程の科目数は 32 科目、社会教育主事講座の科目数は 1 科目、日本語教員養成基礎講座科目の科目数は 5 科目が対象であり、全体では 38 科目であった。「Ⅲの満足度」について 3 講座全体で見ると、昨年度の平均値 3.99、本年度が平均値 4.18 であり、やや増加した。⑤「強くそう思う」が 39.2 %、④「そう思う」が 37.9 %であった。

### (1) 教職課程について

#### I 受講する姿勢や動機について

- I-1 教職科目全体での「学生の出席状況」を見ると、平均値は 4.52 (標準偏差 0.23) であり、昨年の 4.47 (標準偏差 0.27) より少し上がり、出席率が 90 %以上の学生が 61.4 %、及び 80 %以上の学生が 27.6 %であり出席状況は良好であった。教職科目の履修学生の出席状況は満足できるものと判断できる。
- このことは教員免許を取得し教師を目指すという明確な目標があり、目的意識の高い学生が多いことによると考えられる。しかし、一方、途中で履修を放棄したり、欠席がちな学生も若干みられた。
- I-2 「授業内容についてノートやメモをとるか」についての回答は、昨年度は平均値 4.20 (標準偏差 0.43)、本年度は平均値 4.17 (標準偏差 0.45) であり、昨年より少し下がっている。出席状況と同じく、ノートやメモをとる学生が「90 %以上」及び「80 %以上」の受講者の合計で見ると、昨年には及ばないものの 77 %と高かった。
- I-3 「予習・復習」をするかについては、一昨年度は平均値 2.99 (標準偏差 0.29)、昨年度は平均値 2.92 (標準偏差 0.39)、今年度は平均値 1.70 (標準偏差 0.47) と年々減少傾向にある。学生の大部分が予習・復習をやらずに授業に臨んでいることになる。教職履修学生であることを考えるとこの傾向は深刻である。課題や事前学習を宿題として課すなど授業に工夫を凝らすことが求められている。
- I-4 「受講動機」について、「単位が必要だから」というのが一昨年度は 68.0 %、昨年度が 70.7 %、今年度は 74.4 %と高くなる傾向にある。教職科目は教員免許取得のために単位修得が欠かせない科目が多いためと考える。その他の項目では、「単位修得が楽」が昨年度は 11.5 %、今年度は 12.1 %と若干増えている。「時間帯が空いている」は、昨年度は 13.0 %、今年度は 8.5 %と減っている。
- 一方、「講義への興味」は、一昨年度は 3.3 %、昨年度は 3.8 %、今年度は 3.6 %であった。「教員にひかれて」は、一昨年は 0.4 %、昨年度は 0.9 %、今年度は 1.4 %であったが、教職科目はほとんどの科目が全学部生であり低い傾向は変わらないと考えるが、指導教員の魅力と講義への興味関心を高める工夫と努力が求められていると考える。
- I-5 「質問に行く」は、今年度新たに設定された項目であるが、平均値 1.74 (標準偏差 0.49) であり、ほとんどの学生が行っていない実態がわかる。指導教員は学生とのコミュニケーションを密にして相談等に気軽に応える関係を築くことが必要に

なってくると考える。

## II 授業内容や進め方について

- II-1 「授業の狙いの明確さ」については、一昨年度は平均値 4.23（標準偏差 0.45）、昨年度は平均値 4.04（標準偏差 0.34）、本年度は平均値 4.13（標準偏差 0.35）と、授業の狙いが明確であることを示している。
- II-2 「授業の難易度」については、一昨年度は平均値 3.43（標準偏差 0.23）、昨年度は平均値 3.37（標準偏差 0.24）、本年度は平均値 3.24（標準偏差 0.21）であり、「③ ちょうどよい」という学生（70.4%）がほとんどであったと思われる。
- II-3 「講義要項に沿った授業」は、今年度新たに設定された項目であるが、平均値 4.15（標準偏差 0.31）であり、講義要項に沿って授業がなされていることがわかる。
- II-4 「授業の進度」については、一昨年度は平均値 3.16（標準偏差 0.13）、昨年度は平均値 3.20（標準偏差 0.19）、本年度は平均値 3.09（標準偏差 0.16）と、ここ数年ほぼ同様である。③「どちらとも言えない」が 82.4%であり、ほぼ理解できる進度と思われる。
- II-5 「話し方や声は聞き取りやすいか」では、一昨年度は平均値 4.18（標準偏差 0.39）、昨年度は平均値 4.11（標準偏差 0.41）、本年度は平均値 4.21（標準偏差 0.38）と、高い傾向にある。
- II-6 「教材等の有効性」では、昨年度は平均値 3.97（標準偏差 0.40）、本年度は平均値 4.06（標準偏差 0.38）とわずかではあるが上がっている。教育機器を活用した授業の改善がのぞまれるところである。
- II-7 「学習にふさわしい雰囲気」では、一昨年度は平均値 4.36（標準偏差 0.38）、昨年度は平均値 4.19（標準偏差 0.37）、本年度は平均値 4.28（標準偏差 0.42）となっている。教職課程の授業であり、静謐な教育環境は欠かせない。
- II-8 「宿題・課題が大変」は、今年度新たに設定された項目であるが、平均値 2.68（標準偏差 0.68）であり、「どちらとも言えない」から「そう思わない」の回答が多い結果になった。I-3「予習・復習」と関連する項目であるが、宿題・課題がないので大変でないのか、あっても負担になっていないのか、今後検討を要するようである。
- II-9 「学習内容の理解」では、一昨年度は平均値 4.00（標準偏差 0.44）、昨年度は平均値 3.82（標準偏差 0.35）、本年度は平均値 3.87（標準偏差 0.35）であった。⑤と④の割合が逆転するよう、分かり易く理解しやすい授業を心掛けることが必要である。
- II-10 「ものの見方や考え方が深まる」では、一昨年度は平均値 4.10（標準偏差 0.44）、昨年度は平均値 3.87（標準偏差 0.29）、本年度は平均値 3.95（標準偏差 0.34）でありあまり変化がない。教職課程の履修学生であることを考えるともっと高い平均値がのぞまれる。
- III 「総合的な満足度」は、授業改善にむけての最重要な評価項目であるが、一昨年度は平均値 4.13（標準偏差 0.43）、昨年度は平均値 3.99（標準偏差 0.42）、本年度は平均値 4.15

(標準偏差 0.37) であり昨年度より若干高くなっている。⑤「強くそう思う」が 39.2%、④「そう思う」が 37.9%であり、⑤と④の回答が大多数であり、教職科目の授業に満足している学生が多いことがわかる。今後は、学生全員が満足するような授業を目指して、工夫改善を行うよう心掛けたい。

教職課程科目においては、Ⅱ「授業の内容や進め方について」、今年度は質問項目が若干変更した。Ⅱ－1「授業の狙いの明確さ」、Ⅱ－3「講義要項に沿った授業」、Ⅱ－5「話し方や聞き取り易さ」、Ⅱ－6「教材等の有効性」、Ⅱ－7「学習環境の雰囲気」などは平均値が4以上であり、全体的に見れば授業は適切に行われていると判断できる。

しかし、Ⅰ「受講する姿勢や動機」の3「予習・復習」をするかについては 58.04%の学生が「しない」と答え、5「質問に行く」は 65.9%の学生が「行かない」と答えており、この点の解決如何が今後の授業改善に大きく結びつくものと考えられる。このことを強く意識しながら一層の授業改善に努めたい。

## (2) 社会教育主事講座について

今年度の社会教育主事講座は対象講座が1科目のみであったが、昨年度は対象科目がなかった。

### Ⅰ 受講する姿勢や動機について

Ⅰ－1「学生の出席状況」を見ると、平均値は 4.22 であり、極めて良好である。アンケート当日の出席学生のほとんどが 80%以上の出席率である。

Ⅰ－2「授業内容についてノートやメモをとるか」についての回答は、平均値 3.0 であり、低い結果となっている。

Ⅰ－3「予習・復習」をするかについては、平均値 1.44 とほとんどの学生が予習や復習をしないで授業にのぞんでいる実態があるようだ。

Ⅰ－4「受講動機」について、「単位が必要だから」というのが 63.6%である。社会教育主事講座は資格取得のため受講している学生である。

Ⅰ－5「質問に行く」は、今年度新たに設定された項目であるが、平均値 1.67 でありほとんどの学生は行かないことがわかる。

### Ⅱ 授業内容や進め方について

Ⅱ－1「授業の狙いの明確さ」については、平均値 4.00 であり授業の狙いは多くの学生に理解されていると考える。

Ⅱ－2「授業の難易度」については、平均値 3.00 であり授業内容は適切であったことがわかる。

Ⅱ－3「講義要項に沿った授業」は、今年度新たに設定された項目であるが、平均値 4.33 であり、講義要項に沿って授業がなされていることがわかる。

Ⅱ－4「授業の進度」については、平均値 3.00 であり、学生にとって適正な進度状況であったことが分かる。

Ⅱ－5「話し方や声は聞き取りやすいか」では、平均値 4.44 であり高い評価になっている。

- II-6「教材等の有効性」では、平均値 4.11 でほぼ適切であったと判断できる。
- II-7「学習にふさわしい雰囲気」では、平均値 4.33 で学習環境が良好であったことがわかる。
- II-8「宿題・課題が大変」は、今年度新たに設定された項目であるが、平均値 3.22 で特に負担となるようなことはないようだ。
- II-9「学習内容の理解」では、平均値 3.78 であり、理解できない学生が多くいることになる。授業において一層の工夫改善が必要である。
- II-10「ものの見方や考え方が深まる」では、平均値 4.11 であり適切であったことがわかる。
- III「総合的な満足度」は、授業改善にむけての最重要な評価項目であるが、平均値は 4.11 であり、おおむね学生の多くは授業に満足しているようだ。

社会教育主事講座は資格取得講座であり、学生の目的意識がはっきりしているため授業に対する評価は全体的に高いものがある。しかし、履修学生が極少数のため正当な評価になっていないことも考えられ、今後も一層の工夫改善に努めたい。

### (3) 日本語教員養成基礎講座について

本年度の「授業改善のための学生アンケート」の集計結果をみると、ほとんどの項目において評価が上がっている。教職課程、社会教育主事講座と日本語教員養成基礎講座の 3 講座を比較してみると、I-4 「受講動機」の項目では、教職課程、社会主事講座では「単位が必要」がそれぞれ 74.4 %、63.6 %であるのに対して日本語教員養成基礎講座は 34.2 %となっている。これは、前二者が免許であるのに対して日本語教員養成基礎講座が教員資格認定の講座であるものと思われる。ところが、「時間帯が空いている」を見ると、前者が 8.5 %で、後者が 52.6%となっている。また「講義への興味」を見ると、教職課程、社会教育主事講座が 3.6 %、3.8 %、日本語教員養成基礎講座は 5.3 %とやや高くなっている。このことから日本語教員養成基礎講座の受講者は例年同様、特に強い動機を持って受講しているわけではなく、時間的余裕があるので、外国人に対する日本語教育とは、どのようなものであるのかという未知のものへの好奇心から受けてみようという者が多いのであろう。それゆえ、「予習・復習」をする者も 1.59 と低い評価になっている。また、「教員にひかれて」という項目を見ても、0.0%となっており、おそらく日本語教員養成基礎講座という未知の講座を受講して、教室で初めて講師について知ることになるためであらう。実際、教員の講義内容に対する評価は、非常に高いものとなっている。したがって、今後はさらに学生に広報などで本講座の内容を知ってもらい必要があるだろう。ただ、その他の授業に関する設問はほとんどが 4.0 ~ 4.5 を占めており、他の教科全体が 3.5 ~ 4.0 であることから、全体的に好評価を受けていることがわかる。この評価が今後も維持していくようさらに努力を続けていく必要があるだろう。



## 参考資料－実施要領





## 実施要領

### 1. 目的

教員の授業の改善に役立てること、並びに本学の教育の質の向上を図ること。

### 2. 対象科目

担当科目のうち、履修登録者数の多い科目（原則として履修登録者20名以上のもの）の中から2科目程度を選択し実施する。講師（非常勤）の場合は、1科目以上とする。

専門教育及び教養教育等（教職・社教・日語を含む）の両分野の科目を担当している場合は、それぞれ1科目以上を実施する。

なお、国際学部では、従来どおり原則として全科目を対象に実施する。

### 3. 実施期間：平成24年11月 5日（月） ～ 平成24年12月15日（土）

（予備日：12月17日（月） ～ 12月21日（金））

### 4. 実施科目の届出

教員は、実施届出用紙に必要事項（実施科目、実施日等）を記入し、学務課、八王子学務課、学長事務室のいずれかに提出する。（国際学部開設科目は、原則として全科目を実施対象とするため、届出は不要。）

### 5. アンケート用紙

アンケート用紙は、「講義等科目用」、「スポーツ・トレーニング科目用」、「工学部実験・実習科目用」の3種類とする。（添付のアンケート様式参照）

### 6. 実施当日の手順

（1）アンケート用紙及び回収用封筒を学務課・教員控室等から受け取る。

（2）授業時間の一部（30分程度）を利用し、アンケートを実施・回収する。

アンケートの回収は、受講生個人を特定できないようにするため、受講生の協力を得て行う。外国語学部及び国際学部では、アンケートの実施・回収は原則として受講生によって行う。

（3）回収用封筒に必要事項（アンケート枚数等）を記入し、直ちに学務課・八王子学務課へ提出する。

## 7. 科目別集計表の作成

- (1) 集計作業は、外部の業者に委託する。
- (2) 実施科目については、科目別集計表を作成する。
- (3) 科目別集計表は、担当教員に学生が記入したアンケート用紙（自由意見欄を含む）とともに送付する。

## 8. 実施結果のとりまとめ

- (1) 担当教員は、科目別集計表の「科目別集計結果に対する所見」欄を作成し、学務課、八王子学務課、学長事務室のいずれかに提出する。
- (2) 各学部FD委員会は、実施結果を分析し、報告書にまとめるにあたって、学部、学科、コース、分野等別において授業改善のための意見交換を行い、「今後の課題」の中でいくつかの「具体的な次年度の授業改善取組方針及び実施計画」を掲げる。  
記載項目は、①実施状況（グループ分けの方法を含む）、②実施結果の分析、③今後の課題の3構成で記述し、概ねA判2枚程度（2,000字）とする。
- (3) FD委員会は、実施結果報告書 第I部 全体集計、第II部 科目別集計を作成する。

## 9. 活用方法

- (1) 実施報告書を教員に配布し、教員は自己の授業の改善に役立てる。
- (2) 各学部自己点検・評価委員会（または「FD委員会」）においてアンケートの結果をもとに、組織的に授業改善の方策を検討する。
- (3) 学長は、アンケートの結果をもとに、必要な改善策を検討する。

以 上

## アンケート様式





## 平成24年度学部設問項目

### 1. 政経学部

- IV-1 この授業で使う教室の大きさ、施設・備品などは適切ですか
- IV-2 授業に支障をきたすような私語は無い

### 2. 外国語学部

- IV-1 この授業で使う教室の大きさ、施設・備品などは適切ですか
- IV-2 このクラスの学生数は適切ですか

### 3. 工学部

- IV-1 宿題や課題にどれくらい取り組んでいますか
- IV-2 この授業の内容について、どのくらい質問していますか
- IV-3 この授業で設定している到達目標について、知識や技術が身につきましたか

### 4. 国際学部

- IV-1 授業の開始時間、終了時間は守られている
- IV-2 出欠はきちんととられている
- IV-3 授業中、学生同士の私語はない
- IV-4 1年生は今後進むコースを、2年生以降は所属するコースを選んでください。①国際協力、②国際経済、③国際文化、④国際観光、⑤農業総合

## 平成24年度 「授業改善のための学生アンケート」 スポーツ・トレーニング用

このアンケートは、あなたの授業担当教員が学生諸君と共に授業をより良いものにする目的で実施するものです。建設的な気持ちで、以下の問いにお答えください。

授業科目等	担当教員名
-------	-------

整理番号	授業科目分類コード	教員コード	曜日	時限	期別

※アンケートの回答はすべて5段階で評価して○に黒色の鉛筆で丁寧にぬりつぶしてください。

学年	1年	2年	3年	4年	その他									
	○	○	○	○	○									
学科	経営	国語	会計	法政	経済	英米	中国	スペイン	機械	電子	情工	デザイン	国際	その他
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

● 悪い例      ○ 良い例

【選択肢の凡例】 5：強くそう思う 4：そう思う 3：どちらとも言えない 2：そう思わない 1：全くそう思わない

I	受講する姿勢や動機について	5	4	3	2	1	II-5	話し方や声は聞き取りやすいですか。	⑤	④	③	②	①
I-1	あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。	⑤	④	③	②	①	II-6	教員と学生との友好的なコミュニケーションがありますか。	⑤	④	③	②	①
		90%以上	80%以上	60%以上	40%以上	40%未満	II-7	教員は授業運営に必要なリーダーシップを発揮していますか。	⑤	④	③	②	①
I-2	あなたは自分の健康と運動・栄養・休息に関心を持っていますか。	⑤	④	③	②	①	II-8	この授業は身体活動にふさわしい雰囲気保たれていますか。	⑤	④	③	②	①
I-3	あなたはこの授業でやる気を持って積極的に取り組んでいますか。	⑤	④	③	②	①	II-9	授業の内容はよく理解できましたか。	⑤	④	③	②	①
I-4	この授業を受講した動機はなんですか。最大3つまで挙げてください。(ただし、この科目が必修科目である場合は、回答の必要はありません。) ⑤講義要項を読んで興味を持ったから ④教員にひかれて ③単位が必要だから ②単位取得が高だから ①この時間帯が空いていたから	⑤	④	③	②	①	II-10	この授業のテーマに関する知識あるいは技術が身につきましたか。	⑤	④	③	②	①
							II-11	この授業は学生生活及び健康・体力維持に役立ちましたか。	⑤	④	③	②	①
II	授業の内容や進め方について	5	4	3	2	1	III	総合的に見て、この授業に満足していますか。	⑤	④	③	②	①
II-1	授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。	⑤	④	③	②	①	IV	学部等設問項目	5	4	3	2	1
II-2	授業の難易度はどうですか。 ⑤難しすぎる ④やや難しい ③ちょうど良い ②やややさしい ①やさしすぎる	⑤	④	③	②	①	IV-1	履修したスポーツ種目の選択と内容はあなたの希望にそっていましたか。	⑤	④	③	②	①
II-3	授業の進度はどうですか。 ⑤速すぎる ④やや速い ③ちょうど良い ②やや遅い ①遅すぎる	⑤	④	③	②	①	IV-2	受講した時間帯は適切でしたか。	⑤	④	③	②	①
II-4	説明は分かりやすいですか。	⑤	④	③	②	①	IV-3	次年度以降、あなたの好きな「生涯スポーツ応用演習」(自由科目)を履修したいですか。	⑤	④	③	②	①

自由意見欄 (自由意見欄が不足する場合は、裏面に記入してください)

○この授業で良かった点は、なんですか。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○この授業で改善してほしい点があれば書いてください。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○この教室の環境(アリーナ・グラウンド・トレーニングルーム・更衣室・シャワールームおよび用具<ボール・ラケット等>)について意見や要望があれば具体的に書いてください。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

アンケートへのご協力、ありがとうございました。



## 平成24年度 「授業改善のための学生アンケート」 工学部・実験・実習科目用

このアンケートは、あなたの授業担当教員が学生諸君と共に授業をより良いものにする目的で実施するものです。建設的な気持ちで、以下の問いにお答えください。

授業科目等		担当教員名	
-------	--	-------	--

整理番号	授業科目分類コード	教員コード	曜日	時限	期別

※アンケートの回答はすべて5段階で評価して○に黒色の鉛筆で丁寧にぬりつぶしてください。

学年	1年	2年	3年	4年	その他																
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																
学科	経営	国ビ	会計	法政	経済	英米	中国	スペイン	機械	電子	情工	デザイン	国際	その他							
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							

● 良い例      ○ 悪い例

【選択肢の凡例】 5：強くそう思う    4：そう思う    3：どちらとも言えない    2：そう思わない    1：全くそう思わない

I	受講する姿勢や動機について	5	4	3	2	1	II-3	授業の進度はどうか。 ⑤速すぎる ④やや速い ③ちょうど良い ②やや遅い ①遅すぎる	5	4	3	2	1
		I-1	あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。 90%以上 80%以上 60%以上 40%以上 40%未満	5	4	3			2	1	II-4	説明は分かりやすいですか。	5
I-2	あなたはこの授業のために事前準備を行っていますか。	5	4	3	2	1	II-5	話し方や声は聞き取りやすいですか。	5	4	3	2	1
I-3	あなたはこの授業のレポート作成にまじめに取り組んでいますか。	5	4	3	2	1	II-6	教材等(実験機材・教科書・配付資料・板書・OHP・パワーポイント・ビデオ・模型)は授業内容を理解するのに有効ですか。	5	4	3	2	1
I-4	あなたの受講態度(遅刻状況、授業への集中度、私語の有無などの総合評価)はどうか。 ⑤非常に良かった ④良かった ③普通 ②悪かった ①非常に悪かった	5	4	3	2	1	II-7	教材(実験機材・テキスト・配付資料・OHP・ビデオ・模型など)の使用は適切ですか。	5	4	3	2	1
							II-8	教室内は学習にふさわしい雰囲気に保たれていますか。	5	4	3	2	1
							II-9	授業の内容はよく理解できましたか。	5	4	3	2	1
II	授業の内容や進め方について	5	4	3	2	1	II-10	この授業のテーマに関する知識あるいは技術が身につきましたか。	5	4	3	2	1
II-1	授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。	5	4	3	2	1	II-11	この授業を通じてものの見方や考え方が深まりましたか。	5	4	3	2	1
II-2	授業の難易度はどうか。 ⑤難しすぎる ④やや難しい ③ちょうど良い ②やややさしい ①やさすぎる	5	4	3	2	1	III	総合的に見て、この授業に満足していますか。	5	4	3	2	1

自由意見欄 (自由意見欄が不足する場合は、裏面に記入してください)

○この授業で良かった点は、なんですか。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○この授業で改善してほしい点があれば書いてください。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○この教室の環境(教室の大きさ・エアコン・照明・防音・備品など)について意見や要望があれば具体的に書いてください。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

アンケートへのご協力、ありがとうございました。



## 科目別集計様式



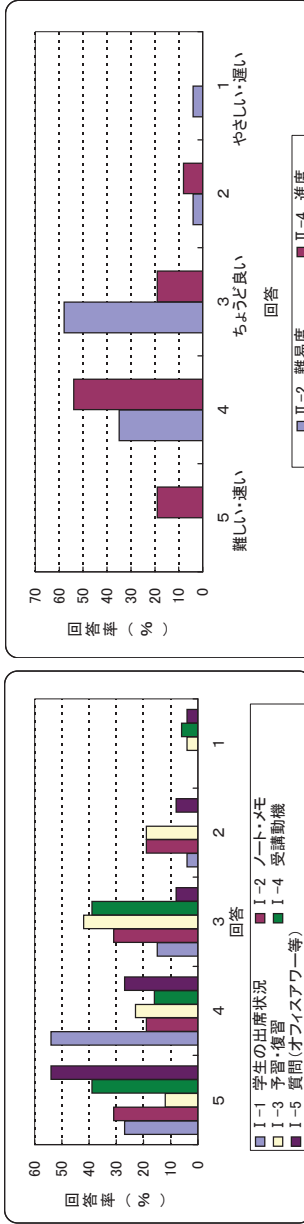
平成24年度「授業改善のための学生アンケート」科目別集計表（講義等科目用）

整理番号	2-9-****	科目名	*****	科目分類	科目コード	55555												
実施年月日	20**/**/**	教室コード	****	キャンパス	*****	****												
学年	1年	2年	3年	4年	その他	国際	その他回答者											
件数	0	0	18	6	2	件数	0	0	0	0	0	0	21	4	10	1	36	66

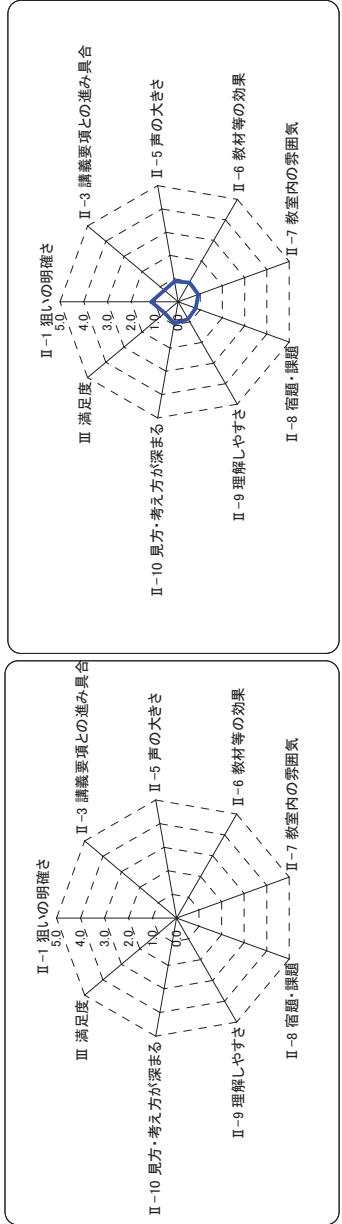
教習項目	有効回答数	エラー件数	5	4	3	2	1	0	標準偏差	全体平均値	注)参照
I-1 学生の出席状況	36	10	7	14	4	1	0	0	27.0	0.8	0.0
I-2 ノート・メモ	36	10	8	5	8	5	0	0	31.0	1.1	0.0
I-3 予習・復習	36	10	3	6	11	5	1	0	12.0	1.0	0.0
I-4 受講動機(複数回答)	36	10	12	5	12	0	2	0	39.0	1.2	0.0
I-5 質問(オプシブアワー等)	36	10	12	5	12	0	2	0	39.0	1.2	0.0
II-1 狙いの明確さ	36	10	14	7	2	2	0	0	54.0	1.1	0.0
II-2 難易度	36	10	0	9	15	0	1	0	0.0	0.7	0.0
II-3 講義要項との進み具合	36	11	7	11	7	0	0	0	28.0	0.8	0.0
II-4 進度	36	10	2	10	13	1	0	0	8.0	0.7	0.0
II-5 声の大きさ	36	11	9	5	5	1	0	0	42.0	0.9	0.0
II-6 教材等の効果	36	11	9	7	8	1	0	0	36.0	0.9	0.0
II-7 教室内の雰囲気	36	10	12	10	2	2	0	0	46.0	0.9	0.0
II-8 宿題・課題	36	10	10	10	6	0	0	0	36.0	0.8	0.0
II-9 理解しやすさ	36	10	5	14	5	2	0	0	19.0	0.8	0.0
II-10 見方・考え方が深まる	36	10	6	15	3	1	1	0	23.0	0.9	0.0
III 満足度	36	10	7	15	3	1	0	0	27.0	0.7	0.0
IV-1 開始・終了時間	36	10	13	6	3	0	0	0	50.0	0.9	0.0
IV-2 出欠確認	36	10	8	14	3	0	1	0	31.0	0.9	0.0
IV-3 私語の有無	36	10	6	15	4	0	1	0	23.0	0.9	0.0
IV-4 コース選択	36	10	6	13	6	1	0	0	23.0	0.8	0.0

注)平均値:授業の出席率が90%以上の学生による回答  
 【選択肢の凡例】 5:強く思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全く思うわない

2. 受講する姿勢や動機について(回答の分布)



3. 授業の出席率が90%以上の学生による回答(平均値)



所属	国際学部	身分	教授	フリガナ
所属コード	140	身分コード	11	担当教員名
<b>科目別集計に対する担当教員の所見</b>				

1. 自由意見欄での主な要望・指摘

2. 科目別集計及び自由意見欄に対する担当教員の所見

3. 改善に向けた今後の取組方針

※字数は問いませんが、各項目の枠内に収まるように記入してください。



平成24年度「授業改善のための学生アンケート」科目別集計表（工学部・実験・実習科目用）

整理番号	2-E-***	科目名	工学実験	科目コード	55555																					
実施年月日	2007/11/31	教室コード	D102	キャンパス	八王子	曜日	月	時限	4	期別	後期	科目分類	05.工学部専門科目(実験実習)	所属コード	150	講師	フリガナ									
学年	1年	2年	3年	4年	その他	学科	経営	国語	会計	法政	経済	英米	中国	アジア	開発	デザ	理工	情報	機械	工工	国際	その他	回答者	履修者		
件数	0	0	18	6	44	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	4	10	3	0	0	0	68

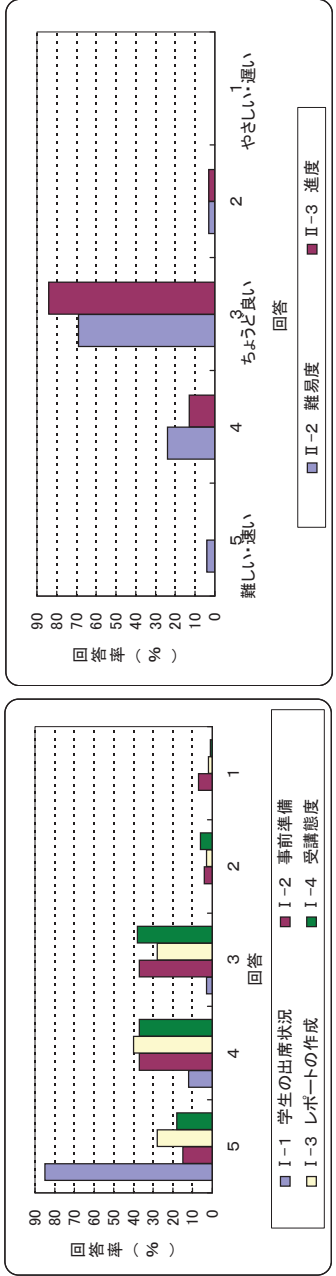
1. 各設問の回答の分布・標準偏差・平均値	設問項目	有効回答数	エラ-件数	5	4	3	2	1	標準偏差	全体平均値	注)参照
I-1	学生の出席状況	68	0	58	8	2	0	0	0.5	4.8	5.0
I-2	事前準備	68	0	10	25	25	3	5	1.0	3.5	3.6
I-3	レポートの作成	65	3	18	26	18	2	1	0.9	3.9	4.0
I-4	理解程度	68	0	12	25	26	4	1	0.9	3.6	3.7
II-1	狙いの明確さ	68	0	27	31	9	1	0	0.7	4.2	4.3
II-2	難易度	68	0	3	16	47	2	0	0.6	3.3	3.3
II-3	進度	68	0	0	3	16	47	2	0.4	3.1	3.1
II-4	説明方法	68	0	21	34	12	1	0	0.7	4.1	4.2
II-5	声の大きさ	67	1	20	34	12	1	0	0.7	4.1	4.1
II-6	教材等の効果	68	0	17	23	24	1	3	1.0	3.7	3.8
II-7	教材の適切性	68	0	18	22	27	0	0.8	3.8	3.9	3.9
II-8	教室内の雰囲気	68	0	14	22	23	8	1	1.0	3.6	3.6
II-9	理解しやすさ	68	0	20	34	13	1	0	0.7	4.1	4.2
II-10	知識・技術が身につく	68	0	25	28	15	0	0.8	4.1	4.1	4.2
II-11	見方・考え方が深まる	68	0	15	33	19	0	1	0.8	3.9	4.0
III	満足度	68	0	28	30	10	0	0.7	4.3	4.3	4.3

注)平均値:授業の出席率が90%以上の学生による回答  
 【選択肢の凡例】 5:強く思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全く思わない

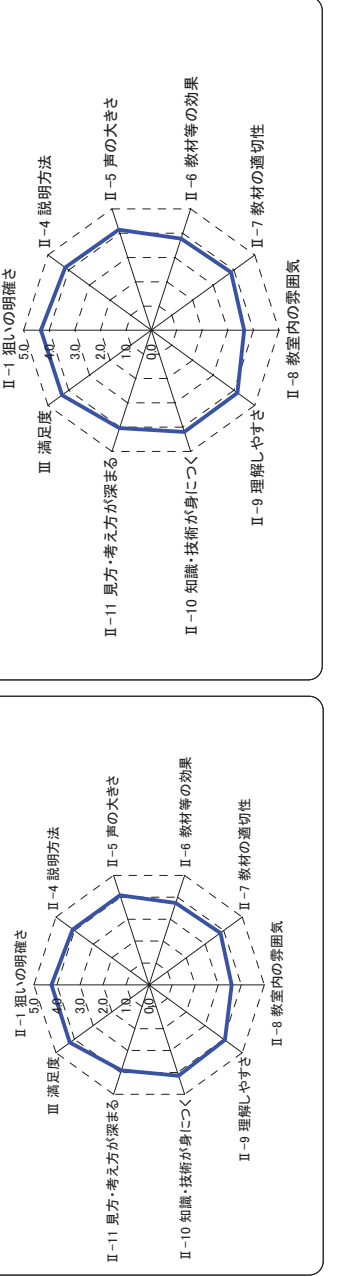
2. 科目別集計及び自由意見欄に対する担当教員の所見

3. 改善に向けた今後の取組方針

3. 授業の内容や進め方  
 1) 難易度・進度(回答の分布)



3. 改善に向けた今後の取組方針



※字数は問いませんが、各項目の枠内に収まるように記入して下さい。

平成24年度  
授業改善のための学生アンケート報告書  
－全体集計－  
第I部

平成25年3月発行

編集・発行 拓殖大学 FD委員会

〒112-8585 東京都文京区小日向3丁目4番14号

電話 03-3947-7299 (学務部 学長事務室)